

<目 次>

I	調査の概要	1
II	教科に関する調査結果の概要	2
III	各教科の結果	
	小学校国語	4
	小学校算数	6
	中学校国語	8
	中学校数学	10
	中学校英語	12
IV	児童生徒質問紙調査結果	
	施策に関わる項目	14
	規範意識、学習の基盤等に関わる項目	15
	クロス集計結果	17
V	各小・中・義務教育学校の結果・考察・改善策について	19

<参考>

平成31年度（令和元年度）佐世保市学力調査及び長崎県学力調査
<佐世保市の結果・改善策等について>



平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果の概要（佐世保市）

I 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 実施日 平成31年4月18日（木）

3 対象 小学校第6学年・義務教育学校前期課程第6学年 中学校第3学年・義務教育学校後期課程第3学年

4 調査方式

※平成19年度から21年度までは悉皆調査で行われ、22年度及び24年度は抽出対象校と希望利用校に分けられ取り組むことになった。23年度は東日本大震災の影響を受けて中止。25年度からは悉皆調査で実施。

5 実施校数及び実施児童・生徒数

	学 校 数	児童・生徒数
小学校及び義務教育学校前期課程	46校／46校	2,197名
中学校及び義務教育学校後期課程	25校／26校	1,914名

6 調査内容

(1) 教科に関する調査

小学校調査・・・国語及び算数 中学校調査・・・国語、数学及び英語

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立てて実践し、評価・改善する力等に関わる内容

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童・生徒に対する調査	学校に対する調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

※調査問題は、次の Web ページから閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/19chousa/19chousa.htm>

Ⅱ 教科に関する調査結果の概要（全国・長崎県との比較）

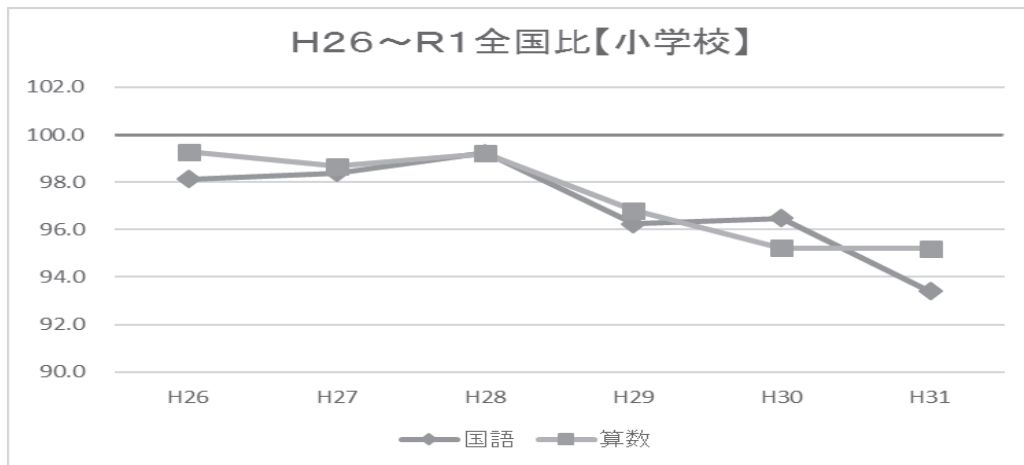
1 小学校及び義務教育学校前期課程

単位：％（平均正答率）

	佐世保市（全国達成率）	H30 全国達成率	H31 長崎県	H31 全国
国語	60（93.4）↓	96.5	61	63.8
算数	63（95.2）→	95.2	65	66.6

※矢印は今年度と昨年度の全国比の比較

全国比の経年比較（国の平均正答率を 100 とした時の割合）



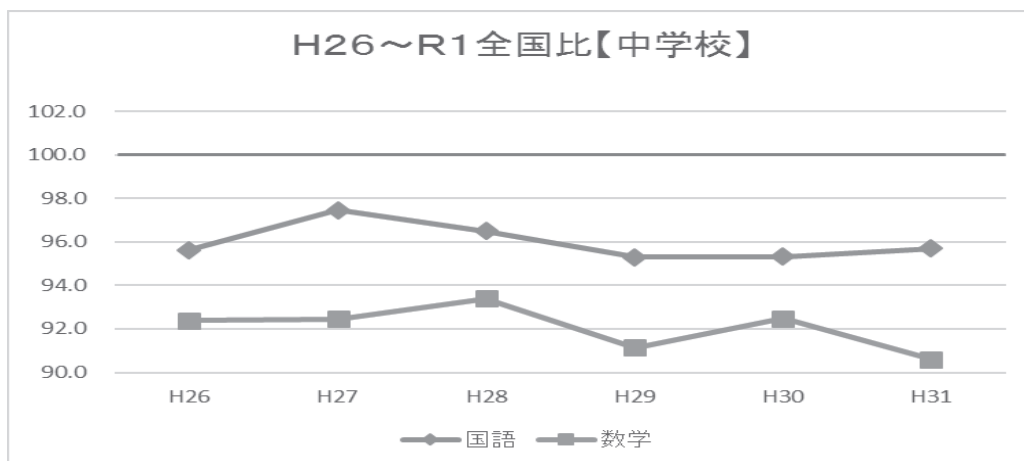
2 中学校及び義務教育学校後期課程

単位：％（平均正答率）

	佐世保市（全国達成率）	H30 全国達成率	H31 長崎県	H31 全国
国語	70（95.7）↑	95.3	73	72.8
数学	54（90.6）↓	92.5	60	59.8
英語	51（90.5）	未実施	54	56.0

※矢印は今年度と昨年度の全国比の比較

全国比の経年比較（国の平均正答率を 100 とした時の割合）



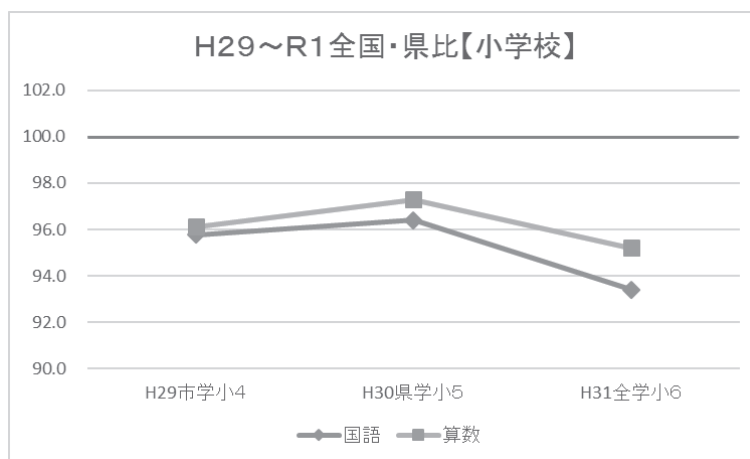
3 H31（R1）年度 同一児童生徒の経年比較

(1) 小学校及び義務教育学校前期課程 単位：％（達成率）

	H29 市学（小4）	H30 県学（小5）	H31 全学（小6）
国語	95.8	96.4	93.4
算数	96.1	97.3	95.2

※全学・市学は国、県学は県との比較

全国・県比の経年比較（国・県の平均正答率を100とした時の割合）

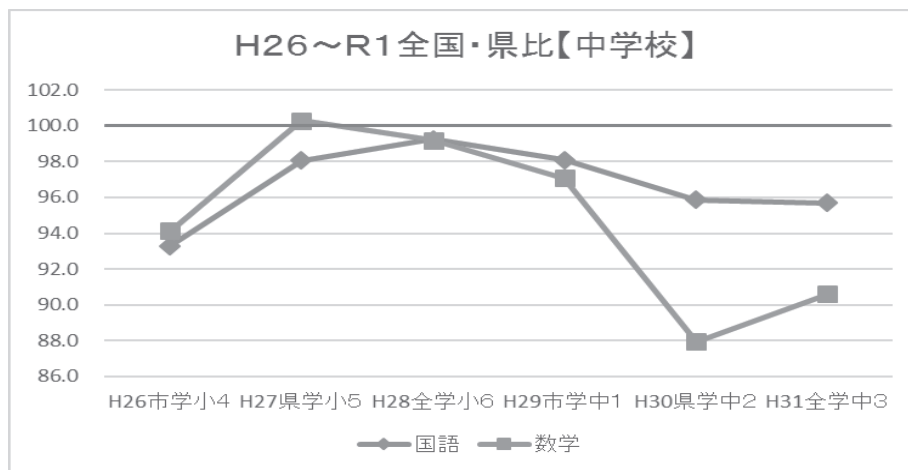


(2) 中学校及び義務教育学校後期課程 単位：％（達成率）

	H26 市学 （小4）	H27 県学 （小5）	H28 全学 （小6）	H29 市学 （中1）	H30 県学 （中2）	H31 全学 （中3）
国語	93.3	98.1	99.2	98.1	95.9	95.7
数学	94.1	100.3	99.2	97.1	87.9	90.6

※全学・市学は国、県学は県との比較

全国・県比の経年比較（国・県の平均正答率を100とした時の割合）

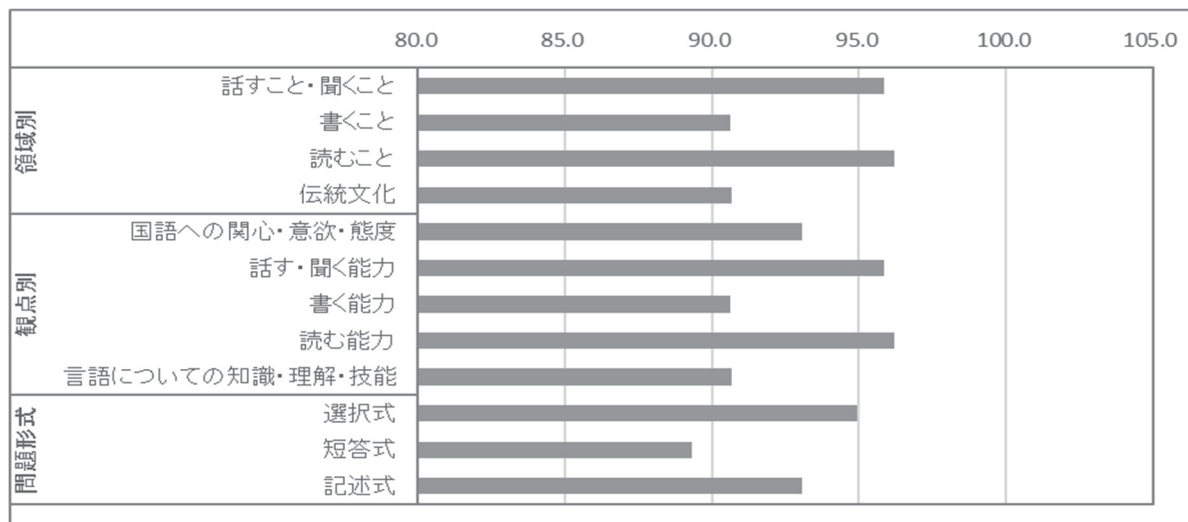


Ⅲ 各教科の結果

1 小学校 国語

(1) 領域別観点別等全国比達成率（全国平均正答率を100と見たときの割合）

※達成率＝（佐世保市平均÷全国平均）×100



(2) 平均正答率が比較的高い主な設問の趣旨 ※上段は市（全国との差）、下段は全国
※全国との比較で平均正答率が高い問題及び平均正答率が高い問題

問題番号	主な設問の趣旨	平均正答率
2二	目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む	87.3 (-1.2)
		88.5

(3) 平均正答率が比較的低い設問の趣旨と無解答率 ※上段は市（全国との差）、下段は全国
※全国との比較で平均正答率が低い問題及び平均正答率が低い問題

問題番号	主な設問の趣旨	平均正答率	無解答率
1一	図表やグラフなどを用いた目的を捉える	65.1 (-6.1)	0.6
		71.2	0.5
1三	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く	23.8 (-5.0)	3.7
		28.8	3.8
1四 (1)イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う（かぎらず）	61.8 (-7.6)	14.2
		69.4	12.1
1四 (1)ウ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う（かんしん）	28.7 (-6.9)	4.9
		35.6	4.9
2一(2)	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む	71.3 (-4.6)	4.8
		75.9	5.0

(4) 改善策

- 漢字を確実に習得させるために、例えば、成り立ちや用例などについて理解が深まるような練習の仕方を指導する工夫がどの学年においても求められる。「漢字の読み書き」は、単元で扱う時の指導を踏まえて、物語文や説明文を読む時や生活の中で繰り返し確認することで、習得し活用できるように指導する。
- 単元で身に付けさせたい資質・能力を見極め、重点事項を絞って設定して確実に指導し、力を身に付けさせたい。新学習指導要領では、「言語活動を通して」資質・能力を育成することが求められている。重点事項を確実に身に付けることができる質の高い言語活動を設定し指導する。
- 「書くこと」における「目的や必要に応じて理由や事例をあげて文章を書く力」は、1時間の授業の中だけでなく、1年間の各単元の学びの中で意図的・計画的に育みたい力である。また、他の教科においても根拠を示しながら自分の考えを書く活動を積極的に取り入れたり、書く力を高めるために教科横断的な授業を構想したりするなど、実態と学びを適切につなげて指導する。

(5) 平均正答率が比較的低い設問

1

高橋さんの学級では、生活の中で気になったことを調べ、友達に報告することにしました。高橋さんは、公衆電話について調べています。次は、高橋さんが書いている「報告する文章」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。



公衆電話について

高橋 めぐみ

1 はじめに

先日外出したときに、家に電話をかけようと近くの店に行くつもりだったはずの公衆電話がなくなっていて、こままってしまいました。また、よく行く公園の公衆電話も、いつの間にかなくなっていました。わたしは、公衆電話の数が減っているのではないかと思いい、町の公衆電話の数を調べてみることにしました。それをまとめたものが「資料1」です。平成二十年度から二十九年度までの十年間で、約半分にまで減っていることが分かりました。そこで、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうのかどうか調べてみることにしました。

2 調査の内容と結果

(1) 公衆電話はどのようなときに必要なのか
 多くの人が「けいたい電話を持って中々、公衆電話が必要とされているのかどうかを調べてみることにしました。」
 そこで、地いきの人三十人を調査の「アたいしゅう」として、公衆電話が必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が「必要だと回答しました。その理由をまとめたものが「資料2」です。「けいたい電話をわすれたときに必要」「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答がありました。
 このことから、公衆電話は、主に「けいたい電話を使うことができないときに必要とされている」ということが分かりました。

(2) 公衆電話にはどのような使い方があり、公衆電話には、公衆電話について書かれた資料を調べてみると、公衆電話には、次のような使い方がありました。
 ・警察署(110番)や消防署(119番)には、硬貨やテレホンカードがなくとも通報することができます。
 ・停電のときでも、硬貨を使って通話することができます。
 ・電話が混み合っているときでも、優先的につながりやすい。
 このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができるということが分かりました。

(3) 公衆電話はどのような場所にあるのか
 公衆電話を必要とするときに使うことができるようにするために、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしたちが公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。実際に町を歩いてまとめたものが「資料3」です。
 この資料から、公衆電話は、主に病院や学校、駅などの多くの人が集まる場所にあるということが分かりました。
 調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうわけではないと考えました。なぜなら、

3

また、公衆電話を使いたいときには、多くの人が集まる場所へ行けば見つけやすいのではないかと、いうことも考えました。今回の調査を通して知ったことを、学級の友達に、かぎらず多くの友達に伝え、公衆電話について、ウかんしんをもってもらいたいと思います。

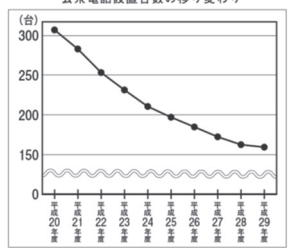
(資料3) 公衆電話の設置場所を示した地図



(資料2) 公衆電話が必要な理由のまとめ(複数回答)

けいたい電話をわすれたときに必要	22人
けいたい電話の電池が切れたときに必要	12人
けいたい電話の使用が禁止されている場所にいるときに必要	5人
けいたい電話の電波がとどかない場所にいるときに必要	4人
けいたい電話や家の電話がつながりにくいときに必要	3人
その他	5人

(資料1) 公衆電話設置台数の移り変わり



「高橋さんは、「報告する文章」で「資料2」と「資料3」を、それぞれのようない目的で用いていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から5までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 現在と過去の様子を並べて示し、二つのちがいを伝えるため。
- 2 内容ごとに分類して示し、大まかな持ちようを伝えるため。
- 3 年度ごとの数値をグラフで示し、移り変わりを伝えるため。
- 4 記号や印などを使って示し、実際の位置を伝えるため。
- 5 説明したい場所やものを写真で示し、実際の様子を伝えるため。

三 高橋さんは、「3 調査の結果をもとに考えたこと」の [] に「2 調査の内容と結果」の (1) と (2) で分かったことをまとめて書いています。 [] に入る内容を、次の条件に合わせて書きましよう。

〈条件〉

- 「2 調査の内容と結果」の (1) と (2) の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 「報告する文章」にふさわしい表現で書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、四十文字以上、七十文字以内まとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましよう。
 ※◆の印から書きましよう。どちらうで行を変えないで、続けて書きましよう。

調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまうたわけではないと考えました。

なぜなら、◆

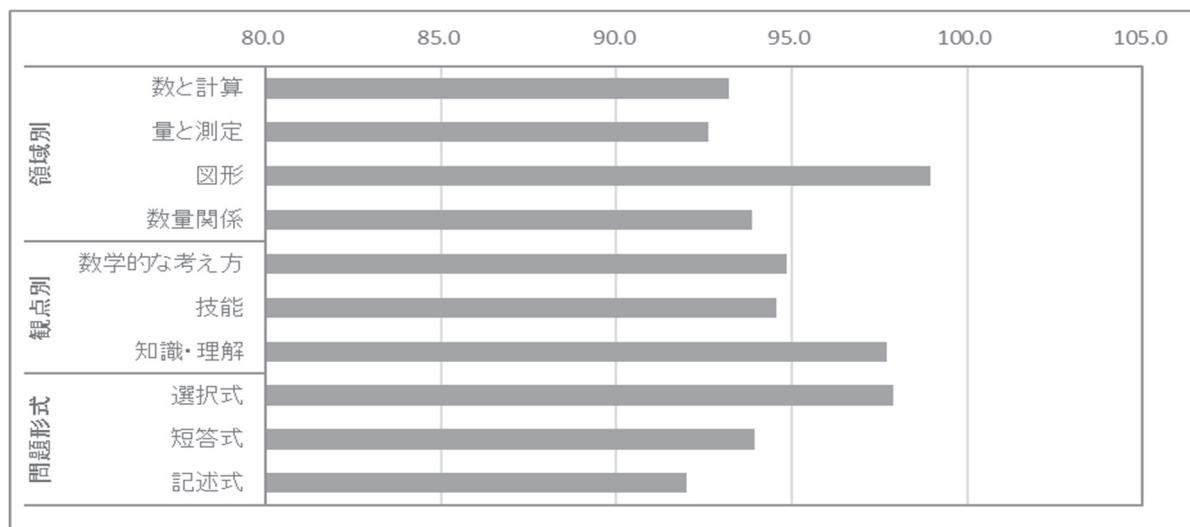
70字

40字

2 小学校 算数

(1) 領域別観点別等全国比達成率（全国平均正答率を100と見たときの割合）

※達成率＝（佐世保市平均÷全国平均）×100



(2) 平均正答率が比較的高い主な設問の趣旨 ※上段は市（全国との差）、下段は全国
※全国との比較で平均正答率が高い問題及び平均正答率が高い問題

問題番号	主な設問の趣旨	平均正答率
1(1)	台形について理解している	94.6 (+1.5)
		93.1
2(1)	棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる	94.7 (-0.5)
		95.2

(3) 平均正答率が比較的低い設問の趣旨と無解答率 ※上段は市（全国との差）、下段は全国
※全国との比較で平均正答率が低い問題及び平均正答率が低い問題

問題番号	主な設問の趣旨	平均正答率	無解答率
2(2)	水の使用量の棒グラフから、指定された年度の使用量を比較し、何倍かを読み取ることができる	70.9 (-7.7)	1.2
		78.6	1.0
2(3)	資料の特徴や傾向を関連付けて一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる	45.7 (-6.4)	2.2
		52.1	2.0
3(2)	示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる	27.6 (-3.5)	9.5
		31.1	10.8
3(4)	示された除法の式の意味を理解している	42.3 (-4.7)	2.3
		47.0	2.2
4(2)	示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる	63.4 (-5.2)	5.0
		68.6	4.4

(4) 改善策

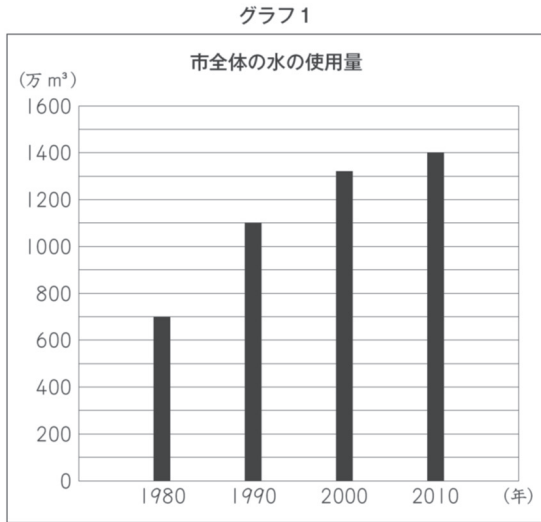
- 除法の意味理解に課題がある。これが、割合や単位量当たりの大きさの課題につながっていると考えられる。第2学年の乗法から、基準量（一つ分の数）、比較量（全部の数）、割合（いくつ分・倍）の意味理解の定着を図る必要がある。乗法・除法の学習において、図等を使って視覚的に理解を深めるとともに、既習内容（図も含めて）と関連付けし、学びのつながりを意識させることと、子供が書いている式や答えが何を意味しているのかを問い直し、繰り返し意味を考えさせることが大切である。
- 複数の情報から必要な情報を選択したり、関連付けながら考えたりすることに課題がある。問題を解決する際に、使った数や式の意味を意識させるとともに、単元計画において、複数の情報を示した問題を提示したり、学んだことを生活や他の学習の中で活用するような場面を設定したりするなど、単元の学びと、既習内容や他の場面をつなげるような工夫が必要である。

(5) 平均正答率が比較的低い設問

2

かいとさんたちは、水を大切に使っているのを知りたいと思い、まず、自分たちの住んでいる市では、水をどのくらい使っているかを調べています。かいとさんは、グラフ1を見つけました。

(2) グラフ1の、2010年の市全体の水の使用量は、1980年の市全体の水の使用量の約何倍ですか。
答えを書きましょう。



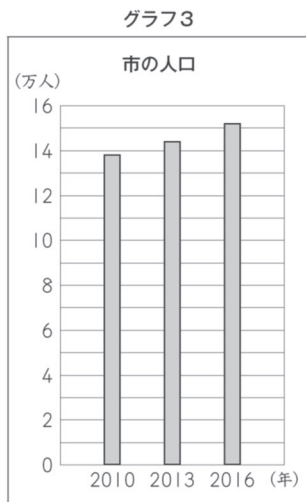
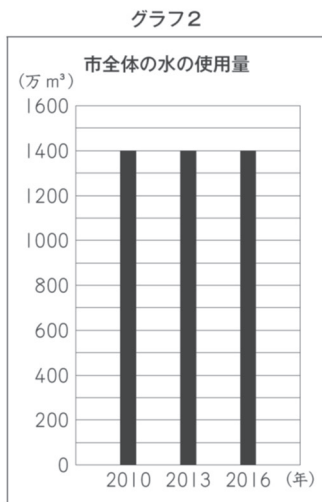
(3) 次に、かいとさんたちは、市全体の水の使用量には、人口が関係しているのではないかと思います、グラフ2とグラフ3を見つけ、2つのグラフをもとに考えています。

あやのさんが言うように、グラフ2とグラフ3を見ることで、2010年から2016年までの1人あたりの水の使用量についてわかることがあります。

2010年から2016年までの、3年ごとの1人あたりの水の使用量について、どのようなことがわかりますか。

下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、グラフ2とグラフ3からわかることをもとに、言葉や数を使って書きましょう。



- 1 1人あたりの水の使用量は、減っている。
- 2 1人あたりの水の使用量は、変わらない。
- 3 1人あたりの水の使用量は、増えている。
- 4 1人あたりの水の使用量は、増えたり減ったりしている。



わたし
私たちは、水を大切に使っているといえるのでしょうか。



市全体の水の使用量はわかりますが、1人で水をどのくらい使っているのかはわかりません。

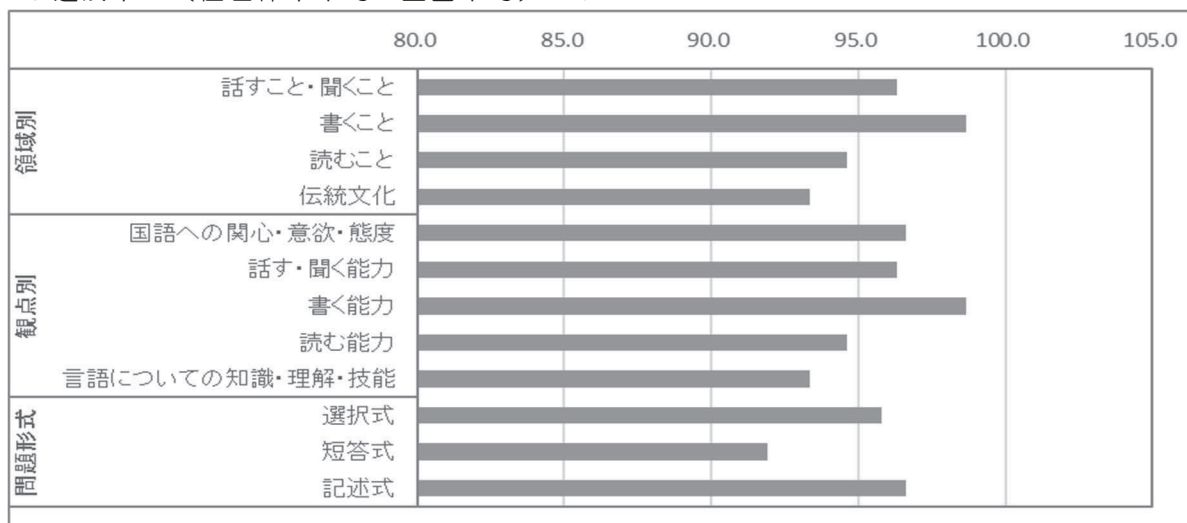


グラフ2とグラフ3を見ることで、1人あたりの水の使用量についてもわかります。

3 中学校 国語

(1) 領域別観点別等全国比達成率（全国平均正答率を100と見たときの割合）

※達成率＝（佐世保市平均÷全国平均）×100



(2) 平均正答率が比較的高い主な設問の趣旨 ※上段は市（全国との差）、下段は全国
※全国との比較で平均正答率が高い問題及び平均正答率が高い問題

問題番号	主な設問の趣旨	平均正答率
1三	文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ	91.2 (±0)
		91.2
3一	書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する	89.2 (+1.8)
		87.4

(3) 平均正答率が比較的低い設問の趣旨と無解答率 ※上段は市（全国との差）、下段は全国
※全国との比較で平均正答率が低い問題及び平均正答率が低い問題

問題番号	主な設問の趣旨	平均正答率	無解答率
1四	封筒の書き方を理解して書く	52.2 (-4.6)	5.9
		56.8	5.6
1二	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える	54.6 (-6.9)	0.2
		61.5	0.1
2三	話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ	56.8 (-3.6)	10.4
		60.4	8.9

(4) 改善策

- 知識として理解する（インプット）だけで終わるのでなく、知識を活用する場面（学習活動）を授業に設定することで、知識を定着させるとともに活用する力を伸ばしていく必要がある。
- 複数の情報から読解したり、読み取った情報を効果的に生かしながら表現したりする活動を取り入れた単元を通して、子供たちが様々な形の読解に明確な目的意識を持って取り組みながら力を伸ばしていく必要がある。（読解に必然性や視点をもたせ、読解活動と表現活動が密接に関係する学習に取り組むことで、表現力も読解力も高めていく必要がある。）

(5) 平均正答率が比較的低い設問

場面②

この前、インターネットのニュースを見て、高齢者の中には少しの段差でも歩きづらいつ感じたり、段差に気付かず驚いたりしている方がいることを知りました。文化祭には、毎年、高齢者がたくさんいらっしゃいます。ですから、体育館へ向かう通路などに、「段差に気を付けてください。」と書いた紙を掲示してはどうでしょうか。

倉田さん 西野さん 山下さん

ネットにそのようなニュースが出ていますね。掲示物で注意を促すのはよいアイデアだと思います。そういえば、校内に「土足禁止」という掲示物がありますが、展示や発表を見に来てくださる方に対する言葉の使い方としては、ふさわしくないと思います。別の表現にしてはどうでしょうか。

そうですね。段差への注意を促す掲示物を作ることにしましょう。「土足禁止」をどのような表現に直すのかについては、話し合わないといけないですね。以前から、私も気になっていました。

山下さんも気になっていたのですね。それに、例年、展示や発表の場所が校内に点在しているので、見て回る経路の例を示した紙を配るとよいと思います。

倉田さん 西野さん 山下さん

賛成です。展示や発表の場所は美術室や体育館など校内のあちこちにあるので、長い距離を移動することに負担を感じる方がいると思います。具体的な経路の例は、展示や発表の場所が決まってから検討しましょう。それでは、今日の話し合いはここまでですね。

ちょっと待ってください。具体的な経路のことについては倉田さんの言うとおりでと思いますが、今回出されたことの中で、まだ、どうするか決まっていないことがあります。

A

場面③

二 展示や発表を見に来てくださる方への配慮

一 生徒会が地域で行っていることについての展示

・高齢者向けの施設での交流会の様子

・地域の清掃活動の様子

〈議題〉
地域とのつながりを大切にした文化祭にするために

倉田さん 西野さん 山下さん

「生徒会が地域で行っていることについての展示」は、この二つにします。次は、「展示や発表を見に来てくださる方への配慮」について考えましょう。

2 第一中学校の生徒会役員の山下さんたちは、「地域とのつながりを大切にしたい文化祭にするために」という議題で話し合っています。次は、「話し合いの一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。(場面①から場面③は、連続した場面です。)

話し合いの一部

三 場面③の A で山下さんは、「どうするか決まっていないこと」について自分の考えを述べようとしています。あなたなら、どのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないこと」とは何かを明確にして書くこと。

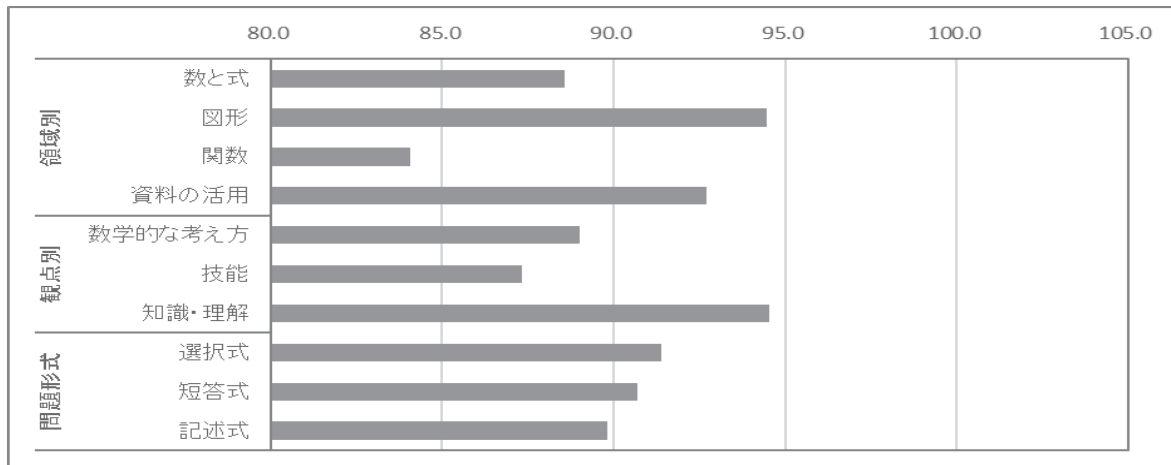
条件2 条件1で示した「どうするか決まっていないこと」を解決する具体的な案を考えて書くこと。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

4 中学校 数学

(1) 領域別観点別等全国比達成率（全国平均正答率を100と見たときの割合）

※達成率＝（佐世保市平均÷全国平均）×100



(2) 平均正答率が比較的高い主な設問の趣旨 ※上段は市（全国との差）、下段は全国
※全国との比較で平均正答率が高い問題及び平均正答率が高い問題

問題番号	主な設問の趣旨	平均正答率
3	平行移動の意味を理解している	83.5 (-0.1)
		83.6

(3) 平均正答率が比較的低い設問の趣旨と無解答率 ※上段は市（全国との差）、下段は全国
※全国との比較で平均正答率が低い問題及び平均正答率が低い問題

問題番号	主な設問の趣旨	平均正答率	無解答率
2	簡単な二元一次方程式を解くことができる	58.5 (-11.6)	8.1
		70.1	5.1
5	簡単な場合について、確率を求めることができる	64.9 (-7.9)	6.5
		72.8	3.3
6 (1)	グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができる	31.9 (-6.9)	0.5
		38.8	0.3
6 (2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	27.1 (-7.6)	12.2
		34.7	11.6
7 (3)	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	44.1 (-9.2)	21.9
		53.3	17.6
9 (1)	与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる	48.2 (-9.2)	12.8
		57.4	9.5

(4) 改善策

- 小学校や前学年までの既習事項（内容）の定着が図られていない。そのため、本市や自校の分析結果をもとに、確実に振り返りをする必要がある。定期考査と同じく、不十分な点はやり直しを行い、定着の程度を再度確認する場面を設定することが必要である。
- 答えを求めるだけでなく、どのようにして求めたのかという「過程」や何を基に考えたのかという「根拠」を明確にさせ、自分の考えを相手に伝える活動を授業の中に取り入れて指導する。
- 単元構想をしっかりと熟慮し、生徒に付けさせたい力を明確にする。1時間1時間だけを考えるのではなく、単元のゴールを見据え、本時の授業構想を練り上げ、生徒に明確な目的意識を持たせた授業を行う。
- 全国学力状況調査で取り扱われている問題を授業の中で題材として取り入れる。特に生活の中で活用している問題は大変参考になる。また、問題文が長くなり、情報が過多になると的確に読み取ることができないことから、普段の授業から複数の情報を整理する場面を意識的に設定して指導する。

(5) 平均正答率が比較的低い設問

2 連立方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解きなさい。

6 健太さんの家では、冷蔵庫の購入を検討しています。健太さんは、冷蔵庫A、冷蔵庫B、冷蔵庫Cについて調べたことを、次のような表にまとめました。

健太さんが作った表

	冷蔵庫A	冷蔵庫B	冷蔵庫C
容量	400 L	500 L	500 L
本体価格	80000 円	100000 円	150000 円
1年間あたりの電気代	15000 円	11000 円	6500 円

健太さんは、冷蔵庫A、冷蔵庫B、冷蔵庫Cについて、使用年数に応じた総費用を考えることにしました。そこで、それぞれの冷蔵庫において、1年間あたりの電気代は常に一定であるとし、次の式で総費用を求めることにしました。

$$(\text{総費用}) = (\text{本体価格}) + \left(\frac{\text{1年間あたりの電気代}}{\text{電気代}} \right) \times (\text{使用年数})$$

例えば、冷蔵庫Aを購入して3年間使用するときの総費用は、 $80000 + 15000 \times 3 = 125000$ となり、125000 円です。

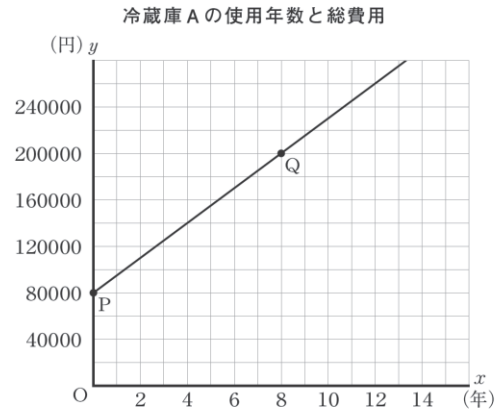
(2) 健太さんの家では、7ページの健太さんが作った表で、容量が500 Lである冷蔵庫Bと冷蔵庫Cのどちらかを購入することになりました。そこで、健太さんとお姉さんは、冷蔵庫を購入して x 年間使用するときの総費用を y 円として、冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用を比べてみることにしました。

健太さん 「本体価格は冷蔵庫Cの方が高いので、最初のうちは冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が多いね。」
 お姉さん 「1年間あたりの電気代は冷蔵庫Cの方が安いので、使い続けると冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が少なくなるね。」
 健太さん 「それなら、2つの冷蔵庫の総費用が等しくなるときがあるね。」

冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなるおよその使用年数を考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明しなさい。
 ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。

- ア それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表す式
- イ それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表すグラフ

(1) 冷蔵庫Aを購入して x 年間使用するときの総費用を y 円とします。この x と y の関係を、健太さんは次のような一次関数のグラフに表しました。



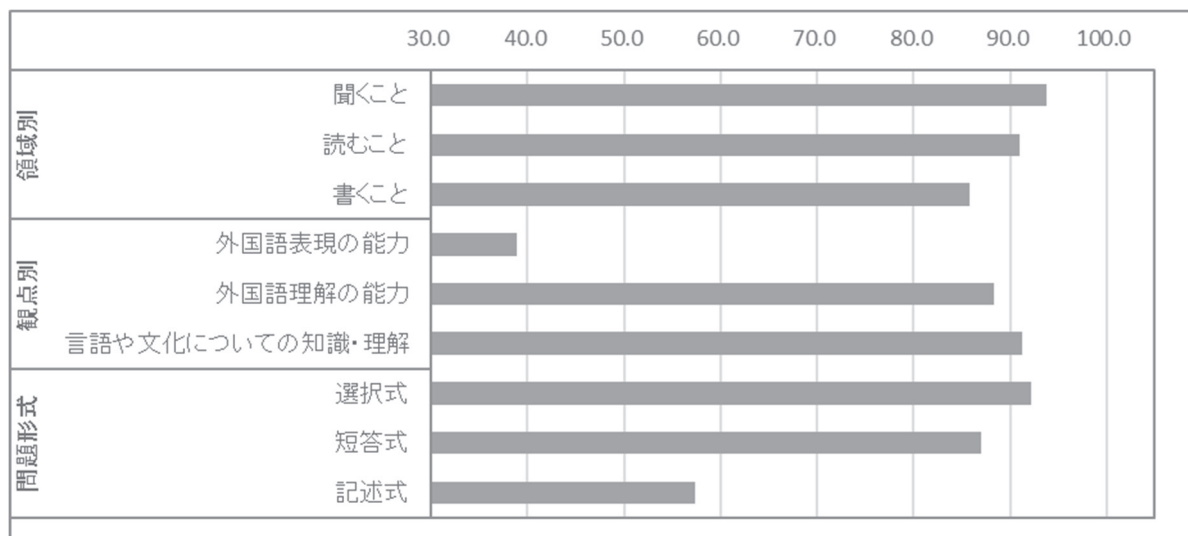
このグラフにおける x 座標が0である点をP、 x 座標が8である点をQとします。点Pの y 座標と点Qの y 座標の差は、冷蔵庫Aについての何を表していますか。下のアからオまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア 本体価格
- イ 使用年数
- ウ 1年間あたりの電気代
- エ 購入してから8年間の電気代
- オ 購入して8年間使用するときの総費用

5 中学校 英語

(1) 領域別観点別等全国比達成率（全国平均正答率を100と見たときの割合）

※達成率＝（佐世保市平均÷全国平均）×100



(2) 平均正答率が比較的高い主な設問の趣旨 ※上段は市（全国との差）、下段は全国
※全国との比較で平均正答率が高い問題及び平均正答率が高い問題

問題番号	主な設問の趣旨	平均正答率
1 (1)	話と話の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができる	91.6 (+0.5)
		91.1

(3) 平均正答率が比較的低い設問の趣旨と無解答率 ※上段は市（全国との差）、下段は全国
※全国との比較で平均正答率が低い問題及び平均正答率が低い問題

問題番号	主な設問の趣旨	平均正答率	無解答率
4	聞いて把握した内容について、適切に応じることができる	3.8 (-3.8)	50.0
		7.6	42.3
8	書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる	7.3 (-3.6)	35.8
		10.9	27.9
9 (1) ②	文の中で適切に接続詞を用いることができる	44.6 (-13.6)	1.0
		58.2	0.5
9 (2) ②	一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる	20.7 (-8.2)	19.6
		28.9	12.6
9 (3) ③	与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる	28.9 (-8.5)	15.2
		37.4	10.5

(4) 改善策

- 既習事項の文法事項を使うなど、これまでの学びを生かす場面設定を工夫する。特に、ウォームアップにおいては、体調や天候などを単調に問うことにとどまらず、特に定着が不十分である過去時制・3人称単数現在時制否定文・接続詞を意図的に使う場面を設定する。
- ペア活動や発表等においては、目的、場面、状況を明確にしたうえで、相手意識を重視しながら、即興で話すコミュニケーション活動を取り入れる。
- 普段から日常的・社会的な問題についての短い英作文に取り組みさせるなど、自分の考えや気持ち、その理由などを書く活動を継続的に取り入れる。
- 県や全国学力調査を参考に、評価（パフォーマンステストや定期テスト等）の在り方を工夫する。

(5) 平均正答率が比較的低い設問

- 8** 英語の授業で、次のような資料が配られました。これを読んで、文中の問いかけに対するあなたの考えを英語で簡潔に書きなさい。

There are a lot of hungry people in the world. The World Food Programme gives food to about 90,000,000 people in 83 countries. Japan is a member of this project. However, here in Japan, people waste more than 6,000,000t of food every year. It means that one person wastes two rice balls every day. We waste food not only at home, but also at restaurants, convenience stores, supermarkets, schools, and some other places. That is really *mottainai*! We have to stop wasting food now. What can we do about this problem?

9

(1) 次の①, ②について、() 内に入れるのに最も適切な語を、それぞれ1から4までの中から1つ選びなさい。

- ② I saw a friend of mine at the station, () I had no time to talk to him.

1 if 2 or 3 but 4 because

(3) 次の表の①から③は、ある女性に関する現在の情報を示しています。これらの情報を用いて、彼女について説明する英文をそれぞれ書きなさい。

③	ペット (pet) の有 (○) 無 (×)	×
---	------------------------	---

Ⅳ 児童生徒質問紙調査結果

1 施策に関わる項目における肯定的意見の割合

上段：佐世保市 下段：全国達成率

国より2ポイント以上

国より2ポイント以下

施策	質問番号	質問事項	小学校			中学校		
			R1	H30	H29	R1	H30	H29
心の教育のさらなる充実	(5)	自分には、よいところがあると思いますか	79.3	86.7	79.8	75.8	78.8	71.8
			97.7	103.2	103.8	102.3	103.8	101.6
	(6)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	86.3	84.8	88.1	82.6	83.1	80.4
			100.2	99.4	102.4	101.3	101.1	100.0
	(16)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.2	95.1	91.6	95.8	95.8	92.8
			100.0	99.9	99.0	101.6	100.9	99.0
(14)	人が困っているときは、進んで助けていますか	85.8		85.1	84.7		81.8	
		97.6		99.8	98.6		96.9	
<ul style="list-style-type: none"> ・教師がよいところを認めてくれていると捉えている子供の割合は高いが、自尊心が低い傾向にある。人に認められるとともに子供自身が自分のよさを実感することが必要である。 ・人の役に立つ人間になりたいという項目は、依然として高い傾向にある。 								
コミュニケーション能力の向上	(4)	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか	75.4	80.1	76.8	78.8	79.7	73.4
			97.4	99.5	98.3	103.1	104.9	98.8
	(36)	前学年までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	55.8	55.4	59.9	50.9	50.0	54.0
			89.3	90.8	92.3	91.2	92.9	93.3
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での会話について、中学校は全国よりも高いが、小学校は、全国よりも低く、昨年度と比較しても下降傾向にある。 ・自分の考えを発表する際に、分かりやすく伝えるという意識が低い。相手意識をもたせることと、自分の発表を振り返る機会を大切にしたい。 								
子供の居場所づくり	(12)	学校に行くのは楽しいと思いますか	84.9		86.8	83.7		84.2
			99.0		100.6	102.2		104.1
	(23)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	67.8	64.1	67.6	48.1	40.7	37.5
			99.7	102.2	108.0	95.1	89.3	89.1
<ul style="list-style-type: none"> ・8割以上の子供が学校に行くことが楽しいと思っている。楽しくないと思っている子供への対応が必要である。 ・地域の行事への参加は、小学校が7割近いが、中学校が5割をきっており、全国よりも低い傾向にある。 								
関係機関と連携を図る (学校質問紙)	(56)	保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか	100	100	100	96.0	96.1	96.1
			102.2	102.4	101.4	106.2	106.3	98.6
	(57)	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、(56)の質問にあるような保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	86.9	78.3	100	80.0	77.0	92.3
			109.7	107.6	112.7	118.5	126.9	119.3
	(58)	(56)の質問にあるような保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか	97.8	100	100	100	88.5	92.3
102.3			104.8	102.8	109.3	99.9	98.5	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者の方々の学校への協力等は、全国と比較しても高く、ほとんどの学校が、それらによる効果を感じている。 								

2 規範意識、学習の基盤等に関わる項目における肯定的意見の割合

上段：佐世保市

下段：全国達成率

国より2ポイント以上

国より2ポイント以下

	質問番号	質問事項	小学校		中学校	
			R1	H30	R1	H30
規範意識・自尊感情	(8)	将来の夢や目標を持っていますか	82.9	85.9	72.5	72.0
			98.9	100.9	102.8	99.4
	(13)	学校のきまりを守っていますか	90.2	87.6	95.0	94.3
			97.7	97.9	98.8	99.2
	(15)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.1	96.9	96.8	95.9
			100.0	100.1	101.8	100.4
<ul style="list-style-type: none"> 将来の夢や目標を持っている子供の割合が、小学校は8割以上と高く、中学校は全国よりも高い。 いじめは、いけないことだという意識が高い。 						
家庭学習・読書習慣	(17)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	66.7	66.4	50.0	51.0
			93.3	98.2	99.2	97.9
	(18)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（1時間以上）	65.1	65.6	66.2	64.1
			98.5	99.1	94.8	90.8
	(19)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（30分以上）	37.7	39.4	28.2	31.6
			94.3	95.9	104.4	105.7
	(20)	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか（月1回以上）	43.6		22.7	
107.7				111.3		
(21)	読書は好きですか	72.9		66.3		
		97.2		97.5		
<ul style="list-style-type: none"> 小学校では、計画に学習する児童の割合が、中学校においては、1日あたりの1時間以上勉強する生徒の割合が、全国よりも低い。 図書室の利用については、小・中ともに全国よりも高いが、小学校において、読書の時間や読書への関心が全国よりも低くなっている。 						
生活習慣	(1)	朝食を毎日食べていますか	93.9	93.4	93.4	92.8
			98.5	98.8	100.3	101.0
	(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	80.4	76.8	81.4	76.8
			98.8	99.7	104.4	103.5
	(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	91.9	89.8	94.1	92.1
100.3			101.1	101.4	102.0	
<ul style="list-style-type: none"> 朝食を毎日食べている子供の割合が、昨年度よりも高くなっている。 就寝、起床についても、昨年度よりも2～4ポイントほど上がっている。 						
国際理解	(25)	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか	67.7		64.0	
			98.7		102.6	
	(26)	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	75.0		64.5	
			98.6		108.8	
<ul style="list-style-type: none"> 外国の人への関心が、中学校では全国よりも高い。 						

	質問番号	質問事項	小学校		中学校	
			R1	H30	R1	H30
学習に対する関心・意欲等	(37)	国語の勉強は好きですか	57.9	/	60.0	/
			90.2		97.2	
	(38)	国語の勉強は大切だと思いますか	90.7	/	91.3	/
			97.5		100.3	
	(39)	国語の授業の内容はよく分かりますか	79.2	/	74.4	/
			93.3		95.9	
	(40)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89.4	/	90.2	/
			98.0		102.5	
	(46)	算数の勉強は好きですか	69.4	64.0	64.0	59.8
			101.2	100.0	110.5	110.9
	(47)	算数の勉強は大切だと思いますか	93.5	93.0	86.4	85.0
			99.8	101.0	102.6	101.7
	(48)	算数の授業の内容はよく分かりますか	80.2	81.3	78.4	70.4
			96.0	97.5	106.1	99.2
(49)	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.3	91.3	80.2	76.8	
		99.8	101.1	105.2	105.3	
(54)	英語の勉強は好きですか	/	/	56.5	/	
	100.9					
(55)	英語の勉強は大切だと思いますか			84.5	/	
	98.9					
(56)	英語の授業はよく分かりますか			65.5	/	
	99.2					
(57)	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか			84.9	/	
				99.4		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校国語において、全国よりも大きく低くなっており、国語に対する関心を高め、理解を実感できる授業づくりが求められる。 ・ 中学校数学において、4項目が全国よりも高い。特に高い、関心と内容理解であるが、教科の結果にそれが反映されていない。分かったつもりの生徒が多いと考えられる。 ・ 中学校英語については、国語・数学よりも内容理解について割合が低い。 						
新学習指導要領関連	(29)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	66.2	74.1	71.0	75.7
			89.3	95.4	97.5	99.2
	(30)	授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか	78.8	/	74.0	/
			95.2		98.8	
	(31)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか	58.2	/	66.8	/
			88.6		108.6	
	(33)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか	68.4	/	67.6	/
93.2			103.0			
(34)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか	76.3	/	79.8	/	
		94.3		104.2		
(35)	前学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	71.4	72.9	73.0	73.5	
		91.9	95.0	97.6	96.3	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校において、すべての項目で全国よりも低い。特に、総合的な学習の時間での探究的活動が7ポイント以上、主体的な学びが5ポイント以上低い。新学習指導要領の趣旨等について、共通理解を図る必要がある。 ・ 中学校においては、3項目で全国よりも高い。特に、総合的な学習の時間での探究的活動が、5ポイント以上高く、総合的な学習の時間の取組が生徒の主体的な学びになっていると考えられる。 						

3 クロス集計結果

以下は、学力調査と児童生徒質問紙調査のクロス集計の結果で、学力調査の結果と関係性があった項目である。次のような児童生徒ほど学力が高い傾向がある。

(1) 小・中学校ともに関係がある項目

	質問事項	特に関係が強い	
		小	中
生活習慣等	朝食を毎日食べている	○	○
	自分には、よいところがあると思う		
	学校のきまり（規則）を守っている	○	
	読書が好き	○	○
授業の取組等	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる		○
	授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている	○	○
	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う		○
	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う		○
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う	○	○

(2) 小学校で関係がある項目

- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- 新聞を読んでいる

(3) 中学校で関係がある項目

- 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う

(4) 結果から

- 新学習指導要領の趣旨等について理解を深めること
特に、主体的・対話的で深い学びを視点とした授業改善を進めることが大切である
- 家庭への啓発
生活習慣の定着、家庭学習や家庭での会話の大切さ など

長崎県 「新 学力向上のための3つの提案」

平成29年4月 長崎県教育庁義務教育課

(1) 「できた」「分かった」の笑顔があふれる授業

- ① 「めあて（課題）」と「まとめ」が子供に届く授業
- ② ねらいに即した「書く活動」を重視する授業
- ③ 「学習規律の徹底」と「支持的風土の醸成」により安心して学べる授業

(2) 「夢・憧れ・志」を共に育む家庭・地域との連携

- ① 課題の質と量を見極め、自主的な家庭学習の習慣化を図るための連携
- ② 子供の学びを認め合い、自己肯定感を高めるための連携
- ③ 学校での学びを生かす場を創るための連携

(3) 子供が成長する喜びを分かち合う職員室

- ① 全教職員が自校の課題を理解し、日々の授業改善につなぐ職員室
- ② 研修の機会を学校の内外に求め、学び続ける職員室
- ③ 学年・教科・世代を越えて語り合う職員室

佐世保市 「新 学力向上のための土台となる5つの考え方」

平成31年4月 佐世保市教育委員会

- ① 本単元・本時で子供につけたい力が明確に位置づけられた授業
- ② 子供が学ぶことの意義や必然性を理解し、見通しを持って学ぶことができる授業
- ③ 本時の「めあて」と「まとめ（振り返り）」を明確に位置づけた授業
- ④ 子供のさまざまな学びの場を保障するための家庭や地域との連携
- ⑤ 目標を見据えて、磨き合い支え合える職員室

V 各小・中・義務教育学校の結果・考察・改善策について

<小学校>

宮小学校	19
三川内小学校	20
広田小学校	21
花高小学校	22
早岐小学校	23
江上小学校	24
針尾小学校	25
大塔小学校	26
黒髪小学校	27
日宇小学校	28
天神小学校	29
港小学校	30
福石小学校	31
木風小学校	32
潮見小学校	33
白南風小学校	34
小佐世保小学校	35
祇園小学校	36
山手小学校	37
宇久小学校	38
春日小学校	39
清水小学校	40
大久保小学校	41
金比良小学校	42
大野小学校	43
柚木小学校	44
世知原小学校	45
赤崎小学校	46
船越小学校	47
日野小学校	48
相浦小学校	49
高島分校	50
相浦西小学校	51
大崎分校	52
中里小学校	53
皆瀬小学校	54
吉井南小学校	55

吉井北小学校	56
小佐々小学校	57
楠栖小学校	58
江迎小学校	59
猪調小学校	60
鹿町小学校	61
歌浦小学校	62

<中学校>

宮中学校	63
三川内中学校	64
広田中学校	65
早岐中学校	66
東明中学校	67
日宇中学校	68
崎辺中学校	69
福石中学校	70
山澄中学校	71
祇園中学校	72
清水中学校	73
光海中学校	74
愛宕中学校	75
日野中学校	76
相浦中学校	77
中里中学校	78
大野中学校	79
柚木中学校	80
吉井中学校	81
世知原中学校	82
宇久中学校	83
小佐々中学校	84
江迎中学校	85
鹿町中学校	86

<義務教育学校>

黒島小中学校	87
浅子小中学校	88

佐世保市立宮小学校の結果・考察・改善策について

児童数： 113 名 学級数： 9 学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	○書く領域の「図表やグラフなどを用いた目的をとらえる」、読む領域の「目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」に関する選択式問題が平均点を上回っていた。	○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の「文と文との意味のつながりを考えながら接続語を使って内容を分けて書く」、また、読む領域の「目的に応じて文や文章全体を概観して効果的に読む」さらに、話す聞く領域の「目的に応じて質問を工夫する」に関する問題が平均点を下回っていた。	○目的を明確にし、確かな見通しの中で展開する授業を重ねていく。 ○「話す聞くレベル表」を活用し系統的指導を展開する。 ○読書活動を積極的に推進する（前期前半の重点課題年間目標冊数 130 冊）。 ○朝のスキルタイムで基本問題を実施・継続する（11月まで）。主に活用問題や復習を行う（12～3月）。
算 数	○数と計算、数量関係領域の「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる」、また、図形領域の「示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する」「図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成する」といった問題が平均点を上回っていた。	○量と測定、数量関係の「場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断する」という問題や、数と計算、数量関係領域の「棒グラフを比較して読み取る」という問題は平均点を下回っていた。	○本時で、どんな力を身に付けさせるのかを明確にし、めあてとまとめに整合性のある授業づくりを行う。 ○ICT 機器を活用した授業を展開し効果的指導を目指す。 ○朝のスキルタイムで基本問題等、（11月まで）主に活用問題や復習（12～3月）を行う。
児 童 質 問 紙 調 査	○「家で自分で計画を立てて勉強していますか」「先生はわからないところや間違っているところについてわかるまで教えてくれると思いますか」「国語の勉強は好きですか」「算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いていますか」などの項目が平均点を上回っていた。	○「毎日同じくらいの時間に寝ていますか」「将来の夢や希望をもっていますか」「1日当たりどのくらい勉強しますか」「算数の時間は好きですか」「算数の授業の内容はよくわかりますか」などといった項目が平均点を下回っていた。	○「生活がんばりカード」を実施し指導に役立てる。 ○ICT 機器を効果的に活用し、「わかった」「できた」が実感できる授業改善を展開する。 ○家庭学習の内容を吟味し、家庭と指導事項を共有するなど連携を密にする。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 主体的・対話的な学習を、研究の視点から積極的、効果的に授業の中に取り入れることで、子ども一人ひとりが「できる」「わかる」「楽しい」と実感できるように努める。
- 国語では、読む領域の「目的に応じて文や文章全体を概観して効果的に読む」ことができるようにする。
 - 算数では、特に数量関係で学んだことを活用できる力を養う。論理的に考える力をつけ記述式の問題に進んで対応できるようにする。
 - 生活面においては、家庭学習の充実と徹底及び習慣化を図る。

佐世保市立三川内小学校の結果・考察・改善策について

児童数：187名 学級数：8学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	○「書くこと」に関しては県の平均と同値である。	○「読む能力」について、県・全国平均を下回っている。 ○「言語についての知識・理解・技能」について、県・全国平均を下回っている。 ○記述式の問題に関して、県・全国平均を下回っている。無解答率も高い。	○「あった家読書」（親子読書）の改善・充実を図る。 ○読み物教材の学習や、生活においても意図的に漢字を確認することで、定着度を上げていく。 ○スキルタイムの改善・充実。 ○文字数を定める、キーワードを使わせる等、条件に合わせて「書く」学習を単元内に位置付けていく。
算 数	○「数学的な考え方」については、県の平均とほぼ同値である。 ○棒グラフの理解については全員が正答することができる。	○「数と計算」領域について、県・全国平均を下回っている。 ○「数量や図形についての技能」について、県・全国平均を下回っている。	○単元全体を見通した授業改善（本時に身につけさせたい力を子どもに明確にするとともに、単元内で「定着・習熟の時間」を生み出す。） ○授業内で「説明する」（他者説明、グループ説明等）活動を意図的に仕組み、理解を確かなものにする。 ○スキルタイムの改善・充実。
児 童 質 問 紙 調 査	○自己肯定感、教師との信頼関係、読書習慣について 県・全国の平均を上回っている。 ○地域行事への参加に関しては、県・全国の平均値を大きく上回っている。	○「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦する」に関しては県・全国の平均値を大きく下回っている。 ○「家庭学習の時間」に関しては、県・全国の平均値を大きく下回っている。 ○解答時間が不足していた、と答えた児童の割合が県・全国平均を大きく上回っている。	○授業内だけではなく、日常生活でもめあてを重視させ、めあてを達成する喜びを全員に味わわせることで、挑戦する勇気を育む。 ○「メディアコントロールチャレンジ」の結果を全家庭と共有するとともに、家庭学習を充実させ、家庭との協力体制をより強固にしていく。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 「本時に身につけさせたい力」に直結した「めあて」、それに対応した「まとめ」のある授業を毎時間実践していく。
- 授業内に「書く」「話し合う」活動を取り入れる。
- スキルタイムを改善充実し、「知識・技能」の確実な定着を図る。

佐世保市立広田小学校の結果・考察・改善策について

児童数：1021名 学級数：35学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<p>○図表やグラフなどを用いる目的を捉えること。</p> <p>○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくこと。</p>	<p>○文と文との意味の繋がりを考え、接続語を使って2文に分けて書き表すこと。</p> <p>○話し手の意図を考えながら聞き、自分の考えをまとめること。</p> <p>○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いること。</p>	<p>○授業の中で、「そこで」と「～ので」の言葉を使って文を書かせるなど、接続語の使い方を意識させる。</p> <p>○条件に沿った文章を書く取組を行う。</p> <p>○使える語彙を増やすためにも、国語辞典を活用し、意味の理解を深める。</p>
算 数	<p>○台形について理解すること。</p> <p>○示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述すること。</p> <p>○棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ること。</p>	<p>○2つの年代の市全体の水の使用量を比較し、一方がもう一方の何倍になっているか求めること。</p> <p>○示された除法の式の意味を理解すること。</p> <p>○場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断すること。</p>	<p>○算数科や社会科における資料の読み取りの際は、基準量を明確にし、比較する活動を仕組む。</p> <p>○立式の根拠を明確にし、説明する活動を仕組む。</p> <p>○必要な情報を選んで立式し、答えを求めていく活動を仕組む。</p>
児 童 質 問 紙 調 査	<p>○将来の夢や目標を持っている児童が全国平均を上回った。</p> <p>○国語や算数を学習することに対して必要感を持っている児童が多い。</p>	<p>○読書が好きだと答える児童が、全国や県と比べて少ない。</p> <p>○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると感じている児童が少ない。</p> <p>○国語の授業で、目的に応じて自分の考えを話したり、書いたりしていると感じている児童が少ない。</p>	<p>○読書の質的な面（内容・自主性）を向上させるためにも、読書月間を中心に、様々な分野の本に興味をもてるような取組を行う。（読書ビンゴやビブリアバトル等）</p> <p>○相手の話を聞き、自分の考えを伝えるコミュニケーションを図る取組を、国語や学級活動を中心に取り組んでいく。</p> <p>○書く活動を行う際には、目的や条件を明確にし、意識させる。</p>

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 授業の中で書く活動に取り組む際には、書く目的や相手を明確にし、条件に沿った内容を意識できるようにする。（国語）
 - ・相手や目的、必ず入れるキーワードなどの条件を明確にする。
 - ・常体や敬体が混同しないよう、文末表現を意識させる。
- 問題を解く際には、問題場面を把握し、自分の考えを書いて説明できるようにする。（算数）
 - ・目的に応じて、図・式・表・グラフ等を活用し、根拠を明確にして筋道立てて考える活動を仕組む。

佐世保市立花高小学校の結果・考察・改善策について

児童数：618名 学級数：23学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○国語の2で出題されている「目的に応じて、本や文章全体を概観して読む」問題について、全国及び県平均よりは若干低くなっているものの、全ての設問の中で正答率が一番高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体の平均正答率が、全国及び県の平均より大きく下回る結果となった。 ○1四で出題されている既習の漢字を使う問題の正答率が低く、定着していない。 ○1三で出題されている「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」の正答率が全国及び県平均を下回り、書く力が定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習内容の漢字の定着を図るために、家庭学習の充実と個別の指導時間を確保する。 ○定期的に定着の度合いを確認するための小テストを行う。 ○スキルタイム（朝の習熟の時間）の内容を課題に即した内容にする等、効果的な運用を行う。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○「図形」の領域で、全国及び県の平均正答率を若干上回ることができた。 ○3（4）で出題されている「示された除法の式の意味を理解している。」の問題で全国及び県の平均正答率を若干上回ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体の平均正答率が、全国及び県の平均を下回る結果となった。 ○2（4）や3（1）で出題されている「整数と小数の計算や計算の性質を解釈し、運用する」問題で、全国及び県の平均正答率より低い結果である。 ○場面の状況や結果をもとに判断して記述する問題の平均正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スキルタイム（朝の習熟の時間）の内容を課題に即した内容にする等、効果的な運用を行う。 ○計算、数量関係については、前学年までの学力が定着していないと難しいという危機感をもって指導にあたる。 ○TT や習熟度別学習など、学習内容や児童の実態に応じて学習形態を工夫する。
児童 質問 紙 調査	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめは絶対にしてはいけないことだという意識の高い児童の割合が多い。 ○人の役に立つ人間になりたいという意識は、全国や県と同じ傾向が高い。 ○ICT 活用に対する意欲が高い。 ○「算数の勉強は好き」と回答している児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習を計画的・継続的に取り組むことに対する意欲が低い。 ○授業で学んだことを実生活に生かしていこうとする意欲に乏しい。 ○「国語の学習は好き」と回答している児童が少なく、テストの結果とも関連していると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後も、道徳の時間をはじめ自己肯定感や他者との関わりへの意識が高まるような指導を行う。 ○家庭学習の習慣化については、学校の取組を伝え、保護者との連携を図る。 ○ICT 機器を活用した授業を行う等、児童の意欲を高める学習を計画していく。

<学校全体で重点的に取り組む事項>

- 校内研修のテーマを「一人一人の教育的ニーズに応え、個性の伸長を図る学習活動の充実」として、算数科の指導に全職員で取り組む。特にノート指導を充実させるために、自分の考えを書く活動を仕組むことで学力の定着を図る。
- 県から出されている「新 学力向上のための3つの提案」や佐世保市の「新 学力向上のための土台となる5つの考え方」を全職員で共通理解した指導にあたる。
- 子どもが学ぶことの意義や必然性を理解し、見通しをもって学ぶことができる授業づくりを校内研修の授業実践を通して検証し、研修を深めていく。
- 基本的な生活習慣の徹底を図る。（特に、挨拶指導）

佐世保市立早岐小学校の結果・考察・改善策について

児童数：670名 学級数：23学級

	成 果	課 題	改善に向けた取組
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○県平均と同じであった。「読むこと」で全国平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国平均をやや下回った。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の3観点で全国平均を下回った。 ○「目的や意図に応じて自分の考えをまとめて書く」項目において、全国平均を大きく下回った。 ○一部の漢字について定着が不十分であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の活動「国語タイム」において、過去問題も含めて「書く活動」を多く取り入れる。 ○他教科の学習においても自分の考えをまとめるためのノート指導を行う。 ○「校内漢字検定」を全校児童に対して年間を通じて取り組ませることによって、漢字の能力の定着を図る。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○「数量関係」で全国平均を上回り、「数量や図形に関する技能」で県平均をやや上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「量と測定」「数学的な考え方」において全国平均、県平均共に下回った。「量と測定」での全国平均との差がやや大きかった。 ○記述式の回答において全国及び県平均との差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業において習熟度別指導を充実し、コース別の児童の実態に応じた指導の充実を図る。 ○毎週金曜日の朝に行っている「算数タイム」の内容を充実させる。特に、長文問題や記述式で解答する問題に慣れさせる。
児童 質 問 紙 調 査 の 結 果 か ら	<ul style="list-style-type: none"> ○「いじめはいけないこと」に対する認識が全国や県平均よりもやや高い。 ○「地域の行事への参加」「地域をよくすることを考えている」が全国や県平均よりも高い。 ○「将来の夢を持っている」が全国や県平均よりも高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に、全国や県平均を下回っている項目が多い。 ○「先生がよいところを認めてくれる」が全国や県平均よりも低い。 ○学級で話し合ったことに対する達成感が全国や県平均よりも低い。 ○「5年生までに受けたICT授業」が全国や県平均よりもかなり低い。 ○「家族との会話」が全国や県平均よりもやや低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学級において授業や活動等、児童の自己肯定感を高める取組を実践する。 ○学級活動において話し合い活動を充実し、互いに高めあう風土づくりを行う。 ○本校のICTの活用は充実しているが、児童への認識が不十分であるため、各教科において積極的にICTの活用を推進する。 ○保護者と連携しながら家庭での生活習慣づけや家族の会話等、家族の一員としての有用感を高める取組を行う。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 朝の活動「国語タイム」「算数タイム」の見直しと活用。
- 授業におけるノート指導を充実させ、必ず自分の考えをまとめて書くようにする。
- 少人数学習指導（習熟度別）を充実させ、個々の学力の定着を図る。
- PTAと連携をし、家庭での学習や生活等、児童の有用感を高める取組を行う。

佐世保市立江上小学校の結果・考察・改善策について

児童数：285名 学級数：13学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	○主な成果は見られない。	○すべての領域で全国平均を下回っている。 ○「引用する」「要約する」等、条件に合わせて記述することに課題がある。 ○目的に応じて必要となる情報を取り出し、それらを関係づけて読むことに課題がある。 ○漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。	○条件に合わせて記述したり、目的に合わせて構成を考えながら記述する学習にすべての教科で取り組む。 ○読み取ること（複数の内容や条件から必要な情報を取り出す）が苦手であるので、読み取り、それを活用する学習の展開を行う。 ○漢字の読み書きの練習に継続して取り組む。
算 数	○図形領域は全国平均を若干上回った。 ○加法と減法の混合した整数と小数の計算が若干全国平均を上回った。	○ほとんどの領域で全国平均を下回っている。 ○単位量あたりの大きさや割合の意味（基準量・比較量）を理解し、記述することに課題がある。 ○日常生活の事象を、グラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり、表現したりすることに課題がある。	○説明をする前に、各自必要な条件や根拠を明らかにして記述したり、資料の特徴や傾向に着目して考察判断する学習を仕組む。 ○答えの見通し、解決の見通し（順序）をもって解決したり、答えの見当をもとに、振り返って判断させたりする習慣をつけさせる。 ○忘れさせない工夫をする。
児童 質問 紙調 査	○将来の夢や目標を持っている子が多い。 ○いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っている子が多い。 ○人の役に立つ人間になりたいと思っている子が多い。 ○地域の行事に参加している子が多い。	○規則正しい生活をしている子が全国に比べると少ない。 ○自分にはよいところがあると思っている子が全国と比べると少ない。 ○家庭学習への取組が全国に比べると低い。 ○国語・算数の学習が好きな児童は全国に比べると少なく、算数の内容が分からないと答えた子が多い。	○児童や家庭への啓発を図ることで規則正しい生活を勧める。 ○積極的に児童の良さを見つけ、ほめることで自己肯定感を高める。 ○家庭学習の取り組み方を知らせ、学習することの大切さを伝えていく。 ○児童の「できた・分かった」が増えるような指導法の工夫をしていく。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 児童の活動（対話活動等の中）に視点を与える。
書く視点 話す視点 （ねらいや方法など）
- 書く活動を重視する。
- 各学年に応じ、図・表を児童自身が書いたり読んだりする習慣をつけさせる。
- 課題に応じた補充プリント（朝の時間の活用）をさせる。
- MIM（多層指導モデル）を活用し、児童の読みの力を伸ばす。

佐世保市立針尾小学校の結果・考察・改善策について

児童数：142名　学級数：8学級

	成　　果	課　　題	改　善　策
国 語	○前年度の長崎県学力調査では、県平均を下回っていた「読むこと」について、本調査においては、県平均を上回るなどの成果が見られた。	○すべての領域において全国平均を下回った。 ○言語についての知識・理解・技能が低い。 ○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項が平均より低い。（既習漢字の未習得） ○話すこと・聞くことの平均が極めて低い。	○各学年の配当漢字を徹底して習得させる。（小テストの実施） ○全校を通じた漢字検定制度の実施。 ○各種作文における書く活動の充実 ○量を重視した読書活動の推進。
算 数	○「数学的な考え方」については、昨年度の長崎県学力調査では、県の平均を下回っていたが、本調査では、県平均を上回るなどの成果が見られた。	○すべての領域において全国平均を下回った。 ○領域「数と計算及び量と測定」の平均が極めて低い。 ○数学的な考え方の平均が低い。	○スキル学習を通して学年の系統性を見越した「計算の四則演算」を徹底して身に付けさせる。 ○授業の中に意見交換を通じた少人数活動を導入し、考えて問題解決する喜びを味わわせることで算数に対する意欲を高める。
児 童 質 問 紙 調 査	○自己肯定感が比較的高い。 ○地域の行事に進んで参加している児童が多い。 ○学校生活全般において、意欲的に取り組もうとする姿が見られる。	○決まりを守らない子が多い。 ○家庭学習の時間が少ない。 ○読書をしない子が多い。	○教育活動全体を通して、互いに価値観を高めることができる場面を多く体験させる。（針尾っ子祭りなど） ○学級活動を充実させる。 ○学習の成果を発表できる場を多く設ける。

<学校全体で重点的に取り組む事項>

- 学年に応じた漢字の習得。
- 書く活動を通じた語彙力の向上。
- 一人50冊読書達成。
- 学年に応じた四則演算の習得。
- 家庭学習の充実。

佐世保市立大塔小学校の結果・考察・改善策について

児童数：481名 学級数：18学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○話す聞くの領域で、県平均を上回った。 ○目的に応じて、文章を概観して効果的に読む問題において、平均を上回った。 ○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる問題において、平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話す聞く、書く、読む、言語のすべての領域で、全国平均を下回った。 ○言語事項について平均を大きく下回った。条件に合わせて漢字を書く問題で、特に正答率が低かった。 ○情報を相手にわかりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える問題も、平均を大きく下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○言語の力を高めるために、小テストや家庭学習に取り組ませ、語彙力を高め、既習漢字の活用を図る。 ○話す聞く力を高めるため、大切なことを落とさず聞くことやメモを取りながら聞く習慣を身に付けさせる。 ○書く力を高めるために、視写をするなど、書くことに慣れる習慣づくりを行う。 ○構成を意識した聞く・書く指導を行う。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○図形の領域で、県・全国平均を大きく上回った。授業の中で、操作活動や話し合い活動を多く取り入れた成果が表れている。 ○図形と式を関連づけ、筋道を立てて考察する問題において、平均を上回った。 ○棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る問題において、平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数と計算の領域で、県・全国平均を下回った。 ○複数の数量から必要な数量を選び立式する問題についても、平均を下回った。 ○計算の仕方を解決して、成り立つ性質を記述する問題について、平均を下回り、無解答率も高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計算力を高めるため、スキルアップの時間を有効に活用する。 ○活用力を高めるために、授業では解決過程を深めたり意味づけたりする学習を設定していく。 ○正答数分布より二極化が見られたため、個別指導を行い、底上げを図る。
児 童 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○生活習慣、学習習慣の領域で、すべて県・全国平均より高い。家庭の協力を得ることができ、学校への関心の高さがうかがえる。 ○規範意識が全国平均より高い。 ○算数に対する興味・関心が、県・全国平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己有用感が、県・全国平均より低い。自分自身について、肯定感をもてていない児童が多い。 ○読書を好きな児童が、県・全国平均より少ない。 ○将来の夢や目標をもっている児童が、県・全国平均より少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○結果だけでなく過程での頑張りや、一人一人の良さを認め励まし、自己有用感や自己肯定感を高めていく。 ○学校司書と連携をとり、読書活動の質の向上を図る。 ○職場体験学習等を将来を考える機会とし、将来の夢や目標について主体的に考えることができるように学習内容を工夫する。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 計算力を高める「チャレンジタイム」の取組の共通理解・共通実践の徹底を図る。
- 読書活動の推進を図るための図書貸出の効率化や質の向上を図るための支援を行う。
- 漢字・計算等の基礎学力向上に焦点をあてた家庭学習の共通理解・共通実践を図る。
- 児童の自己肯定感を高めるために、校内研究「『学び合い』を大切に算数科の授業づくり」を通して、児童一人一人を認めて伸ばす効果的な指導法を工夫する。
- 生活科・総合的な学習をキャリア教育の視点から見直しを図り、人との関わりや体験を通して、児童一人一人が将来の夢や目標を意識できるように改善を図る。

佐世保市立黒髪小学校の結果・考察・改善策について

児童数： 471 名 学級数： 18 学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○国語全体では、県の平均を上回った。 ○「話す・聞く」「書く」「読む」の領域は県の平均を上回ったが、全国平均に届いていない領域もあった。 ○選択式、記述式は、県も全国も上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語全体では、全国平均を若干下回った。 ○「言語についての知識・技能・理解」の観点、県も全国平均も下回った。 ○短答式が、県も全国平均も下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字を確実に習得できるように、漢字ドリルや漢字ノートの指導を丁寧に行う。漢字テストを適宜実施し、やり直しもきちんと取り組ませるようにする。 ○言語の知識を増やし、活用できるように、積極的に意味調べをさせる。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○算数全体では、県も全国平均も上回った。 ○「数と計算」「量と測定」「数量関係」の領域、「考え方」の観点は県も全国平均も上回った。 ○短答式や記述式については、県・全国平均ともに上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「図形」の領域、「数量や図形についての知識・理解」が、県も全国平均も下回った。 ○「選択式」が県・全国平均ともに下回った。 ○除法に関する記述式の問題や、意味の理解ができていないかを問う選択式の問題が平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図形の性質や構成要素に着目する発問をしたり、知識を活用して他の図形を構成させたりする展開を仕組む。 ○除法の性質や、式の意味の理解を確かめる発問や問題を出す。
児 童 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○「やり遂げて、うれしかったことがある」「進んで助ける」項目や、「毎日同時刻に寝たり起きたりする」項目が、県・全国平均ともに上回った。 ○学習面では、国語についても算数についても意欲的な態度が見られた。（県・全国平均ともに上回った。）また、外国人との交流についても、県・全国平均ともに上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活面では、朝食を毎日食べている」「学校に行くのは楽しい」「人の役に立つ人間になりたい」が県・全国平均ともに下回った。 ○学習面では、「家で自分で計画を立てて勉強」「読書」関連、「授業中のICT活用」「道徳などでの話合いの良さ」が県・全国平均ともに下回った。 ○「地域行事参加」が県・全国平均ともに下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳の授業では、自分の考えを深められるように、授業の前後の変容に気付くことができるような発問や書く活動を取り入れたり、意見を交流する活動を工夫したりする。 ○読書を推奨する。 ○ICT活用への意欲が高いことを生かし、書画カメラやデジタル教科書を児童が使って考えを発表するなど、総合の学習以外でも活用する場面を増やす。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 水曜朝の時間に取り組んでいる「かきかきタイム」を、学力向上と結び付けて実施する。学力テストの結果や児童の発達段階に応じて、各学年で国語か算数を選択し、漢字や計算など学年で内容や進め方を話し合って実施する。
- 校内研修で取り組んでいる意欲向上の取組を生かし、児童一人ひとりが主体的に学習できるよう工夫する。

佐世保市立日宇小学校の結果・考察・改善策について

児童数：387名 学級数：15学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	○「話す・聞く能力」、「読む能力」の観点では、県の平均に若干及ばなかったが、平均に近い力が身につけている。	○「言語についての知識・理解・技能」の観点は、県の平均と比べて大きな差がある。	○国語辞典を活用する場面を継続しながら語彙力を増やす機会を増やす。 ○効果的な学び合い活動を仕組みながら、自分の考えを説明したり、友達の意見を聞いたりしながら、考えを深める場面を増やしていく。
算 数	○「数量や図形についての知識・理解」の観点では、県の平均に若干及ばなかったが、平均に近い力が身につけている。	○「数学的な考え方」、「数量や図形についての技能」の観点は、県の平均と比べて大きな差がある。	○効果的な学び合い活動を仕組みながら、自分の考えを説明したり、友達の意見を聞いたりしながら、考えを深める場面を増やしていく。 ○数学的な技能が身につけられるよう、技能・操作の時間を確保しながら、反復練習に努めていく。
児 童 質 問 紙 調 査	○国語や算数の勉強は、大切だと感じている児童が多い。 ○ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったと感じている児童が多い。	○学校の授業時間以外に、普段、読書をしていない児童が多い。 ○解答を文章で書く問題を、途中であきらめたり、全く解答しなかったりした児童が多い。	○司書や図書ボランティアの協力を得ながら、児童が本に親しめる環境づくりに努める。 ○長文を読んだり文章で答える問題に取り組みさせる機会を増やす。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 単元・本時で、子どもたちに身につけさせたい力を明確にした算数科授業
- 授業の中で効果的な学び合い活動を仕組む

佐世保市立天神小学校の結果・考察・改善策について

		児童数：350名 学級数：14学級	
	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」ことが全国を上回った。 ○「文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く」ことが全国を上回った。 ○「目的に応じて質問を工夫する」ことが全国を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で全国を下回った。 ○「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」ことが全国を下回った。 ○「漢字を文の中で正しく使う」や「ことわざの意味を理解して自分の表現に用いる」ことが全国をかなり下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語タイムや家庭学習で条件作文、解答時間を制限した問題、同じパターンの繰り返し問題等、様々な形式の問題に取り組みさせる。 ○漢字練習の際、意味を考えたり、熟語を作らせたりするなどの工夫を指導する。 ○辞書の活用を指導し、様々な学習で利用できるようにする。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○「図形」の領域で全国を上回った。 ○「面積の求め方の説明を記述する」ことが全国を上回った。 ○「複数の数量から必要な数量を選び、立式する」ことが全国をかなり上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「2つの棒グラフから、分かる事を選び、そのわけを書く」ことが全国をかなり下回った。 ○「示された除法の式の意味を理解している」が全国を下回った。 ○「場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に求め方と答えを記述し、その結果から判断できる」が全国を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○算数タイムを利用し、複数の資料を関連付けて解答を導く問題に取り組みさせる。（グラフ、表の読取や絵・図を用いた説明の仕方等） ○授業の中で、立式の意味を説明する場面を設定する。 ○少人数指導、習熟度別指導を計画的に実施し、個の能力を高める。
児 童 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○学級の友だちと話し合い、自分の考えを深めたり、意見のよさを生かして問題を解決する意欲が高い。 ○地域社会への関心が全国を上回り、外国の人に地域のことを知ってもらいたかったり、友だちになりたかったりする意欲が高い。 ○規範意識が全国より高い。 ○起床、朝食、学校の話をするのが全国より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○算数への関心が低く、生活の中で学んだことを活用することや、学習の大切さを感じる事が低い。 ○難しいことに失敗を恐れずに挑戦しようとする意欲が全国よりかなり低い。 ○「国語も算数も解答時間が十分だった。」が全国より低い。 ○家庭での計画的な学習、学習時間、読書量が全国より低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○できる喜びを味わせ、学ぶ意欲が高まる授業改善（導入、発問、掲示等の工夫） ○意欲はあるが自分の考えを十分表現できていない。少人数での話し合いを増やし、自信をもって自分の考えを表現できるようにする。 ○各教科で、課題に粘り強く取り組んだり、失敗を繰り返したりし、達成感を味わうことができる活動を多く取り入れる。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 年間計画にそった朝の活動（国語・算数・読書タイム）の徹底
- めあて、まとめ、確かめを貫いた授業実践の継続
- 学ぶ意欲の向上につなげる「ほめる」機会（わかりやすく、過程を、細かく）の充実
- 懇談会や通信等、家庭学習の仕方を具体的に伝える場の設定

佐世保市立港小学校の結果・考察・改善策について

児童数：315名 学級数：14学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○いくつかの条件を満たしながら70字以内で記述する問題の正答率が全国平均より上回った。 ○報告文の中で図表やグラフなどを用いた目的を捉える問題の正答率が、全国平均より若干上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体の正答率が全国の平均より下回った。 ○言語についての知識・理解、技能が全国の平均より大きく下回っている。 ○わかりやすく伝えるための筆者の工夫を捉える問題の正答率が低く、無解答率が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ことわざの意味や漢字の習得において、ノートや作文指導の中で使いこなすことのできる技能を育てる。 ○説明文では、わかりやすく伝えるための筆者の工夫を捉え、そこで学んだ工夫を自分の文章の中で生かせるように指導していく。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○全体の正答率が全国の平均を若干上回った。 ○無解答率が低く、ねばり強く問題に取り組む姿勢がうかがえる。 ○加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする技能や、示された除法の式の意味の理解などが全国平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式するなどの数学的な考え方を問う問題が、全国平均をかなり下回った。 ○棒グラフからAはBの何倍かを求める問題の正答率が全国平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題を解くために必要な数量を複数の数量から選んで解答することを確実に習得させるため、計画的にプリント等で類題を解かせる。 ○単位量当たりの大きさ、割合につながる各学年の指導内容を確実に習得させるため、計画的に復習を行う。
児 童 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○将来の夢や目標をもち、難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦しようとする事ができる。 ○国際交流とICT活用への意欲が高い。 ○自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語や算数の学習に対する関心・意欲が低い。 ○読書時間が短く、読書意欲の個人差が大きい。 ○算数で学習したことを普段の生活の中で活用しようとする意識が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○よさや努力を認め、できたことの喜びを味わわせることで学習意欲を高める。 ○読み聞かせやブックトークなどを通して読書意欲を喚起し、読書タイムを活用した読書教育を推進する。 ○日常生活と関連づけた学習指導を心がける。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

【国語科】

- 言葉の意味を辞典などで調べる活動をする際には、意味をノートに書くだけでなく、その言葉を使った短文を考えて書かせるようにする。
- 「対象」「対称」「対照」や、「感心」「関心」など、文脈に合わせた漢字の使い分けをきちんと意識できるように指導する。

【算数科】

- 「多くの情報から、答えを出すために必要な情報のみを選んで解答するような問題」を普段の授業の中で意識的に解かせるようにする。

佐世保市立福石小学校の結果・考察・改善策について

児童数：46名　学級数：2学級

	成　　果	課　　題	改　善　策
国 語	○すべての領域で、全国平均を上回った。	○「かんしん」を漢字に直す際に、「感心」を誤記する児童が多く見られた。 ○「情報を相手にわかりやすく伝えるための記述の工夫を捉える」問題と「文と文のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く」問題の正答率が全国平均より低かった。	○県教育委員会「ゆめあこ」や県教育センター「活用教材」の積極的な利用を全校的に取り組み、課題の改善を図る。 ○東京書籍の「学力調査の結果に応じた復習用教材」を活用する。 ○トライタイムを活用し、資料の読み取り、見出しなども含めて下学年の問題を解く。 ○漢字練習方法の見直しと改善を図る。
算 数	○すべての領域で、全国平均を上回った。	○「図形の面積を説明する」問題と「棒グラフから、水の使用量を読み取る」問題の正答率が全国平均より低かった。 ○「小数のわり算」では、あまりの数の出し方を理解できない児童が見られ、正答率が低かった。 ○「百分率とグラフ」では、比べる量ともとなる量を問題文から読み取れないことで、正答率が低かった。	○授業の中でも、児童が互いに自己の考えを書いて説明する場面を多く取り入れることにより、論理的思考を高める。 ○トライタイムを活用し、課題のあった問題や同じ傾向の問題に取り組みさせる。 ○東京書籍の「学力調査の結果に応じた復習用教材」を活用する。
児童 質 問 紙 調 査	○「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して、しっかり持っていると答えた児童が全国平均より高かった。 ○「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」9割を超える児童が「応えてくれる」と解答した。これも、全国平均を上回っている。	○新聞や本などの読書量が少なく、また、授業以外の平日の読書時間が、全国平均より低い。 ○授業でのICT活用経験が、全国平均より少ない。	○学校司書や司書教諭、図書ボランティアが相互に連絡調整を行い、更なる読書活動を推進し、学習センターとしての活用を進める。 ○ICT機器の授業への活用を図り、表現手段の一つとして学力向上に役立てる。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 校内研修の時間を活用し、全国学力学習状況調査の問題を全職員で解き、求められている学力観と指導のあり方について研究を深める。
- 新聞や本の読書活動の充実だけでなく、多様な長文問題を体験させることによって読解力を高める。

佐世保市立木風小学校の結果・考察・改善策について

児童数：233名 学級数：12学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○「書く」情報を相手に伝えるための記述の仕方を工夫する問題 ○「伝国」接続語を使って内容を分けて書く問題 ○「読む」自分の考えを明確にして読む問題 ○「話す聞く」自分の考えをまとめたり質問を工夫したりする問題 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書く」図表やグラフを用いた目的を捉える問題 ○「書く」理由を明確にしてまとめて書く問題 ○「伝国」漢字を文の中で正しく使う問題 ○「読む」文章の内容を的確に押さえる問題 ○「話す聞く」話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする問題 	<ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。 ○言語活動をより充実させ、児童の思考力・判断力・表現力を向上させる。 ○スキルタイムで漢字の力、語彙力を向上させる。 ○読書活動に重点的に取り組み、学力の土台作りを継続的に行う。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○「図形」図形を構成する問題 ○「量と測定」面積の求め方の説明を記述する問題 ○「数量関係」資料の特徴や傾向を読み取る問題 ○「数量関係・数と計算」何倍かを求める問題 ○「数と計算」計算しやすい式にして計算する問題 	<ul style="list-style-type: none"> ○「量と測定・数量関係」水の使用量の増減を判断し、その理由を記述する問題 ○「数と計算」計算の仕方を解釈して適用する問題 ○「数と計算・数量関係」除法の意味理解の問題 ○「数量関係」伴って変わる二つの数量を見いだす問題 ○「数と計算」必要な数量を選び立式する問題 	<ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。 ○習熟度別少人数指導の取り組みを継続する。 ○ノート指導を全校で統一し、児童が学びやすい継続的な指導形態を整える。 ○数的量感を養うための校内環境整備をより充実させる。
児 童 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○国語の学習に対する意欲 ○地域行事への参加 ○地域や社会への関心 ○外国への関心 ○いじめ防止への意識 ○困っている人を助ける意識 ○自己肯定感 ○将来の夢や目標 ○家庭での会話 ○学習したことを活用する意識 	<ul style="list-style-type: none"> ○算数の学習への意欲 ○朝食の摂取 ○就寝時刻の定着 ○困難なことへ挑戦する意識 ○新聞を読む習慣 ○ICT活用の経験 ○自分の努力目標を設定する意識や経験 ○課題に対して、自主的、積極的に話し合いや活動に取り組む意識や経験 	<ul style="list-style-type: none"> ○よりよい生活習慣の定着に向けて、家庭への啓発を継続する。（手引きや面談） ○ICTをより積極活用したプログラミング教育を充実させる。 ○「話す力・聞く力」を向上させるために、対話的な学びを充実させる。 ○児童に充実感を味わわせる授業改善を継続する。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、佐世保市「新 学力向上のための土台となる5つの考え方」を実践する。
- （6年生）単元の学習を終えて、卒業までの復習の時間に取り組む教材の一つとして全学の問題に取り組ませ、習熟度の向上を図る。
- （1～5年生）教師が担当学年の内容を含んだ問題を解き、「必要とされている力」「次の学年に上がるまでに確実に定着させる内容」を確かめ、授業改善や家庭学習等に反映させる。
- 学力の土台や人間性を形成する読書活動の推進

佐世保市立潮見小学校の結果・考察・改善策について

児童数：175名　学級数：8学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○国語では、全ての領域で全国平均を上回った。 ○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、効果的に読み取ることができていた。 ○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることができていた。 ○話すこと・聞くこと、読むことでは、記述式もよくできていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○条件に合った情報を的確に読み取り、まとめることができていない。 ○漢字を文章の中で正しく書けていない。 ○接続語などを正しく使いながら、文と文との意味を考えて一つの文にしたり、分けたりすることができていない児童がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目的に応じて、文章を要約したり、複数の情報を関連づけて読み取ったりする課題に取り組む。 ○漢字の学習では、意味の理解ができるよう辞書引きや短作文での練習を取り入れる。 ○文章の読み取りや作文指導の中で、接続語などの意味や使い方を押さえるとともに、正しく表現できるように指導する。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○算数では、全ての領域で全国平均を上回った。 ○選択式、短答式であれば、どの領域も概ね良好であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○算数用語を正しく使って、解き方や性質を記述で論理的に説明できていない。 ○割合の問題が、全国平均より若干低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○算数用語の理解を徹底し、使えるようにする。 ○教科書などを手本に説明の仕方を指導する。 ○思考の授業では、考えたり、話し合ったりする時間を大切にし、その考えを書く活動を取り入れる。
児 童 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣は、概ね良好である。 ○夢や目標を持ってがんばっている児童が多く、全ての児童が人の役に立つ人間になりたいという願いを持っている。 ○時間の差はあるが、毎日、家庭学習に取り組む習慣が身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○規範意識やいじめに対する意識が若干低い。 ○学習に対する関心・意欲では、高い児童と低い児童との二極化が進んでいる。 ○新聞を読んでいない。 ○根気強さ、チャレンジ精神が、全校平均より若干低い。 ○学級活動の話合い活動を自分や学級で生かしてきていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳を中心に、全ての教育活動を通して、きまりや思いやりの大切さを指導していく。 ○児童の学習の実態を把握し、個別指導を行う。 ○スピーチなど、新聞を生かした取組を朝の活動などに取り入れる。 ○学級活動の話合い活動を、児童の実態や関心に合わせて見直す。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 授業では、目的に応じて自分の考えを持たせるとともに、対話によって深めたり広げたりした考えをまとめ、説明する活動の中で書くことを取り入れる。
- 漢字や算数用語など意味から確実に理解させ、必要なときには正しく使えるように指導を継続する。
- 学級活動のカリキュラムの見直しを行う。

佐世保市立白南風小学校の結果・考察・改善策について

児童数：279名 学級数：14学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	○全国の平均は上回った。 特に、「書くこと」では、調べたことを報告する文章を書くや漢字を使って書き表すことは大きく全国平均を上回っていた。また、「読むこと」、「話すこと」でも全領域的に、ほぼ力をつけているといえる。無解答率も大変低く、課題に対する意欲を感じた。	○基本的な「書くこと」はできているが、調べたことを報告する文章を書くことや「話すこと」の目的に応じて、質問を工夫するなどの活用場面でわずかではあるが、全国の平均を下回っている。領域的にも「書くこと」「記述式」には、課題が残り、国語の教科横断的な面での習得が課題である。	○説明的文章や新聞記事で用いられている図や表、グラフなどの効果について考える学習活動を設定する。また、調査したことを報告するなどの文章を書く言語活動を設定する等が考えられる。そのためにも、国語でつけた力をさらには、他教科・領域でも学ぶ教科横断的な視点での単元設定をする。
算 数	○全国の平均とほぼ同じ結果であった。とくに、図形においては、台形について理解や基本的な計算については十分に力を付けているものと判断できる。また、日常生活の事象を数理的に捉え判断することの基礎的・基本的な力は身に付けている。無解答率もほぼない状態であり、学習への構えは育ちつつある。	○図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することや示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述するなどの活用力にやや課題がみられる。また、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断するなどの割合の問題には課題を残した。	○活用力をつけるためにも、日常生活の問題解決のために、数量を見いだしたり、数学的に表現・処理して得られた結果から条件に当てはまるかどうかを判断したりする活動を設定する。また、条件を変更することにより、新たな問題を見だし、解決するために必要な新たな情報を収集する活動を取り入れる。
児 童 質 問 紙 調 査	○自尊感情も高く、思いやりや人の役に立ちたいといった項目は全国平均を上回った。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれると思いますか」に対しても当てはまると答えた児童が多かった。温かい雰囲気の中で、相手を思いやることや誰かのためにがんばろうとする、優しい児童の一面がうかがえる。	○「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦しますか」に「当てはまる」と自信を持って答えた児童は少なかった。また、「将来の夢や目標を持っていますか」という項目も、わずかであるが、全国平均を下回った。何か、自信のなさ、消極性が、うかがえる結果であった。地域行事への参加も低い結果である。	○総合的な学習、また、教科横断的な学習の中で、実体験や他者との対話・協働をはじめ多様な学習活動の機会を設定することが必要である。とくに、地域の方々と交わったり、その成果を個人の学習として、作文、作品、レポート、プレゼンという形で表現するなどの時間を今後もより多く設定していく。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 「白南風小学力向上プラン」として、次の3点を重点項目とする。
「主体的に学習に取り組む子ども」「基礎学力をきちんと身に付けた子ども」「学習の仕方が分かり、最後まで取り組む子ども」
- 「気がまえ・身がまえ・物がまえ」といった学習のきまりを学校全体で、あらゆる場で、あらゆる先生がよってたかって指導する。
- カリキュラムマネジメントを行い、教科横断的な学習の中で、キャリア教育等を重視し、夢・あこがれ・志をもち、ふるさとを愛す子どもたちを育てていく。

佐世保市立小佐世保小学校の結果・考察・改善策について

児童数：218名 学級数：9学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<p>○全国平均を上回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと、聞くこと」が大きく伸びていた。 ・「読むこと」にも伸びが見られた。 ・記述の形式の問題について正答率に伸びが見られた。 	<p>○言語事項に課題が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字を文の中で正しく使うこと。 ・接続語を使って文を分けて書くこと。 ・ことわざの意味を理解して自分の表現に用いること。 <p>○条件にあった書き方で書くことができなかった。</p>	<p>○言語事項の課題について活用を意識した学習を仕組んでいく。国語辞典の活用を図る。</p> <p>○「条件にあった書き方ができるように」書く活動を充実させる。</p> <p>○問題そのものの理解力を高める語彙力の強化のため、読書週間による読む習慣づくりを図る。</p>
算 数	<p>○全国平均を若干上回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記述の形式の問題について正答率が大きく伸びていた。 ・無解答率が下がり、粘り強く問題に取り組むことができた。 	<p>○「量と測定」領域に課題が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・示された面積の求め方を説明すること。 ・棒グラフから何倍にあたるか読み取ったり、複数のグラフから読み取ったりすること。 <p>○加法と乗法の混同した計算で計算のきまりに沿って正しく計算できなかった。</p>	<p>○記述の解答にも粘り強く取り組む姿勢を生かし、さらに思考を要する問題にもチャレンジさせていく。</p> <p>○面積の求め方の説明や棒グラフの読み取りなど「量と測定」領域の思考力向上に力を入れる。</p> <p>○朝の時間（チャレンジタイム）に基礎基本のドリルを行い、計算の習熟を図る。</p>
児 童 質 問 紙 調 査	<p>○「毎日同じくらいの時刻に起きている・寝ている」「朝食を毎日食べている」の結果が、全国を上回っている。</p>	<p>○「難しいことも失敗を恐れないで挑戦している」「将来の夢や目標を持っている」「外国の人と友達になったり外国のことについてもっと知ったりしたい」「新聞を読んでいる」「いじめはどんな理由があってもいけないこと」の結果が全国を下回っている。</p>	<p>○「早寝・早起き・朝ご飯」への意識を、生活アンケートやPTA活動との連携によりさらに高めていく。</p> <p>○「夢・憧れ・志」をもてるように、総合的な学習の時間を中心に外部講師の招聘や体験活動を仕組む。</p> <p>○児童会の取組を推進し、自己肯定感を高める取組とともに、いじめと向き合う力を強化する。</p>

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

○新学習指導要領が求める学力の捉え方について、全国学力・学習状況調査をもとに職員の研修を深め、すべての学年での授業改善を図る。

- ・小佐世保スタンダードについて、低学年からの指導を徹底する。
- ・授業研究を通して、「対話的な学び」を推進する。
- ・家庭学習で、週末に「思考・判断力・表現力」の向上を図る問題に取り組ませる。

佐世保市立祇園小学校の結果・考察・改善策について

児童数：486名 学級数：19学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○全国の平均正答率を上回った。 ○分類別（「学習指導要領の領域等」「評価の観点」「問題形式」）でも、すべての区分で全国平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「問題別集計結果」において、「情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える」ことができるかを問う問題で、全国平均を若干下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手や目的に応じて、自分が伝えたいことを筋道を立てて話す・書く機会を増やす授業づくりを行う。 ○さらなる読書活動の充実に取り組む。 ○対話する場面を重視する授業づくりを行う。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○全国の平均正答率を上回った。 ○分類別（「学習指導要領の領域等」「評価の観点」「問題形式」）でも、すべての区分で全国平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図形の面積の求め方を記述したり、示された計算の仕方を解釈し、減法の場合をもとに除法に関して成り立つ性質を記述したりする問題で、全国平均は上回ったものの正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題を解決するために考える時間や考えたことを書く時間を十分に確保する。 ○対話する場面を重視する授業づくりを行う。 ○基礎的、基本的な内容の確実な定着を図るために低学年から、ドリル学習等の量と質を高める。
児童 質問紙 調査	<ul style="list-style-type: none"> ○教科（国語・算数）の勉強が大切だと感じている児童の割合が高い。 ○自己有用感が、高くなっている。 ○生活習慣、学習習慣が、身についてきている。 ○外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思っている児童の割合が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の行事に参加している児童の割合が少ない。 ○ICT機器を活用する機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地区の公民館長や民生児童委員の方々、PTAと連携し、子供会活動等の充実を促す。 ○地域の行事等の内容等を学校便り等で発信する。 ○タブレットの導入（来年度の予定）に向け、授業での活用方法等について研修を深める。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 学級の支持的風土や基礎学力など学習の基盤を定着させる。
- 授業のユニバーサルデザイン化を図る。
- 対話的で子どもの意欲や思考・判断力が向上するような学習指導を工夫する。

佐世保市立山手小学校の結果・考察・改善策について

児童数：225名 学級数：9学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○全体として全国を若干上回った。 ○「話すこと・聞くこと」では全国を上回った。 ○「読むこと」は全国を若干上回った。 ○問題形式においては、記述式のポイントが高い。 ○自分の考えをしっかりと書くことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」「言語事項」で、全国を若干下回った。 ○ひらがなを漢字に表記しなおす問題において全国を大きく下回っている。 ○自分の考えをしっかりと書くことはできるが、理由を明確にしてという条件がつくと、全国を下回ってしまう。 ○問題形式においては、「短答式」のポイントが低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字学習を見直し、学習した漢字を日常的に読んだり書いたりできるようにする。 ○目的意識をもって文章を書くことを意識させる。 ○制限のある作文や条件のある作文を週1回の「チャレンジ」の時間等を利用し、定期的に取り組みさせる。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○全体として全国を上回った。 ○「数と計算」において、全国を大きく上回った。 ○「数学的な考え方」が全国を上回った ○無解答率が低く、何らかの自分の考えを記入している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「図形」の性質や構成要素に関する問題について、ポイントが低い。 ○2つの資料を関連付けて考察する問題において、結果に至った理由を書くことが難しかった。 ○「数量関係」に関しての問題のポイントが低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○簡単な計算問題の習熟は週1回の「チャレンジ」の時間を利用し取り組みさせる。 ○友達と自分の考えを比べたり、2つの資料を比較したりするなど、比較して考察する問題に多く取り組みさせる。 ○授業改善に努め、結果に至るまでの理由を説明したり、書いたりする活動を多く取り入れる。
児 童 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○授業中に考えを伝えたり、わからないところを教えてもらったりする喜びを感じている。 ○自分の考えを伝える際に自分なりに工夫をしている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○選択肢1を選んだ児童は少なかったが、選択肢2まで含めると全国とほぼ同値になる。 ○生活リズムが確立されておらず、読書習慣も身に付いていない児童が少なくない。 ○努力をしたり、人を助けたりすることに喜びをもてていない児童の割合が全国と比べて多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活リズムの確立については、保健指導の時間等において、メリットを伝え、意識した生活を送るよう促す。 ○道徳の時間や日常生活の中で努力すること、人助けをすることの喜びを伝えたり、児童の行動を価値付けしたりして、そのことを学級の中でも共有できるようにする。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 基礎基本の徹底を朝の活動「チャレンジタイム」で行う。
- 算数科において、1単位時間の中に、質の高い学び合い活動と数学的な考えを働かせる場面を確実に作る。（山手スタンダード）
- 「図形」に関してのポイントが低いことから、低学年の段階で多くの操作活動を取り入れたくさんの図形に触れさせる。
- 読書活動を推進する。
- 「書く活動」の向上をめざし、特に条件作文に定期的に取り組みさせる。

佐世保市立宇久小学校の結果・考察・改善策について

児童数：41名 学級数：4学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと聞くこと」の領域においては、全国を大きく上回った。 ○無解答の児童はいなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○領域別に見ると「書くこと」「読むこと」の領域が全国を下回った。 ○特に、指導要領「B 書くこと イ」に関連している「目的や意図に応じ、調べたことを報告する文章を、図表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように工夫して書く」能力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習と国語科を横断させた日常生活に関連付けた単元を構成して授業を行い、研究授業や研究協議を行うことで、教師の授業力向上に努める。 ○比較読みをしたり、ねらいを達成するために複数の教材を読んだりするなどの手立てを積極的に取る。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○全国平均を大きく上回り、正答率が低い児童もいなかった。特に、図形の領域においては、高い正答率であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「数と計算」の領域において、「日常生活の問題の解決のために、資料の特徴や傾向を基に考察したり、複数の資料の特徴や傾向に関連付けて判断する」「計算の仕方を解釈して適用したり、発展的に考察したりする」能力の更なる向上が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○筋道を立てて思考できるように、考えを図に表す、図を使って説明するなど、議論して解決に向かう場や表現する場を増やす。 ○資料を読んだり、解釈したり、複数の資料を比較したりするなど、思考する場面を授業の中や家庭学習において積極的に取り入れる。
児 童 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○規範意識が高い。 ○家庭学習において、計画性をもって取り組んでいる。 ○住んでいる地域に愛情をもっている。 ○学んだことを他の学習に生かそうとしている。 ○国語の学習で文章や資料を読む時、目的に応じて、段落通し関係を考えたりしながら読もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞を全く読んでいないか、読んでいる場合もその頻度が低い。 ○地域や社会のために何をすべきかということについて考える機会をもっていない。 ○新しい問題に出会ったとき、それを解いてみようと思う意識が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度同様、子ども新聞に親しむ場作りを行うとともに、授業にも積極的に活用する。 ○授業の中で、地域や社会に目を向けるような課題を設定していく。 ○新しい問題に出会わせる機会を増やし、できた喜びを味わわせる。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 自分達で学びを創っていく帯の時間を有効に活用し、主体性に繋がる4つの力「進める力」「伝える力」「聴く力」「自分で考える力」の向上を目指す。
- 家庭で計画を立てて学習に臨んだり、学習する内容を自分で選んで行ったりするなど自主学習の取組を推進する。
- 「早寝・早起き・朝ご飯」等を中心に基本的な生活習慣の確立に向けての活動を行う。

佐世保市立春日小学校の結果・考察・改善策について

児童数：624名 学級数：22学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	○読むことの問題において、知識に関する、選択式の問題の正答率が高かった。	○国語では全国及び県の平均を、全領域で下回った。 ○「話すこと・聞くこと」の領域は、正答率が低く、中でも自分の考えをまとめる設問では無解答率がかなり高かった。 ○言語に関する知識・理解、技能でも無解答率が高かった。 ○「記述式」問題の正答率が低い。	○記述式の問題プリントを宿題で取り組ませる。 ○授業の中で、読み取ったことに対する自分の考えを書く活動を多く取り入れる。 ○漢字の書き取りを基本に、個に応じた課題を設け、習熟を図る。 ○同形式の問題に取り組みせ問題の形式に慣れさせる。
算 数	○「図形」領域の知識・理解面は、全国及び県の平均とほぼ同じだった。	○算数では全国及び県の平均を、全領域で下回った。 ○「量と測定」「数量関係」に関わる活用問題で、数学的な考え方を伴う記述式問題の正答率と無解答率が高い。	○授業中に、計算の意味・計算の仕方等をノートに書き、説明させる機会を多く設定する。 ○「量と測定」の領域において、これまで学習してきたことを、宿題の中に取り入れ、前学年までの学習の振り返りを行う。 ○自分が苦手な領域を、把握させ、個に応じた課題に取り組ませる。
児 童 質 問 紙 調 査	○「自己有用感」の項目で、教師との信頼関係において、全国及び県の平均とともに若干下回っているが、本校においては、例年より大きく伸びている。また、学校に行くのが楽しい」の項目の意識が高いことも考えると、今後の成長が期待できる。	○「規範意識」や「自己有用感」の項目が、全国及び県の平均とともに下回った。また、「学習習慣」においても、全国及び県の平均を大きく下回っており、「読書」においては、例年よりかなり意識が低くなっているため、上記に挙げた項目については、その改善が急務である。	○学級会など話し合い活動やソーシャルスキルトレーニングに積極的に取り組ませ、自他の考えを十分に共有させる。総合的な学習の時間では、キャリア学習を積極的に取り入れる。 ○日々の学習や生活の計画を立てさせることで、見通しを持った生活をさせる。 ○図書室を積極的に活用し、本に親しませる。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 学力の基盤である安定した学級づくりを目指し、学級会や授業の中での話し合い活動に意図的に積極的に取り組ませる。そうすることで、互いの意思を尊重する心を育て、互いに学び合おうとする建設的な学級づくりを目指す。
- 自分の思いや考えを文章でも言葉でも表現できるように、校内研修で取り組んでいる対話活動の流れ（個人対話→小集団対話→全体対話）を常に意識した、指導計画、授業計画に取り組む。

佐世保市立清水小学校の結果・考察・改善策について

児童数：438名 学級数：19学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<p>○言語についての領域や観点については、県平均を上回った。</p> <p>○短答式の形式では、全国平均を上回った。</p>	<p>○国語への関心・意欲・態度や読むことについては、全国平均を下回った。</p> <p>○内容や字数の条件のある記述問題への無解答率が高かった。</p>	<p>○読んだ内容の要約について、大切な言葉を選び伝える活動を仕組む。</p> <p>○伝える活動の前に、伝える内容に入れる大切な言葉を確認した後、書く活動を仕組む。</p>
算 数	<p>○数量や図形についての知識・理解については、県平均を上回った。</p>	<p>○量と測定、数量関係、数量や図形についての技能については、全国平均を下回った。</p> <p>○解き方についての説明を記述する問題への無解答率が高かった。</p>	<p>○単元終了後もくり返し技能を使うように、朝の時間などの活動内容を工夫する。</p> <p>○解き方についての説明を書く活動を授業に仕組み、説明に入れる言葉や文章の書き方について指導する。</p>
児 童 質 問 紙 調 査	<p>○学校へ行くのは楽しいと答えた児童が、全国平均より高い。</p> <p>○教師の児童への対応に関する設問について、全国平均より高い。</p>	<p>○家庭学習への取組が、全国平均より低い。</p> <p>○授業でのICT活用について、全国平均より低い。</p>	<p>○家庭学習のしおりの内容について、学級懇談会や家庭訪問、個人面談時に説明し理解を深める。</p> <p>○授業でのICTの活用例をICT研究校に勤務経験のある職員を中心に全体で検討し、活用場を増やす。</p>

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 授業のまとめを行う際、大切な言葉を確認した後に各自書く活動を仕組む。
- ペアやグループ、全体など学習内容や指導の目的に応じて自分の考えを伝える場面を設定し、伝え方の指導を行う。

佐世保市立大久保小学校の結果・考察・改善策について

児童数：124名 学級数：6学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項において、県・全国平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く問題について、条件を満たしていない解答が多かった。 ○文と文との意味のつながりを考え、接続語を使って内容を分けて書く問題で誤答が多かった。 ○目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく問題で、誤りが多く見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大事なことを押さえて、条件を満たす文章を書くことができるようにする。 ○接続語の意味や文と文とのつながりについて、普段の授業で取り上げながら指導する。 ○文章の要旨をまとめたり、それに対する自分の考えを書いたりする活動を授業やチャレンジタイムに設定する。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○図形の領域において、県・全国を上回った。 ○棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取る問題、何倍かを読み取る問題では正答率が高かった。 ○目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだす問題で正答率が高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○示された場面において複数の数量から必要な数量を選び、立式する問題で、無関係の数量を用いている児童が多かった。 ○面積の求め方を解釈し、求め方の説明を記述する問題では十分に記述できていない児童が多かった。 ○示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用する問題での誤答が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○チャレンジタイムで活用問題（複数の数量から必要な情報を選択できる問題）に取り組みさせる。 ○面積と式の関係を押さえ、互いに説明する活動を重視する。 ○計算のきまりを確認し、適用して解く問題に取り組みさせる。
児 童 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣や教師との信頼関係、規範意識に関する項目では、「当てはまる」と回答する児童の割合が県・全国より高い傾向にあった。 ○「人の役に立つ人間になりたい」「いじめはいけないことである」では9割が「当てはまる」と回答していた。 ○「算数の授業の内容がよくわかる」「ノートの工夫をしている」と回答した児童が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級での話し合い活動に対する意欲がやや低い傾向にあった。 ○ICTの活用に対する意欲はやや低い傾向にあった。 ○新聞を読む習慣は県・全国と同様「当てはまらない」と回答する児童が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科や学活などで話し合い活動を充実させ、互いの考えを出し合うことの良さを実感させる。 ○ICTを活用した授業に取り組む。 ○学校の子ども新聞を活用し、読んだり調べたりまとめたりする活動を授業や家庭学習、チャレンジタイム等に取り入れる。

<学校全体で重点的に取り組む事項>

- チャレンジタイムや家庭学習を使って、多様な問題に慣れさせる。
- 「大事な言葉にラインを引きながら読む」「問題に書き込みながら考える」「メモを取る」などの学び方の定着を図る。
- 主体的・対話的で深い学びをめざし授業改善を図る。

佐世保市立金比良小学校の結果・考察・改善策について

児童数：141名 学級数：8学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○全体の平均は全国、県の平均を上回った。 ○「公衆電話について調べたことを報告する文章」の書き方の工夫を選択する問題で、全国、県の平均を大きく上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文章の中に使われている資料の使用の目的を選択する問題で、全国、県を下回った。 ○文章からわかったことをまとめる問題で全国や県同様に正答率が低かった。 ○「職人へのインタビューの様子」の質問として適切なものを選択する問題で、全国、県を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料が何のためにあるのかその目的を考えさせたり、総合的な学習の時間などのまとめの活動で適切な資料を使えるようにさせたりする。 ○学習のまとめや文章の要約、日記などを条件付きで書く活動を多く取り入れる。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○全体の平均は、全国、県を上回った。 ○領域、観点、問題形式のすべてにおいて全国、県を上回った。 ○全ての児童が全ての問題に解答することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○棒グラフからわかることを選ぶ問題で、全国、県を若干下回った。 ○減法の場合をもとに除法に対して成り立つ性質を記述する問題で、全国、県同様正答率が低かった。 ○何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを求める式を書く問題で、全国、県を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2つの事象を関連付けて考える機会を増やしたり、答えを見出し、更にその答えを基にして、問いに答えるような問題を児童に多く提示したりする。 ○複数の数量から必要な数量を選択して立式につなげるような問題を適用問題に取り入れる。
児童 質問 紙 調査	<ul style="list-style-type: none"> ○「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」の質問に、大半の児童が、「している」と答えている。 ○「学校のきまりを守っていますか」の質問に大半の児童が、「当てはまる」と答えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「新聞を読んでいるか」の質問に大半の児童が「月に1～3回」「ほとんど読んでいない」と答えている。 ○「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」の質問では、「当てはまる」と答える児童が全国・県平均より下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞を購読している家庭が少ない現状を踏まえて、学校司書や図書委員会の取組の中で新聞に触れる機会を仕組みたり、学習の中に新聞を活用した授業を取り入れたりする。 ○自分の考えをノートに書き、その書き込みをもとに練り合いをするなどノートを活用した学習を取り入れる。

<学校全体で重点的に取り組む事項>

- 各学年の成長段階に応じた学習規律の定着を図るとともに、全学年共通の実践事項として、「しっかり聞いて、しっかり話す」児童の育成を目指し、日々の授業で実践していく。
- じっくりと考え、その考えをノートやワークシートに書く活動を取り入れるような単元計画を立てる。
- 小中一貫教育の中で作成した「学びのスタンダード」をより一層活用し定着を図りながら、学力向上の基礎となる力を育成していく。

佐世保市立大野小学校の結果・考察・改善策について

児童数：681名 学級数：28学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	○「目的や意図に応じて自分の考えや理由を明確にし、まとめて書く」「文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く」「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」において県平均を上回った。	○漢字やことわざについての理解が乏しい。漢字の正しい使い方やことわざの意味についての理解が全国平均を下回った。 ○文章を読むことに関して、全体的に課題を抱え、どの問題についても全国平均を下回った。	○漢字指導には、家庭学習も含め小テストなどに取り組み、より一層の充実を図っていく。 ○「読解力向上」への授業改善研究を充実させていく。 ○主語、述語の関係、文と文のつながりや係り受けの関係などを意識した指導を充実させていく。
算 数	○「台形についての理解」「示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる」「目的に適して伴って変わる2つの数量を見出すことができる」において全国平均を上回った。	○「棒グラフから何倍になっているかを読み取る」「資料の特徴や傾向を関連付けて考え、その理由を記述できる」「示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる」において、全国平均を下回った。	○加配教師を活用し、少人数指導やTT指導の充実を図る。児童一人一人の学力にあった指導や支援を行っていく。また、グラフや表の読み取りや理解する力が不足しているため、そういった単元の学習では、グラフや表への書き込み等の作業を取り入れながら力を高めしていく。
児童 質 問 紙 調 査	○起きる時刻、寝る時刻、朝食を採っているなど一日の生活リズムが整っている児童の割合が高い。 ○将来の夢や目標をもっている児童の割合が高い。 ○自分の課題を立てて情報を集め、整理して発表をするといった課題解決型の学習ができると考えている児童の割合が高い。	○自己肯定感につながる「自分にはよいところがありますか」において、あると答える児童の割合が低い。 ○学級で決めたことや話し合ったことを守り、協力して行動するという意識がある児童の割合が低い。 ○自分で計画を立てて学習に取り組んでいる児童の割合が、全国と比べて低くなっている。	○生活時間を守ることにについては、これまで同様、児童への直接指導と共に家庭への啓発活動も行い、その意識をさらに高めていく。 ○自己肯定感を高めることが、全ての活動の意欲の基盤である。全職員の共通理解のもと、児童の良さに着目した指導を実践していく。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 学習の流れ（単元、1単位時間）を提示して、見通しを持たせる。
- 授業で、「めあて」と「まとめ」の提示を確実に行う。
- 主語、述語、接続語など一つ一つの言葉や文と文の関係について、授業の中で取り上げ指導していくことで読む力（読解力）を向上させていく。
- 授業の中で「少人数で話し合う場（学び合い）」を設け、自分の考えを伝えたり、友達の考えを認めたりすることで、共感性・自尊心の育成を図る。

佐世保市立柚木小学校の結果・考察・改善策について

児童数：182名 学級数：8学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<p>○話す・聞く能力の記述式の問題では、全国平均を大きく上回っている。</p> <p>○読む能力の選択式の問題では、全国平均を若干上回っている。</p>	<p>○図表や資料を読み取り、目的を捉えたり、目的や意図に応じて根拠を明確にして書いたりする問題の正答率が低い。</p> <p>○話す・聞く能力の自分の理解を確認するための質問や、的に応じて質問の工夫をする問題において正答率が低い。</p>	<p>○スキルタイムや家庭学習を利用して、資料から読み取ったり、必要な資料を集め、得た情報を適切に関係づけて書いたりする課題に取り組みなどして多くの経験をさせる。</p> <p>○朝の会や帰りの会でスピーチタイムに取り組んだり、日常の授業で対話を積極的に取り入れたりする。</p>
算 数	<p>○数量や図形についての技能の選択式の問題において、全国平均を若干上回っている。</p> <p>○すべての問題において、全国や県と比べて無解答率がかなり低い。</p>	<p>○記述問題の正答率が選択式や短答式と比べると低い。</p> <p>○数学的な考え方における問題の正答率が若干低い。中でも、除法に関するしくみや考え方の問題の正答率が低い。</p>	<p>○単元や小単元別の学習プリントだけでなく、単元間や学年をまたいだ発展問題など家庭学習やスキルタイムで計画的に取り組んでいく。</p> <p>○数直線や線分図など図を使って問題に取り組み、対応する数や量、式の関係など説明させる。</p>
児童 質問 紙 調 査	<p>○自尊感情や地域行事への参加、学校が楽しい、国語や算数などの有用感などの回答が全国や県を上回っている。</p> <p>○外国のことを知ったり、自分たちのことを知らせたり、外国への興味関心が高い。</p>	<p>○地域や社会、クラスなど自分たちとかわりのある集団をよりよくするための意欲関心が低い。</p> <p>○算数の学習では、一つの解き方以外にさらに良い解き方がないか考えようとする児童の割合が若干全国や県よりも低かった。</p>	<p>○一つの考えで終わらず、今後さらに、対話や全体での学び合いの時間を確保し、多様な考えの良さを認めていきたい。</p> <p>○社会科や総合的な学習の時間で、地域に関わる内容について充実した地域学習を目指すことで、地域社会の一員としての自覚を高め、地域社会への参画意識を持たせたい。</p>

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- スキルタイムの年間計画やプリントの整備を行い、各学年の基礎的・基本的な事項の定着を確実に図る。
- 根拠を明らかにして考えを伝えたり、差異を意識して相手の考えを聞いたりするなど「話す」「聞く」「繋げる」を意識した対話型の授業作りを行う。
- 「話す」「書く」力を養うために、国語の教科書の「言葉の宝箱」や「漢字の広場」を各担任が意識し、授業やスキルタイム、家庭学習で活用することで、使える語句や漢字を増やす。

佐世保市立世知原小学校の結果・考察・改善策について

児童数：142名 学級数：7学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<p>○「学年別漢字配当表に示された漢字を文の中で正しく使う」ことに関しては、混同しやすい同音の漢字があるにもかかわらず、全国平均を上回った。</p> <p>○質問された相手が答えやすいように「目的に応じて質問を工夫する」という内容に関して全国平均を上回った。</p>	<p>○「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」「文と文との意味のつながりを考えながら、接頭語を使って内容を分けて書く」といった内容は県や全国平均を下回った。全体的に「書くこと」に関する領域や記述問題に課題がある。</p>	<p>○漢字の読み書きに関しては、家庭学習での取組も充実させ、小テストなどで習熟を図る。</p> <p>○主語や述語、文のつながりなどを意識させ、相手意識など、目的をもった文章を繰り返し書かせる。</p> <p>○進んで読書活動に取り組みさせる。</p>
算 数	<p>○長方形を直線で切ってきた図形から台形を選ぶ「台形の概念」や「棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る」という内容に関しては全国平均を上回った。</p> <p>○例に示された減法を基に「計算の仕方を解釈し、適用して問題を解くことができる」という内容に関して県平均を上回った。</p>	<p>○「考え方の根拠の記述」や「複数の資料の中から必要なものを選んで立式する」など「数学的な考え方」の観点や、「図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成することができる」「加法と乗法の混合した整数と小数の計算」など「数量や図形についての技能」の観点で、県や全国平均を下回った。</p>	<p>○少人数指導やTTによる指導の充実を図り、個に応じた学習指導を充実させたり、補充学習の時間を確保したりして、児童の基礎基本の学力の充実を図る。</p> <p>○学習形態を工夫し、説明の場を設けたり、考えを練り上げる場を設定したりするなど、対話的な学習に取り組みさせる。</p>
児童 質問 紙 調査	<p>○「自分にはよいところがある」「先生がよいところを認めてくれる」「将来の夢がある」など、自己肯定感や自分自身を見つめる項目が、県や全国より数値が高い。</p> <p>○公德心や親切・思いやり、学級への所属感、満足感など、人とのかわりに関する項目に関して、県や全国より数値が高い。</p>	<p>○ICT機器に関する関心は高いものの、活用率が県や国に比べ低い。</p> <p>○「算数の学習は大切だ、社会に出て役に立つ」と感じている割合は高いが、「普段の生活の中で活用できないか考えるか」という問いに、そうではないと答えた児童の割合が高い。</p>	<p>○行事等を通して、これまで以上に学級への所属感ややり遂げたことへの成就感を味わわせる。</p> <p>○算数の学習内容の生活化を図り、実生活に生かせないか考えさせる。</p> <p>○探究活動などでICT機器等を活用し、情報の取捨選択や正しい活用の仕方をも身につけさせる。</p>

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 全校での朝の学習の時間を活用し、基礎基本の充実を図るとともに、単元の学習に必要な知識や技能について補充し、普段の授業の理解を高める。
- 授業の中で学習形態や教材を工夫することで、自分の考えや思いを伝え合う、双方向の学び合いを展開し、児童の書く力、話す力を育てる。
- 単元や一単位時間の学習の見通しをもたせることで、主体的に学習に取り組みさせる。

佐世保市立赤崎小学校の結果・考察・改善策について

児童数：338名 学級数：15学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	○接続語を使って2文に分けて書き直す問題では、全国を上回っている。	○「話すこと・聞くこと」については、全国を大きく下回っている。 ○ことわざの使い方の例として口に入る適切なものを選択する問題については、全国を大きく下回っている。 ○置職人への思いや考えに着目して心に残ったことを書く問題については、無解答率が特に高い。	○朝の時間や家庭学習で、長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの学習に取り組みさせる。 ○授業の中で、話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる学習に取り組みさせる。
算 数	○長方形を直線で切った図形の中から台形を選ぶ問題は、全国並みにできている。 ○棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取る問題や、示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し適用する問題では、比較的できている。	○「量と測定」については、全国を大きく下回っている。 ○二つの棒グラフからわかることを選んでわけを書く問題や、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算する問題については、全国を大きく下回っている。 ○何秒後にゴンドラに乗ることができるのかを求める式を書く問題については、無解答率が高い。	○朝の時間や家庭学習で、「棒グラフの読み方やかき方」「単位量当たりの大きさ」の学習に取り組みさせる。 ○除法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりするために生かせるようにするため、「活用問題」や「ゆめあこ」などを活用し、類似問題に取り組みさせる。
児 童 質 問 紙 調 査	○設問(3)「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」において、「している・どちらかといえばしている」という回答が全国を上回っている。 ○設問(46)「算数の勉強は好きですか」において、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」という回答が全国を上回っている。	○設問(29)「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」と、設問(44)「国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えてたりしながら読んでいますか」において、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」という回答が全国を大きく下回っている。	○学級活動で話し合ったり、道徳の時間に議論したりすることより、より一層自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようにする。 ○国語の授業や家庭学習で、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりする経験を多く積みさせる。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 低学年段階からの基礎的な知識・技能の積み上げをより一層行う。
- 「学習規律の徹底」と「支持的風土の醸成」により児童が安心して学べるよう、さらなる授業改善に努める。

佐世保市立船越小学校の結果・考察・改善策について

児童数：125名 学級数：9学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○文と文との意味のつながり考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことができる。 ○話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をすることができる。 ○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図表やグラフなどを用いた目的を捉えること。 ○目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読書タイムや図書室利用において、説明文等の本を紹介し、図表やグラフに慣れ親しませる。 ○授業の「まとめ」「振り返り」において、ノートに自分の考えを書かせる。 ○日記指導において、条件作文を書く機会を多くする。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除数に関して成り立つ性質を記述できる。 ○目的に適した伴って変わる二つの数量を見出すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成すること。 ○示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述すること。 ○示された除法の式の意味を理解すること。 ○示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数学的な表現（具体物、図、表、グラフ）やICTを「学び合い」等の場で積極的に活用し、児童に図形や計算の意味、そして単位量を考える力を身に付けさせる。 ○習熟度別の学習を今以上に細分化し、推進する。 ○「学びの手引き」の活用法をさらに研究し、算数科の自主学習を定着させる。
児 童 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○起床時刻が安定していることから、規則正しい生活習慣が定着してきている。 ○教師が自分のよいところを認めていると感じ、信頼関係が築かれている。 ○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思えることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己有用感を抱くこと。 ○将来の夢や目標をもつこと。 ○算数の勉強に苦手意識をもっていること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級会活動や児童会活動を通して、「自己有用感」を抱く取組を行う。 ○総合的な学習の時間を活用して、キャリア教育やふるさと教育を推進し、視野を広げる。 ○校内掲示板に「算数コーナー」を作成し、親しみやすい算数クイズを提示する。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 定期的に基本的な生活習慣や学習習慣を保護者と共に振り返る。
- 「読書タイム」「図書室」を活用し、読書の質を高める。
- 校内研修の充実。
- 配慮を要する児童への個別の対応の強化。

佐世保市立日野小学校の結果・考察・改善策について

児童数：603名 学級数：22学級

	成 果	課 題	改善に向けた取組
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○全国平均には、及ばなかったが、県平均を上回ることができた。 ○読むことの問題は全国平均以上の正答率だった。 ○昨年度の県の学力テストと比べてすべての領域・観点・問題形式において数値の向上が著しい。 ○昨年度の県の学力テストと比べて無解答率が半減している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話すこと・聞くこと、言語について全国平均を下回った。 ○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項において全国平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達の意見を正しく聞き取ったり、自分の言葉で発表したりする表現の場を授業の中で設定することにより、話すこと・聞くことの向上を図る。 ○言語（熟語やことわざの意味や使い方）についての知識・理解の向上を図る。 ○最後まで、しっかりやりとげる習慣を付けさせる。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○全体としては、全国平均及び県平均を上回ることができた。 ○「量と測定」と「数量関係」の領域は、全国を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数と計算の領域で県や全国の平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを表現し、考え共有し、解決策を導く学習の場を授業で設定する。 ○学習形態を児童の実態に合わせて工夫し、少人数指導を行ったり学年全体で習熟度別学習を行ったりする。 ○単位数あたりの大きさについての向上を図る。
児童 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○家の人と学校での出来事について話をする児童が全国より上回っている。 ○人が困っている時は助けてあげたいと思う児童が全国を上回っている。 ○いじめはどんな理由があっても悪いと思う児童が全国より上回っている。 ○外国や外国人に興味をもっている子が全国より上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読書が好きでない児童や国語の授業の内容が分からない児童が多い。 ○コンピュータなどICTを活用した授業をもっとしたいと思っている児童が多い。 ○授業で学んだことを、ほかの学習に生かそうと思う児童の割合が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、繰り返しの時間を増やし学習内容の定着を図る。 ○「読書活動」の充実に取り組む。 ○コンピュータなどICTを活用した授業を積極的に取り入れていく。

〈学校全体で重点的に取り組む事項〉

- 国語科の校内研修に取り組む。
- プログラミング教育も含めたICTに関わる校内研修に取り組み、ICTを活用した授業を盛んにしていく。
- 授業の中でペア学習やグループ学習を数多く取り入れ、自分の考えや意見をもつ機会を与えると共に、自分なりに取り組もうとする場を設定する。
- 学年配当表にある漢字を文の中で正しく使ったり、ことわざの意味を理解して、作文等の表現に用いたりすることを学習の中で意識的に行う。

佐世保市立相浦小学校の結果・考察・改善策について

児童数：552名 学級数：22学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○県の平均も、国の平均も上回った。 ○4領域中3領域で、国と県の平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域が、全国と県の平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スキルタイムを活用して、漢字の習得を図る。また、主語・述語の確認等、文法の習熟問題にも取り組む。 ○授業中に辞書を使用する場面を増やす。また家庭学習でも活用するよう家庭に啓発する。 ○学校司書を活用した読書活動の充実を図る。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○「量と測定」の領域で、国と県の平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「数と計算」「図形」「数量関係」の3領域で、国と県の平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スキルタイムを活用した基礎問題の反復練習。 ○「めあて」「見通し」「まとめ」「ふり返し」を明確にした授業実践。 ○図を活用する力を高めるため、学年間の図の系統性を確かめる。 ○「割合の三用法」に関連する全学年の単元を、重要指導単元とする。
児童 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○算数は大切な教科であり、将来役に立つと考えている児童が多い。 ○国語のテストにおいて、文章で解答する問題を、できるだけ最後まで書こうとしている児童が多い。 ○いじめは悪いことと、答えた児童が多かった。 ○成功体験から充実感を得た経験がある児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○算数の大切さは、理解しているが、難しいと感じている児童が多い。 ○国語に対する苦手意識がある児童が多い。 ○いじめが悪いと答えた児童が100%ではなかった。 ○新聞を読んでいない児童が8割を超えている。 ○地域や社会への関心が低い児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が授業を理解する喜びを感じられるような授業改善を、校内研修を中心にして行う。 ○道徳科をはじめとした学校生活全体を通して、いじめについて指導する。 ○小学生新聞を活用する。 ○地域との連携・協働が図れるカリキュラム・マネジメントを研究する。

<学校全体で重点的に取り組む事項>

- 校内研修を中心にした、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善
- 「めあて」と「まとめ」を明確に位置づけた授業
- 間違いを生かす指導
- 児童が本音で発言できる学級づくり
- 思考力・判断力・表現力を高める「書く活動」の充実
- 叙述に基づいて「理由」を述べさせる発問

佐世保市立相浦小学校高島分校の結果・考察・改善策について

児童数：6名 学級数： 2学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<p>○問題にあった資料の目的について理解していた。</p> <p>○題意に即して目次から正しいものを選ぶことができた。</p>	<p>○条件作文について、ほぼ適正な文を書くことができなかった。</p> <p>○言語事項の問題が全て不正解だった。</p> <p>○全体の平均正答率が、全国、県、市に対し、大きく下回った。</p>	<p>○授業だけでなく、時に応じて、自分の考えや筆者の主張などを、条件を与えて書かせる取組の実践。</p> <p>○日記や手紙、お礼文等での習得。</p> <p>○読書量の向上。</p> <p>○当該学年の漢字の習得だけでなく、既習事項の振り返り問題を定期的に行う。</p> <p>○漢字以外の言語事項の復習。</p>
算 数	<p>○図形の合同についてはほぼ理解できていた。</p> <p>○1つのグラフを基にした数値の変化や比較について理解できていた。</p> <p>○四則計算の立式、関係図の読み取り、小数の計算については、正しく理解できていた。</p> <p>○順列についての理解もよくできていた。</p>	<p>○理由や証明において、適切な語句を使い、わかりやすく書く（説明する）ことができなかった。</p> <p>○2つのグラフの比較等、複数の情報を整理することに課題がある。</p>	<p>○自分の考えを適切に文で表すことの訓練強化。</p> <p>○日常的な問題、自分の生活に習ったことを生かすための意欲付け。</p>
児 童 質 問 紙 調 査	<p>○規則的な生活、生活のきまりを守ること、登校への意欲等はある、基本的に学校生活を楽しんでいることが伺える。</p>	<p>○物事を深く考えること、日常生活に生かそうとする意欲が弱かった。</p> <p>○家庭学習を中心に、学年の実態として、学習に取り組む時間は少ない。</p> <p>○将来の夢など、自分の生き方に意欲をもって臨んでいないことが伺える。</p>	<p>○分校の中での最年長者として、下級生を引っ張るリーダー性の育成。</p> <p>○主体的に学習に取り組むための奨励、意欲付け。</p> <p>○キャリア教育を含めた、将来を見据えての目標作りの手助け。</p>

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 授業を中心とした「書くこと」の能力向上
- 読書活動の推進
- 複式授業時の主体的な学び方の習得
- 家庭学習の習慣化

佐世保市立相浦西小学校の結果・考察・改善策について

児童数： 641名 学級数： 24学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○全国・県平均を上回った問題 ・漢字を文の中で正しく使う。 ○比較的正答率が高い問題 ・目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む。(選択式) ・話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って自分の理解を確認するために質問する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国・県の平均を下回った。 ○全国・県の平均を大幅に下回った問題 ・図やグラフなどを用いた目的を捉える。 ・情報を伝えるための記述の仕方の工夫を捉える。 ○「書くこと」の領域について課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「めあて」「まとめ」を確実におさえ、視写や条件作文等「書く活動」を取り入れた授業の構築 ○読書活動推進による語彙力の向上 ○県教育センター作成「学力向上活用教材」等を使用した活用力の向上
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○比較的正答率が高い問題 ・棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取る。 ・目的に適した、伴って変わる2つの数量を見出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国及び県の平均を下回った。 ○全国及び県の平均を大幅に下回った問題 ・加法と情報が混同した整数と小数の計算 ・示された減法に関して成り立つ性質をもとにした計算の仕方の解釈・適用 ○「数と計算」「数量関係」の領域に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度別少人数指導等、よりきめ細かな指導のための授業形態の工夫 ○意味理解を深める。 ・立式等の根拠を書かせる。 ・問題→式、式→問題、図→問題等、提示を工夫する。 ○県教育センター作成「学力向上活用教材」等を使用した活用力の向上
児 童 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○全国及び県の割合より高い項目 ・朝食を毎日食べているか。 ・先生がよいところを認めてくれるか。 ・困っている人を助けるか。 ・読書は好きか。 ・国語の勉強は大切と思うか。 ・算数の学習は将来役に立つと思うか。 ・国語の解答時間 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国及び県の割合より低い項目 ・学級で決めたことに協力して取り組む。 ・学校のきまりを守る。 ・家庭学習 ・読書時間 ・新聞を読む。 ・ICTを活用した授業 ・話し合い活動で自分の考えを深める。 ・総合的な学習の時間における探究活動 ・考え議論する道徳 ・算数の授業がよくわかる。 ・算数の解答状況 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学びのスタンダード」の指導を基本とした、学習規律の徹底 ○家庭学習の習慣化に向けた保護者への啓発 ・パンフレット、マニュアルの作成等 ○対話活動の充実 ○総合的な学習の時間の充実 ・体験型から探求型へ ○「特別の教科 道徳」の授業改善 ○習熟度別少人数指導等、よりきめ細かな指導のための授業形態の工夫

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 「新 学力向上のための土台となる5つの考え方」に則った指導の徹底
- 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善
- 規範意識（学習規律・生活指導）及び支持的風土の醸成
- 学力定着に向けた、より効果的な家庭学習の在り方の検討（質・量・家庭との連携等）
- 読書活動のより一層の充実

佐世保市立相浦西小学校大崎分校の結果・考察・改善策について

児童数：35名 学級数：4学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にして、まとめて書くことは、全国を上回った。 ○学年別漢字配当表示されている漢字を文の中で正しく使うことは、全国と同等又は上回っているものがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語は全国を下回った。 ○「読む」領域においては、全国を大きく下回っている。 ○「話すこと・聞くこと」の領域では、話し相手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するために質問することや、目的に応じて、質問を工夫することが、全国を大きく下回っている。 ○無解答がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○根拠を明確にした書く活動や、根拠を明確にした話し合い活動を設定する。 ○複数の情報から必要な情報を選択したり、活用したりする課題に取り組む。 ○教材文や問題文に印（線）をつけ、内容や題意を明確にする。 ○「めあて」と「まとめ」を明確にした授業を実践する。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○「量と測定」の領域では、全国を上回っている。 ○棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ったり、目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだしたりすることなどの正答率が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○算数は全国より若干下回っている。 ○「数と計算」の領域では、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質の記述や、除法の式の意味を理解することが、全国を大きく下回っている。 ○無解答がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本的な力の定着のために、個に応じた課題設定を充実させる。 ○複式ガイド学習を基に、自分の考えを明確にもち、他者の意見と比較しながら活動することができるようにする。 ○実生活との関連を図り、児童の関心を高める。
児童 質問 紙 調査	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日、同じくらいの時刻に起きようとする意識が定着している。 ○いじめはいけないう事だと思っている。 ○人が困っているときに、進んで助けようとする意識が高い。 ○地域行事への参加が全国平均を大きく上回っている。 ○国語や算数の学習が、将来役に立つと考えている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日の課題以外に、進んで取り組む児童が少ない。 ○家の人と学校での出来事について、あまり話をしていない。 ○読書は好きだが、本に触れる機会が少ない。 ○地域や社会をよくするために自分で考えることができていない。 ○新聞を読んでいる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学年に応じた家庭学習の手引きを作成し、自主的な学習の定着を図る。 ○学校保健委員会と連携した生活習慣に関する取組や、家庭学習の状況を保護者と共有する取組を行い、基本的な生活習慣と自主的な学習の習慣化を図る。 ○高学年では子ども新聞を活用し、より多くの活字に触れさせるとともに、記事の内容を要約したり、伝えたりする機会を設定する。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 学習規律の徹底「学びのやくそく」と「ガイド学習」の定着を図る。
- 大崎スタイル（複式指導の質の向上）の定着・充実を図る。
- 子どもたちにとって明確な「めあて」と「まとめ」のある授業展開を図る。
- 複数の情報から必要な情報を選択したり、活用したりする課題に取り組む。
- 少人数をいかした個に応じた指導の充実を図る。

佐世保市立中里小学校の結果・考察・改善策について

児童数：555名 学級数：21学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○全体平均正答率は全国より若干低いが、県より高い。 ○読むこと、読む能力の平均正答率は全国を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話すこと・聞くこと、話す聞く能力の平均正答率は全国を若干下回った。 ○書くこと、書く能力の平均正答率は、全国を下回った。 ○言語に関するものの平均正答率は全国を若干下回った。 ○中央値、標準偏差は全国値を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○理解したことや考えたことを表現する場を多様に設定する。 ○話すこと・聞くこと及び書くことを相互に取り入れ、対話的な学習の充実を図る。 ○自分の考え、思いや願い等を書く活動に取り組む。 ○図書館教育の充実を通して、読書量の増加を目指す。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○全体平均正答率は全国より若干低いが、県より高い。 ○図形、数量や図形に関する技能の平均正答率は、全国を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数と計算、量と測定、数量関係の平均正答率は、県、全国を下回った。 ○数学的な考え方の平均正答率は、県、全国を下回った。 ○数量や図形についての知識・技能の平均正答率は全国を若干下回った。 ○中央値、標準偏差は全国値県値を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習にドリル練習を取り入れ、計算力の向上を図る。 ○考え方を説明する対話的な学習を取り入れ、思考・判断・表現力の向上を図る。 ○めあてを確実に設定し、粘り強く学習に取り組むことを通して、主体的な学習を展開する。
児 童 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○学校に行くのが楽しいと思う児童の割合は、県・全国より大きい。 ○学校のきまりを守っている児童の割合は、県・全国より大きい。 ○道徳の授業で話し合い活動に取り組んでいると思う児童の割合は、県・全国よりも大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人が困っているときは進んで助けるに当てはまる児童の割合は、県・全国より若干小さい。 ○新聞を読んでいる児童の割合は、県・全国より小さい。 ○授業中のICTの使用程度の割合は、県・全国より小さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返り活動に取り組む等、学習で育てた主体性をより体験活動に生かし、実践力の向上を図る。 ○ICTの環境整備、その活用方法について職員研修を実施する。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 書く活動や対話的な学習を取り入れた授業改善、研究授業の充実
- 学力向上を目指した学習環境の整備（教材、掲示物等）
- 家庭学習の充実のために保護者啓発資料作成配布（時間、内容、進め方等）
- 基礎学力の向上を図る取組（ノートの使い方や必要な学習用具等の共通実践）

佐世保市立皆瀬小学校の結果・考察・改善策について

児童数：41名 学級数：2学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」の領域以外は全国平均より上回った。また、無解答率は全国より低かった。 ○「読むこと」「話すこと・聞くこと」の領域の「目的に応じて読む」「目的に応じて質問を工夫する」問題についての正答率はかなり高く、学力の定着がうかがえる。 ○「書く」の領域の「理由を明確にし、自分の考えを書く」については正答率が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書く」の領域は、全国平均よりやや下回った。「図表やグラフなどを用いた目的を捉える」ことが苦手である。 ○「漢字を正しく使う」の3問中2問のみ正答率が高く定着の不安定さがうかがえる。 ○「文と文をつなぐ接続語を使って内容を分けて書く」問題の誤答が多く、原稿用紙に解答することへの苦手意識を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○説明文や報告文において、本文と関連付けて資料の目的について考えさせる。社会や総合等の他教科でも資料の見方や読み方について考えさせ、資料を読み取る力の向上を図る。 ○漢字や言語についての知識・理解・技能面の学力を十分に定着させるために家庭学習等も活用して反復練習をさせる。 ○原稿用紙を用いて文章を書かせる機会を多くとる。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○「棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる」の問題は全員正解だった。 ○「減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し適用する」問題の正答率が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○どの領域も全国平均を下回っていたが、「数と計算」「量と測定」が特に低く、正答率の上位を占める児童の割合が小さい。 ○「数量や図形についての技能」に関する問題の正答率がかなり低く、基礎的な知識・技能の積み上げが不十分である。 ○「面積の求め方を説明する」「複数の数量から必要な数量を選んで立式する」の問題の正答率が低く、無解答の児童も多かったため、表現する力が劣っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計算力の定着を徹底させるために、整数・小数・分数の四則演算の反復練習を継続させる。 ○面積の公式や算数用語等の復習問題に取り組みせ、知識の定着を図る。 ○文章問題を解くとき、題意を捉えること、学習したことを活用して求めること、立式・図・表などを用いて求めることを重点に置いて指導していく。
児 童 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○「先生はよいところを認めてくれている」「分かるまで教えてくれている」という安心感をもつ児童が平均より多い。 ○「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「毎日朝食を食べる・同じ時刻に寝る」児童が全国平均よりやや少ない。 ○「将来の夢や目標をもつ」児童が全国平均より少ない。 ○「友達に自分の考えを広げたり深めたりすることができる」児童が平均より少ない。 ○5年生までにICTを使用した程度が極端に少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣を高め、身につけるように家庭に呼びかけをする。 ○様々な行事等で目標をもたせ、それを達成させる経験を積ませる。 ○学級で支持的雰囲気をつくり、自由に発言し教え合う場を確保する。 ○ICTを活用した学習を増やす。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 基礎基本の読み・書き・計算の力の定着のために、朝のチャレンジタイム活用と家庭学習での習慣化を図る手引きの活用を行う。
- 早寝・早起き・朝ご飯の摂取・メディアコントロール等の調査を定期的の実施して家庭への啓発を行う。
- 総合的な時間を中心に他教科においてもICTを活用する場を設定する。

佐世保市立吉井南小学校の結果・考察・改善策について

児童数：207名 学級数：11学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<p>○話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする問題は、全国及び県平均を上回った。</p> <p>○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる問題は、県の平均を上回った。</p>	<p>○全体として全国及び県の平均を下回った。</p> <p>○情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える問題は全国及び県の平均を大きく下回った。</p> <p>○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題は、全国及び県の平均を大きく下回った。</p> <p>○ことわざの意味を理解して自分の表現に用いる問題は全国及び県の平均を大きく下回った。</p> <p>○「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に課題がある。</p>	<p>○「めあて」「まとめ」を確実におさえ、「書く活動」を取り入れた授業の構築</p> <p>○主体的、対話的で深い学びの視点からの、生活科・総合的な学習の時間の充実（校内研修）</p> <p>○ドリル等を活用した漢字練習の取組の継続</p> <p>○年間目標冊数を掲げた読書活動の推進を通しての語彙力の向上</p> <p>○県教育センター作成「学力向上活用教材」を使用した活用力の向上（授業、家庭学習）</p>
算 数	<p>○示された除法の式の意味を考える問題は、全国及び県の平均を大きく上回った。</p> <p>○目的に適した伴って変わる二つの数量を見い出す問題は、全国及び県の平均を大きく上回った。</p> <p>○示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式する問題は、全国及び県の平均を上回った。</p>	<p>○全体として全国及び県の平均を下回った。</p> <p>○2010年の市全体の水の使用量が、1980年の市全体の水の使用量の何倍かを読み取る問題は、全国及び県の平均を大きく下回った。</p> <p>○加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする問題は全国及び県の平均を大きく下回った。</p> <p>○「数量や図形についての技能」に課題がある。</p>	<p>○「めあて」「まとめ」を確実におさえた授業の構築</p> <p>○少人数指導等、よりきめ細かな指導のための授業形態の工夫</p> <p>○ドリル等を活用したくり返しの学習による基礎・基本の確実な定着</p> <p>○県教育センター作成「学力向上活用教材」を使用した活用力の向上（授業、家庭学習）</p>
児 童 質 問 紙 調 査	<p>○「いじめ」については、全員がどんな理由があってもいけないことだと回答し、全国と県の平均を上回った。</p> <p>○「ICTへの興味・関心」は全国と県の平均を大きく上回った。</p>	<p>○「将来の夢や目標を持っている」は、全国と県の平均を大きく下回った。</p> <p>○「国語の勉強は好きか」は全国と県の平均を大きく下回った。</p> <p>○「国語で学習したことの活用」は全国と県の平均を大きく下回った。</p>	<p>○総合的な学習の時間の取組を生かした、キャリア教育の充実</p> <p>○主体的、対話的で深い学びの視点からの、国語科の授業改善の促進</p>

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 探究活動を通じた表現力の向上をねらいとする生活科・総合的な学習の時間の研究（校内研修）
- 年間目標冊数を掲げた読書活動の推進を通して語彙力の向上を図る。
- 県教育センター作成「学力向上活用教材」を使用した活用力の向上（授業、家庭学習）
- 主体的、対話的で深い学びの視点からの、国語科の授業改善の促進

佐世保市立吉井北小学校の結果・考察・改善策について

児童数： 90名 学級数： 8学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」についての領域の問題の正答率の平均は、全国・県の正答率を上回っている。 ○全体的に無解答率が全国・県と比べて低い割合である。 ○「目的に応じて、文章全体を概観して効果的に読む」問題の正答率が全国・県の正答率を若干上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体の正答率が全国・県の正答率のよりも大きく下回っている。 ○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率が全国・県の正答率を大きく下回っている。特に、漢字についての問題の正答率は、全ての問題においてとても低い。 ○短答式の問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作成した「学び方の基礎基本」を徹底して身につけさせることで、学びに向かう姿勢づくりを粘り強く進める。 ○漢字の小テストを各単元で実施し、定着を図る。 ○思考力・判断力・表現力を育てるために個人で考える時間から全体で考える時間への流れを全教科で統一し、授業改善に取り組む。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に無解答率が全国・県と比べて低い割合である。 ○「加法と乗法の混合した整数と小数の計算」に関する問題の正答率が、全国・県の正答率より若干高い。 ○「数と計算」の領域の問題の正答率は、全国・県の正答率を下回っているものの大きな差はない。また、選択式・短答式の正答率も同様である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全ての領域において、全国・県の正答率を下回っている。特に、「量と測定」の領域の正答率は著しく低い。 ○「記述式」の問題の正答率が、全国・県の正答率より大きく下回っている。 ○「単位量当たりの大きさ」や「2つのグラフからの読み取り」の問題の正答率は、著しく低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作成した「学び方の基礎基本」を徹底して身につけさせることで、学びに向かう姿勢づくりを粘り強く進める。 ○毎週1回のチャレンジタイムで基礎基本の定着を図り、少人数指導を実施し、効果を高める。 ○解き方や考え方を文章化することができるまで理解させることを徹底する。
児 童 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○同じ時刻に寝て、起きているなど規則正しい生活を送っている児童の割合が全国・県よりも上回っている。 ○人が困った時に助けていると答えている児童の割合が、全国・県平均よりも大きく上回っている。 ○算数の学習が、将来役に立つと感じている児童の割合が高く、必要性を感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○きまりを守っていると自覚して、学校生活を送っている児童の割合が低い。 ○本や新聞を読む時間を確保している児童の割合が低く、関心も薄い。 ○国語の学習への意欲や必要性を感じている児童の割合が低く、学習内容がわからないと感じている児童の割合が高くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども新聞を学校購読し、放送委員会の活動を活性化させる。 ○保幼小連携、小中連携を進めながら、地域の子どもは地域で育てる環境づくりを進める。 ○地域運営学校を視野に入れながら「よく考える子」「しんせつな子」「きたえる子」の児童像を地域と共有し特色ある学校づくりを進める。

<学校全体で重点的に取り組む事項>

- 「書くこと」の能力の育成
- 無解答率を下げる
- 児童の学習時間の確保と指導・支援の質の向上
- 学習のきまり「学び方の基礎基本」の徹底
- 算数・国語において、全学年で統一した学習の振り返りの実践
- 朝の時間の積極的活用（チャレンジタイムなど）と充実・徹底

佐世保市立小佐々小学校の結果・考察・改善策について

児童数：215名 学級数：12学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○無解答率が減り、どうにかして問題を解こうとする児童が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○領域別、観点別ともに全国平均を下回った。特に、領域別では、「書くこと」や「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が大きく下回った。 ○問題別では、「目的に応じ、自分の考えを明確にしながらかきだり書いたりする問題」が全国平均を大きく下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「漢字」「読むこと」「書くこと」に関しては、スキルタイムを活用し、取り組む。 ○過去の全国学力状況調査の問題や関連する問題を関係学年に取り組みさせる。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○「図形の面積をどのように求めているかを解釈する問題」、「除法の式の意味を選ぶ問題」では、全国平均を上回った。 ○「加法と乗法の混合した整数と小数の計算」では全国平均を大きく上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○領域別、観点別ともに全国平均を下回った。特に、領域別では、「量と計算」「数量関係」が大きく下回った。 ○問題別では、「資料やグラフから読み取る問題」が全国平均を大きく下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修において身につけたい力を明確にして、どうすれば学力充実が図れるかを研究し、実践する。 ○算数の言語活動「図や表、グラフの活用」「説明する活動」「書く活動」を取り入れた授業を行う。 ○過去の全国学力調査の問題や関連する問題を関係学年に取り組みさせる。
児 童 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の行事に参加している児童の割合が全国平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝食をとる、早寝早起きなどの基本的な生活習慣が定着していない。 ○進んで計画的に家庭学習をする子どもが少なく、宿題だけで終わっている。 ○新聞を読んだり家庭で読書をしたりする児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者と連携し、規則正しい生活の定着、家庭学習の習慣化に取り組む。 ○計画的に学習する児童が少ないという現状をふまえ、「家庭学習のしおり」を活用し、復習や予習を取り入れた自主学習の仕方を指導する。 ○新聞記事を紹介したり、家庭での読書を勧めたりする。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 「漢字」「読むこと」「書くこと」に関しては、スキルタイムを活用し、取り組む。
- 算数の言語活動「図や表、グラフの活用」「説明する活動」「書く活動」を取り入れた授業を行う。
- 国語や算数の習熟問題プリントを活用し、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れているかを繰り返し確認する。

佐世保市立楠栖小学校の結果・考察・改善策について

児童数： 149名 学級数： 7学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○目的に応じて、本や文章を概観して効果的に読むことは平均を上回った。 ○目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことは平均を若干上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図表やグラフを用いた目的を捉える問題は、平均を下回った。 ○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことは平均を下回った。 ○目的に応じて質問を工夫する問題は平均を下回った。 ○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることは平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物語や説明文において、目的や意図を明確にして読む活動、そして、そこから得られた情報を、自ら話したり書いたりする活動を単元内で構想し、出力する場面を増やしていく。 ○出題の意図を明確に捉えるために、与えられた条件や問われていることに印を入れていく活動をこれからも継続して指導していく。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○長方形を切ってできた図形の中から台形を選ぶ問題は平均を上回った。 ○棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る問題は平均を上回った。 ○加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする問題は平均を上回った。 ○示された除法の式の意味を理解する問題は平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する問題は平均を下回った。 ○示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用する問題は平均を下回った。 ○場面の状況から単位量あたりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、判断する問題は平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えや方法を、ノートに書いたり相手に伝えたりする活動を、意図的に単元内で構想し、出力する場面を増やしていく。 ○割合や単位量あたりの大きさの問題の解き方に関するツール（関係図・2本の数直線）を、場面に応じて使いこなせるように指導を重ねていく。
児 童 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の決まりを守ることにについては平均を上回った。 ○人が困っているときは、進んで助けることについては平均を上回った。 ○今住んでいる地域の行事に参加することについては平均を上回った。 ○学校の授業以外に、普段から勉強をしているかについては平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分にはよいところがあると思うかについては平均を下回った。 ○学校の授業以外に、普段から読書をしているかについては平均を下回った。 ○総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて、情報を収集・整理して発表したかは平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科において、自分で課題を立てて情報を収集し、整理してまとめ、発表する学習を展開させる。 ○学習に関して、自己肯定感が低いので、できるようになったことを見つけ、賞賛することを継続する。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 算数においては、「楠っ子スタイル」の文章問題の解き方にあるように、低学年のうちから図をかいて考え、説明する力を身につける授業構想を実践していく。
- 国語においては、時間を決めて長文を速く正確に読み取ったり、出題の意図を明確に捉えたりする技術（キーワード探し、問いの文の把握、本文との関連）を身につけさせる。
- 自己肯定感を高めるために、目標を達成した時や課題を追求する過程で、声かけや適切な支援をしていく。

佐世保市立江迎小学校の結果・考察・改善策について

児童数：180名 学級数： 9学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○国語全体では、長崎県平均を若干上回った。 ○校内研究の領域である「読む能力」については、全国平均、長崎県平均よりも大きく上回った。 ○「話す・聞く能力」は全国平均、長崎県平均を上回った。 ○「国語への関心・意欲・態度」は長崎県平均を若干上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語全体では、全国平均を若干下回った。 ○「言語についての知識・理解・技能」が全国平均、長崎県平均を下回った。 ○「書く能力」が全国平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語スキルタイムを「言語についての知識・技能」に特化する。 ○「書く能力」の課題に対し、目的や必要に応じて理由や事例をあげて文章を書く力は、1時間の授業の中だけでなく、各単元の学びの中で計画的に取り入れる。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○図形の領域では、全国平均、長崎県平均を上回った。 ○場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、判断する問題が、よくできていた。 ○無解答率の割合が低く、2項目以外すべて0%である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「数と計算」の領域で全国・県平均との差が大きく下回っている。 ○除法の計算の仕方についての記述の問題で無解答が少数であるがあり、正答率も極めて低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日々の授業の中で、着目すべきところや考えるための見通しをもたせる。 ○計算技能において既習を生かし問題を解決する経験を積み重ね、算数のスキルタイムでは、個別の進度を把握し、個別支援を強化する。
児 童 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○国語・算数ともに、勉強が好きだと答えている割合が多い。 ○国語の学習の必要性を感じている児童の割合が高い。 ○地域行事への参加は全国平均、長崎平均よりもかなり多い。 ○ICTを活用した学習の割合も非常に高い。 ○外国語への興味関心も非常に高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○平日の学習時間・読書時間が全国平均、長崎平均を下回っている。 ○自分の考えを発表するときに、資料や文章、組み立てを工夫している割合が極めて低い。 ○授業中の課題解決に向けて、自分から進んで取り組む児童の割合が県・全国平均に比べ低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度より行っている構成的エンカウンターを学級内で計画的に実施していく。 ○学習用具や学びのスタンダードを定着化させる。 ○生活時間調べを年間通して行い、その結果を基に反省し自己のよりよい生活習慣を身に付けさせる。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- どの教科でも根拠を示して自分の考えを述べたり書いたりする活動を取り入れる。
- 読書活動を見直し、分類別貸し出し冊数を調べ、学年や、個に応じて目標を持たせ、レベルアップを図らせる。
- 計算技能において既習を生かし問題を解決する経験を積み重ね、算数のスキルタイムでは、個別の進度を把握し、個別支援を強化する。
- どの教科でも、めあて→見通し→学び合い→まとめの学習サイクルを共通理解のもと確実に行う。

佐世保市立猪調小学校の結果・考察・改善策について

児童数：113名 学級数：10学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○全国平均を上回った。 ○「書く」「読む」の観点では、全国平均を上回った。 ○問題形式別では、「選択式」「記述式」で全国平均を上回った。 ○無解答がほぼない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「対象」「限らず」の漢字を正しく使う問題で全国平均を下回った。 ○「1文を2文に分けて書き直す」問題で全国・県の平均を下回った。 ○「目的に応じた質問の工夫」の問題で全国・県の平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○適切な言語活動を設定し、児童が目的をもって学習できるように単元構成を考える。 ○漢字の習熟度を適宜見取り、文の中で活用できるように指導する。 ○書く活動を意図的に仕組み、接続詞を適切に使えるように指導する。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○県平均を若干上回った。 ○「数学的な考え方」「知識・理解」の観点では、全国平均を上回った。 ○問題形式別では、「記述式」で全国平均を上回った。 ○無解答がほぼない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国平均を若干下回った。 ○「技能」の観点では、全国・県の平均を下回った。 ○四則混合計算の問題が全国・県の平均を大きく下回った。 ○「目的に適した伴って変わる2つの数量を見出す」「複数の数量から必要な数量を選び立式する」問題が全国・県の平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○四則計算は下学年の内容についても適宜復習を行い、確実に定着するように指導する。 ○授業の中で、式やグラフ・表などの意味を説明する活動を意図的に行う。 ○家庭学習や学習タイムで活用問題に取り組む。
児童 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○「自分にはよいところがある」と思う児童が全国平均を上回った。 ○「先生はよいところを認めてくれる」「分かるまで教えてくれる」と思う児童が全国平均を上回った。 ○友達と話し合うことで、考えを深めたり、問題を解決したりする児童が全国平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「難しいことでも、失敗を恐れず挑戦している」児童が全国・県平均を下回った。 ○「計画を立てて勉強している」という積極的な肯定意見が全国・県平均を下回った。 ○「読書は好き」という児童が全国・県平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○支持的風土の醸成のために、学級活動の充実を図る。 ○「家庭学習の手引き」の活用を「成長的マインドセット」の視点と合わせて呼びかけ、目的をもって家庭学習に取り組めるようにする。 ○図書館や子ども新聞の活用を含めた読書活動の充実を図るために、学校司書との連携を深める。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 校内研修の取組である「深い学び」のある算数科学習を推進し、職員間の情報交換を活発に行う。
- 「コミュニケーションレベル表」の活用を充実させる。
- 読書活動の充実を図る。

佐世保市立鹿町小学校の結果・考察・改善策について

児童数：102名

学級数：9学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○全ての問題で全国平均を上回った。特に「書く能力」の正答率が良かった。 ○無解答がなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○伝国の領域の「かんしん」の書きができていなかった。 ○(1)(2)の両方から、分かったことについて言葉を抜き出し、まとめて書くことが低かった。 ○「習うより慣れよ」の意味を捉え切れていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日々の学習では、ねらいに迫る言語活動を念頭に置いた「めあて」「まとめ」を工夫し書かせる。 ○視点を明らかにして、書かせたり、発言したりさせるようにする。 ○条件に合わせて記述させることや、目的に合わせて構成を考えながら記述する学習にすべての教科で取り組む。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○ほとんどの問題で全国平均を上回った。 ○無解答がなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単分量あたりの大きさや割合の意味(基準量・比較量)、それらを数直線上に表すことなどの理解に課題がある。 ○問題(条件)に合うように、答える、記述する問題に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国平均は下回らないが、全体とし「数と計算」分野が高く出ている。数量関係を理解することや、考えを式で簡潔に表現していく必要がある。
児童 質問 紙 調査	<ul style="list-style-type: none"> ○自分によいところがあり、先生から認められているという児童の割合が高い。 ○学校のきまりを守る、いじめはいけない、人の役に立ちたいなど規範意識の高い児童の割合がとても高い。 ○家庭学習はほぼ全員が平日1時間以上行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝食を毎日食べない児童の割合がやや多い。 ○将来の夢や目標をもっていない児童の割合がやや多い。 ○新聞を読んでいない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校が楽しく、学級への帰属意識が高い児童が多く、今後も子どもたちのもつよさを認め、伸ばす教育を続けていく。 ○学校教育の中で、子ども新聞や、新聞の活用をすすめる。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 学力テストの結果を基に落ちている部分を分析し、朝の鹿町タイムにおいて2人体制で取り組む。特に条件に合わせて記述する、読み取って必要な事を抜き出す等の学習に取り組ませる。
- 日々の学習では、ねらいに迫る言語活動を念頭に置いた「めあて」「まとめ」を工夫し書かせる。
- 視点を明らかにして、学習の振り返りを書かせる。
- 授業において、思考ツールを活用して、自分の教えを伝え合わせる。

佐世保市立歌浦小学校の結果・考察・改善策について

児童数： 92名 学級数： 7学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○全国平均を上回った。 ○話すこと・聞くこと、書くこと、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の3領域において全国平均を上回った。 ○聞く・話す能力、書く能力、言語についての知識・理解・技能の3観点で全国平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○領域②「読むこと」、観点④「読む能力」がやや下回る。 ○目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができていない。 ○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むことができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文章を書く際に、条件（字数・内容）や時間制限を設ける。また、個別指導を行う。 ○場面や相手に応じた表現など表現のバリエーションを増やす（国語巻末の活用）。 ○課題読書をさせる。 ○あらゆる場面で音読を取り入れる。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ○領域①「数と計算」、観点②「数学的な考え方」でやや平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「量と測定」、「図形」、「数量関係」の3領域で全国平均を下回った。 ○「技能」、「知識・理解」の2観点で全国平均を下回った。 ○式の意味理解が不十分である。 ○資料の特徴や傾向を関連付けて、考えたり理由を書いたりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○式を読む活動を仕組む。 ○友達の式について説明する機会を設ける。 ○問題場面のイメージの具体化・共有化を図り、見通しや検討をつけて問題を解かせる。 ○ペア活動で説明し合わせる。 ○過去問や系統プリントを活用する。
児 童 質 問 紙 調 査	<p>成果があった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○分かるまで教えてくれた ○達成感を味わった経験 ○きまりを守る ○全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した（算数） 	<p>課題があった項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分のよさ ○読書好き ○国語・算数好き ○外国への興味関心 ○話や文章の組み立ての工夫 ○文章や資料を読むとき、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読む 	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りをさせることでメタ認知能力を高めたり、出来たことを褒めて自尊感情を高めたりする。 ○手元に本がある生活をするよう学級で図書室を利用したり、本の紹介を行ったりする。 ○文章構成や表現の工夫などについて教え、活用させる単元の構想を行う。

<学校全体で重点的に取り組む事項>

- 音読を国語科だけでなく、他教科や授業以外でも意識して多く取り入れる。
- 思考ツールを取り入れた交流（対話）活動を仕組む。
- 授業後や行事後に全校共通の視点を用いて、振り返りを行う。
- 朝のチャレンジタイムで習熟を図る。
- 歌小の学習スタイルを決め、活用する。

佐世保市立宮中学校の結果・考察・改善策について

生徒数：59名 学級数：5 学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	○平均を若干上回った。無解答率も低く課題に取り組もうとする意欲がみえる。	○「書くこと」に対して苦手意識がある。無解答もこの問題で出ている。	○様々な情報から必要な情報を取り出すことや条件に合うように書くといった学習を授業の中に仕組む。 ○考えや意見を伝え合う場を設定する。
数 学	○全国平均を上回った。	○課題内容を把握し、事象を式や文章で説明する問題の正答率が低かった。 ○無解答の生徒は、ほぼ同じ生徒で、その生徒は、どの分野においても基礎学力が定着していないことがわかる。	○キーワードを使って本時にわかったことを文章で表現する活動を仕組む。 ○単元構想を見直し、基礎学力を補う場面と発展的内容を取り扱う場面を適切に取り入れる。
英 語	○全国、県ともに平均を下回った。	○「話すこと」に関する正答率がとても低い。対話の内容を聞き取ることはできるが、返答することができていない。	○やり取りの内容を踏まえて自分の考えをまとめ、即興で話す活動を取り入れる。 ○文構造を正しく理解し、正しく応答できる練習を授業で取り入れる。
生徒 質 問 紙 調 査	○学ぶことが大切であると回答する生徒の割合が高い。 ○自分で計画を立てて学習すると回答する生徒の割合が高い。フォーサイトノートによる指導に、効果があったと考えられる。 ○規範意識が高い。	○自己肯定感が県や全国と比較すると低い。また、「将来の夢や目標を持っている」も平均を大きく下回った。 ○「新聞を読んでいますか」の問いでは、ほとんどの生徒が「読まない」と回答している。	○自己肯定感を高めるために、学習や行事の過程の課題を設定し、やり遂げたときに褒める教育活動の実践に努める。 ○読書や新聞を読む機会が少ないので、教科や活動で図書や新聞を活用できるよう配置する。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- すべての教科において、ペアやグループ学習を取り入れ、わかったことを生徒自身にまとめさせる活動を仕組む。
- 導入時は実物を提示し、関心・意欲を高め、展開時は、ペアやグループ活動を取り入れ、自分が考えたことを他に発信させながら、自分の考えを深めさせる。終末は、自分の言葉で文章表現させることを共通実践する。
- Mノート（フォーサイトノート）を活用し、自己のスケジュール管理を行わせる。
- 週課題ノートを定着させ、家庭学習の習慣化を目指す。

佐世保市立三川内中学校の結果・考察・改善策について

生徒数：89名 学級数：4学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度の県学力調査のときよりも、全体的な無解答数を減らすことができた。 ○「話すこと・聞くこと」に関する問題の正答率が県・全国の平均を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」に関する問題の正答率が県・全国の平均を下回っており、中でも、「根拠を明確にして自分の考えをもつ」問題の正答率が極端に低い。 ○「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の中で自分の考えを話したり書いたりするときに、必ずその根拠も併せて述べるようにさせる。
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○図形分野・資料の活用分野は全国平均を上回った。 ○数学的な技能と数量や図形などについての知識・理解は平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関数分野の正答率が低い。 ○記述式の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○記述式への対応策として、「書く」活動を充実させていく。 ○関数分野について、習熟度や進度に配慮した授業改善を行う。
英 語	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に聞く力は高く、特にまとまりのある英語を聞いて、話の概要を聞き取る力は全国平均より高い。 ○日常的な話題について簡単な語句や文で書かれた内容を正確に読み取る分野の正答率は高く全国平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○与えられたテーマについて、まとまりのある文章を書いたり、与えられた情報に基づいて文法事項を理解して人物を説明したりすること、即興でのやりとりをすることの正答率が極端に低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スピーチやプレゼンテーションなどまとまった内容を英語で発表する活動を多く取り入れる。 ○自分の考えや気持ちを英語で伝えよう「やりとり型」活動を帯活動で取り入れる。
生 徒 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○「生活習慣・学習習慣」「自己有用感」「規範意識」は、全国・県の平均を上回っている。 学校・家庭・地域が連携して子どもたちを見守り育てる取組や職員の子どもを認めて伸ばす姿勢の成果と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「国語への関心等」の値が低い。特に話したり書いたりする自己表現活動に対する苦手意識が感じられる。 また、生徒が楽しいと思っている教科と学力調査の結果が逆になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語にとどまらず、各活動の中で「意見を言う」「文章に表す」など自己表現することを習慣化させることが必要である。 生徒のつまづきを分析し、補充する。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 授業改善に関すること：ユニバーサルデザインの視点に基づいた、すべての生徒にとってわかやすく、安心して参加できる授業の実践。全職員1回の研究授業と小学校の授業参観。
- 学習環境に関すること：掲示物の工夫や精選など教室環境を整えることにより生徒が学習に集中できる環境の整備。
- 家庭学習の習慣化を図る取組の一環として「家庭学習の手引き」の作成とその啓発。

佐世保市立広田中学校の結果・考察・改善策について

生徒数：456名 学級数：16学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に、県の平均を下回った。 ○文章の構成や展開、表現の仕方について、自分の考えを持つことや論の展開にふさわしい語句や使い方の検討は県の平均を上回っていた。 ○「話すこと」の領域においては、全体的に平均を大きく下回っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いの中で話題や方向を捉え、相手に分かりやすく伝えるように自分の意見を述べるのが課題である。相手の話を「聞く力」が全体的に弱いことと根拠を明らかにして自分の意見を述べることの低さが影響していることが考えられる。「根拠を明らかにして述べる」ことについては「話す」「書く」の両方の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文章に表れているものの見方や考え方について、交流を通して意見交換する場を多く設定し、自分の考えを広げ、根拠を明らかにして、自分の意見を整理しまとめる（書く）活動や意見発表の活動を増やす。 ○文章で用いられる語句や文の表現を書いたり、話したりするときには使うことができるよう短文作成を毎時間の授業の始めに行う。
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○三角形の合同条件を答える問題以外、県・全国の平均を下回った。特に関数の領域における正答率が低かった。 ○領域に関わらず、証明や説明の記述式の問題において、無解答率が2割を超え、正答率も県や全国の平均を大きく下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○記述式の問題のように、事象を数学的にとらえ、根拠を明らかにして説明することが課題である。無解答率が高いことから、説明する力以外にも、文章から読み取る力にも課題があると思われる。 ○関数領域が苦手で、特に表やグラフから式を求めることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを発表する機会を多く設定し、日頃から根拠を明らかにして説明する意識を高める。 ○証明の学習においては根拠をもとに説明できるように問題の文章から読み取ったことを整理する時間を設ける。 ○関数の領域では、これまでの関連する内容を復習しながら授業を進めていく。
英 語	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的には、全国の平均に及ばなかったものの県の平均はクリアしている。本年度から実施された「話すこと」については、全国平均を上回っている。ただ表現力を試す問題、記述式の問題に関しては、正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題番号6、7のような、まとまりのある文章を読んで、話のあらすじ等を理解する問題が苦手である。長文アレルギーをなくし、文を読んで自分なりの感想を持ち、それを英文にできるようにすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単発的な「書くこと」に関しては徐々に力を身に付けている。物語文や説明文に対して、ディベートや意見発表等の機会を増やし、アクティブラーニングの中で、他者の意見を聞き、自分なりの考えをまとめる場面を増やす。
生徒 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○定刻に就寝起床するなど規則正しい生活ができる。 ○部活動時間、読書時間が全国・県より多い。 ○社会貢献意欲は全国・県より高い。 ○規範意識（含いじめ）は全国・県より高い。 ○集団帰属や協力は全国・県より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己肯定感や教師からの承認認識が全国・県より低い。 ○話し合い活動が全国・県より低い。 ○ICT活用時間が全国・県より少ない。 ○全国・県より計画的に勉強できていない。 ○地域行事への参加や社会貢献意識は全国・県より低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日の生活の記録を生かし、書くことの機会を増やす。また誤字脱字がないかチェックする。 ○学習を計画的に行わせるために「帰宅後30分の取組」を定着させる。 ○協働的、対話的活動を授業の中に意識して設定し、コミュニケーションスキルを高める。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 自分の考えを整理させ、根拠をもとにして意見交換したり、発表したりする場面を、毎時間の授業に設定する。
- 協働的、対話的活動を授業の中に意識して設定し、コミュニケーションスキルを高める。
- 文章の聞き取りによる短文作成などのスキルトレーニングを継続的に行う。
- 毎日の生活の記録を活用し書くことの機会を増やす。また、誤字脱字がないかを教師が継続的にチェックする。
- 家庭学習の定着及び計画的な学習を行わせるために、帰宅後すぐの学習を徹底させる。

佐世保市立早岐中学校の結果・考察・改善策について

生徒数：592名 学級数：19学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	○「書く能力」に関する「意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する問題」については、比較的落ち込みが少なかった。	○全体的に、全国、県の正答率を大きく下回っている。 ○「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」で全国平均を大きく下回っていた。 ○記述式の問題において、無解答率が全国平均に比べて高い。	○学習についての意欲をもたせるため、「やってみよう」と思わせる課題設定を行う。 ○言語に関する知識・技能を身につけさせるため、漢字や文法の小テストを行う。 ○聞き取る力や読み取る力が弱いため、聞き取りや読み取りの練習問題や小テストを行う。
数 学	○「図形」における平行移動についてや、与えられた図の反例をあげる問題については、落ち込みが少なかった。	○全体的に落ち込みがある。「関数」の「数学的な見方・考え方」については、全国平均を大きく下回っていた。記述式の問題について正答率が低かった。記述に対しては、無解答も全国平均に比べると多い。	○関数については、日常生活における事象を取り扱いながら、自分で考える場面を作っていく。用語など、知識理解を高め、そのことを使い、グループ活動を取り入れ、説明する力をつけさせたい。 ○まずは知識の習得をさせるため、授業の最初での振り返りの時間を作りたい。
英 語	○まとまりのある英語を聞いたり、説明文を読んだりして話の概要を理解する問題では、落ち込みが少なかった。 ○与えられた情報に基づいて、ある女性を説明する英文を書く問題では、落ち込みが少なかった。	○全体的に、全国、県の正答率を大きく下回っている。 ○「話すこと」の調査の、画像を見て質問に答える問題では、正しい文法を使って答えることができなかった。無解答率も全国に比べるとかなり高かった。	○「話すこと」の課題に対しては、既習の文法を使って質問したり答えたりするインプット・アウトプットの練習を帯活動に加え、継続して行う。語彙を増やし、表現力を身につけさせるため、日記などの継続的な書く活動を仕組んでいく。
生 徒 質 問 紙 調 査	○起床・就寝時刻、朝食をとる割合など、生活習慣に関わる項目は、全国平均を上回っている。 ○部活動への意欲、失敗を恐れず挑戦する気持ちが高い。 ○授業にICT機器を活用する機会が多い。	○自己肯定感、目標を持つ、協力、規則を守る、思いやりなどの項目で県や全国の平均を下回っている。 ○地域行事への参加が少ない。 ○家庭学習の時間が短い。 ○各教科、総合的な学習の時間での話し合い活動、発表活動が不足している。	○道徳や学活、学校行事の中で、生徒をほめる機会を多くして、自己肯定感を高める。 ○話し合い活動、書く活動、発表する活動を取り入れた授業改善をさらに進める。 ○宿題の出し方を工夫して、家庭学習の習慣化を図る。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- ICT 機器をさらに活用し、生徒の活動時間を確保してわかる授業を行い、学力向上を図る。
- 「学び合い」（ペア、グループ活動）による授業改善をさらに進める。
- 道徳において、多面的、多角的に思考させる活動を取り入れ、思いやりのこころを育てる。
- 宿題を授業の内容に関連する内容にすることで、家庭学習の習慣化と授業との連携を図る。

佐世保市立東明中学校の結果・考察・改善策について

生徒数：184名　学級数：8学級

	成　　果	課　　題	改　善　策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○「みんなの短歌」では、文章に表れているものの見方の正答率が全国・県平均を大きく上回っている。 ○記述文の無解答率が、全国平均を大きく下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○会話文やグラフから読み取り記述する「条件作文」に慣れておらず、自分の考えと条件を組み合わせて書くことが全国平均より低い。 ○語句に関する知識が不十分であるため、文章を組み立てることが下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○会話文やグラフを用いた「条件作文」や短文作文の練習問題を授業内や休暇中に取り組みせ、物事を正確に読み取る力を育む。 ○語句の使い方や文章の構成を学ぶため、100字作文に取り組みさせる。
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○2年次は正答率が県平均より低い状況であったが、今回は県・全国平均より上回っている。 ○領域では図形分野が全国平均を上回っている。昨年の3年生の課題であった「記述式」は全国平均を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「数と式」の領域では全国平均を下回り、「資料の活用」の領域でも全国平均を下回っている。 ○観点別の正答率では、「数学的な技能」が全国平均より下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観点の「数学的な技能」の正答率向上に向けて、週に2回程度(年間100回程度)を目標に、朝の15分間を利用して、基礎学力向上ドリルを活用したグループによる教え合い学習を行う。
英 語	<ul style="list-style-type: none"> ○「グラフをみて、その内容を適切に表した英文を選択する」では、全国・県平均を大きく上回っている。 ○「書くこと」では、全国・県平均より上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○4技能の中でも特に「聞くこと」の正答率が全国・県平均を下回っている。 ○「書くこと」において、疑問文を正確に書くことが全国と県平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「聞くこと」では、リスニング活動を多くし、週2回授業の導入でシャドーイング活動等を取り入れる。 ○「書くこと」では、登場人物や写真などについて生徒が英語で質問を考え発表する活動(guessing time)を取り入れる。
生 徒 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校の規則を守っている」と答えた生徒の比率は高く、規範意識が高い。 ○「英語の勉強は好き」と答えた割合は高く、興味関心をもって取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「家で自分で計画を立てての勉強をしている」と答えた生徒の比率は、全国より低い。 ○「学校の授業時間以外の読書時間」は、県や全国に比べて低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自主学習の提出を向上させるために、学級指導や学級通信等で呼びかけ、家庭学習の充実を図る。 ○学校、学級通信等で、家庭での読書時間の設定を呼びかける。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 学力向上のために、校内研修の主題を授業改善とし「学び合い学習」を取り入れ、「学びの共同体」等の講師を招聘し授業力の向上を図る。
- キャリア教育の充実のために「高校調べ」、「職場体験学習」、「進路相談」を計画的に実施し、将来に対する「夢、憧れ、希望」を持たせる。
- 道徳授業を充実させ、評価等の研修を行い、生徒一人一人の自尊感情を高め「豊かな心」の育成に取り組む。

佐世保市立日宇中学校の結果・考察・改善策について

生徒数： 566名 学級数： 18学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	○文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ問題（1三）、書いた文章を読み直し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する問題（3一）において県平均に近かった。	○文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える問題（1二）や伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く問題（3二）において県平均を大きく下回った。書く能力、記述式において課題がある。	○読書量を増やし、語彙力を身に付ける。 ○具体的に自分の考えを述べることができるように、短文作成の機会を多く設定する。
数 学	○数の集合と四則計算の可能性について理解を問う問題（1）について、県平均を若干上回った。 ○平行移動の意味について理解を問う問題（3）、代表値を用いる問題（8(3)）が県平均に近かった。	○反比例に数から x と y の関数式で表す問題（4）や、資料を整理した表から最頻値を読み取る問題（8(1)）において平均を下回った。 ○領域では関数、資料の活用、観点では数学的な技能において課題がある。	○授業においてインプット、アウトプット、フィードバックのサイクルを確立し、アウトプット、フィードバックの時間を確保する。 ○グループやペアで学習する場面を設定し、学び合う取組を継続させていく。
英 語	○日常的な話題について、情報を正確に聞き取る問題（1(4)）について県平均を上回った。 ○簡単な文で書かれたものの内容を正確に読み取る問題（5(3)）において県平均に近かった。	○全領域で平均を下回った。特に文の中で適切に接続詞を用いる問題（9(1)②）、一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書く問題（9(2)①）において県平均を大きく下回った。 ○記述式の無解答率が高く、書くことに課題がある。	○過去に習ったものを系統的に学びなおさせていく。 ○新しい文法事項や語彙を習得するにあたり、必ず自分のことや自分の考えを表現する場を設け、それを記録として残していくような手立てが必要である。
生 徒 質 問 紙 調 査	○学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると答えた生徒の割合が全国、県の平均を上回った。 ○国語、数学、英語の授業の内容はよく分かったと答えた割合が県平均を上回った。	○学校以外に行う勉強時間について、全くしないと答えた生徒の割合が多い。読書も同様であった。 ○記述式問題において、解答しなかったり、諦めたりしたと答えた生徒の割合が多かった。	○学習へ向かう姿勢の強化を図る。 ○予習・復習・宿題を行う意図を理解させ、実施率を高める。 ○道徳の授業の充実。 ○ペア学習、グループ学習の充実と教えあい学習の発展。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- ペア、グループ学習を設定した授業、わかる授業の充実に向けた授業改善
- 学習規律の徹底
- 夕活（放課後5分間学習活動）の継続と効果的な問題活用
- 学習意欲の向上と家庭学習との連動を図った授業改善

佐世保市立崎辺中学校の結果・考察・改善策について

生徒数：224名 学級数：9学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えたり、登場人物の心情・人物像をとらえたりするなど、「読むこと」の領域については、全国・県と変わらない力を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文脈に即して漢字を正しく書いたり、読んだりするのが苦手で、基礎となる漢字・語彙力が低い。 ○伝えたい事柄について、自分の考えを根拠を明確にして書くといった、国語を使って表現することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞のコラムなど、内容構成のきちんとした文章に多く触れさせるなど、基礎となる漢字・語彙力を育てていく。 ○班活動での意見交換や自分の考えを発表する場を設け、国語を使って活動する機会を授業に取り入れる。
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に全国・県・市と比べて、上回っている。特に、数と式の分野においては、大きく上回っており、計算する力など基礎的な能力については高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数学的な見方・考え方については低く、数学的な根拠をもとに説明したり、表現したりすることが苦手である。 ○関数分野については、全体的に低く、特に事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ペア学習やグループ学習で根拠を明確にししながら、説明し合う活動を行う。 ○導入や取り扱う問題を工夫しながら、関数の有用性を感じさせ、表、式、グラフなどで表し、多面的に関数に触れさせる。
英 語	<ul style="list-style-type: none"> ○「聞くこと」の領域のうち情報がひとつである場合は全国平均より正答率が高い。 ○「読むこと」の領域は全国と比較してやや高い。 ○「書くこと」で接続詞 when の使い方はよく定着している。 ○「書くこと」で比較級を使いながら自分の意見を書ける生徒の割合は、本校はやや高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「聞くこと」で話の流れをつかむ問題では全国平均を大きく下回った。3領域の中でも「聞く」が最も低かった。 ○「読んで→書く」問題は全国的にも低いが、本校も低い。 ○「書くこと」で because の使い方は定着していない。 ○全国的に「まとまった英文を書く」「自分の意見を書く」は低いが、本校でも書くことをさらに積極的に授業に取り入れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各試験の変更点として「聞くこと」は1回だけにしようとする動きがある。生徒にもこのことを理解させ、普段から指示を一度で聞けるようにしていく。 ○読解の授業の中にもリスニング問題（○×・QA等）を盛り込む。 ○基本文の重要性を知らせ、小テストに作文を位置づける。 ○語彙力は、語学学習の基礎であるのでスペコンを実施する。
生徒 質問 紙調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○朝食・就寝・起床の生活リズムは整った生徒の割合が高く、全国平均を上回った。 ○自己肯定感、夢や目標を持つ生徒の割合は高く、前向きに取り組んでいる。その結果、難しいことでも失敗を恐れず挑戦している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の規則を守っている割合が低い。 ○読書、新聞を読む時間が少なく、読書が好きな生徒の割合は全国平均を大きく下回った。 ○国語・英語の学習を大切だと思う生徒が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級文庫の設置や授業で図書室を活用するなどして、本に触れる機会を作る。 ○興味関心が高まる授業作りや実際の生活場面で活用できる課題を考える。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- ペア学習やグループ学習を多く取り入れ、自分の意見を根拠を明確にししながら、意見交換する場面を設定する。
- 公開授業を1回以上、授業参観を2回以上行い、お互いに助言しながら授業力を向上させる。
- 授業規律を明確にし、学校全体で徹底させる。

佐世保市立福石中学校の結果・考察・改善策について

生徒数： 208名 学級数：10学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<p>○平均正答率が、全国・県を上回っている。話すこと・聞くこと、書くこと、読むことに関しては、単元学習において課題に取り組ませた成果が一定程度出た。</p> <p>○書くこと、読むことに関しては正答率が特に高かった。</p>	<p>○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項に関しては、正答率が全国・県を下回った。</p> <p>○短答式の正答率が低い。</p>	<p>○言語事項の定着を図るために、反復練習をより充実させていく必要がある。</p>
数 学	<p>○平均正答率は、全国をやや上回っている。</p> <p>○図形と関数の領域で、県・全国を上回った。</p> <p>○数学的な技能、数量や図形などについての知識・理解の観点は県・全国を上回った。</p> <p>○記述式の正答率は高かった。</p>	<p>○数と式、資料の整理の領域で、県・全国を下回った。特に、資料の整理の領域が特に低かった。</p> <p>○数学的な見方・考え方の観点で、県・全国を下回った。</p> <p>○選択式の問題が、県・全国を下回った。</p>	<p>○計算力が弱いので、反復練習などを行い、強化していく必要がある。</p> <p>○学年末の内容である資料の整理は、定期テストに出せないなので、それに替わるテストを実施し、定着を図りたい。</p>
英 語	<p>○読むこと領域では、全国・県を上回った。</p> <p>○問題形式の分類では、記述式のところが県・全国を上回った問題があり、その箇所では無解答率も県・全国と比べても低かった。自分の考えと理由を書くパターンに当てはめて書くことができた点は取組がわずかではあるが成果に表れた。</p>	<p>○平均正答率は、全国・県を下回った。</p> <p>○聞くことの領域では全国・県を下回った。</p> <p>○話すこと領域も全国を下回った。</p> <p>○言語や文化についての知識理解の正答率が全国を下回った。書くこと分野でも、語彙、文法の誤りが解答分類でも表れていた。</p>	<p>○語彙の定着を図るため rise up の活用を全学年で行う。</p> <p>○話すこと、書くことの場面設定を継続的に行う。また即興でのやりとりに対応できるべく、パターン化したものをさらに深化していく発問やテーマ設定を行う。</p> <p>○話すことの活動を通して、同時に相手の意図や意見を聞き取ることに重点を置き聞く力の向上を図る。</p>
生 徒 質 問 紙 調 査	<p>○ほとんどの項目で全国・県平均より高い回答であった。</p> <p>○特に高かった項目は、家族と学校での出来事について話す、将来の夢や目標を持っている、教師が丁寧に教えてくれる、困難も失敗を恐れず挑戦する、登校が楽しい、学校の規則を守っている、いじめを許さない、話し合いの意義を感じている、などである。</p>	<p>○全国・県平均より低いのは、部活動参加と授業でのICT使用である。</p>	<p>○ICT環境は、市内他中学校と比べても遅れている。だが、学校内でできる環境づくりは行っていきたい。また、授業や特別活動などでの生徒のPC室やPCの使用を促進していく。</p>

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

○テスト結果の共有と分析を、校内研修で行う。

○各教科で取り組む改善策と全教科共通して取り組む対策を決め共通理解・実施する。

佐世保市立山澄中学校の結果・考察・改善策について

生徒数：311名 学級数：12学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」については、全国平均を上回った。文章に表現されていることについて、自分の考えを書くことができている。 ○「伝統文化」問題では、文中での適切な表現と活用について正しい選択ができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」特に「情報を整理し、内容を捉える」ことが全国より非常に低い。 ○「話すこと」については全国平均より非常に低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞を活用し、その内容、結果を考えさせる。 ○話合いの場面を設定し、自分の考えを整理し、相手にわかりやすく伝える機会を増やす。
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○「関数」については、昨年度まで課題であったが、全国平均と変わらなくなってきた。 ○「資料の活用」については、全国平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題の意味を把握し答えることができていない。 ○「数と式」では、適切な処理の仕方が理解できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的な事象を抽象化して考えさせ、説明させる機会を増やす。 ○「数と式」は「関数」での計算処理にもつながるので、繰り返し指導していく。
英 語	<ul style="list-style-type: none"> ○「聞くこと」については、内容を聞き取り正しい解答を選択できている。 ○無解答率は低く、何とか解答しようと前向きに取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」については、まとまりのある文章を読んで概要や要点を捉えることができていない。 ○「書くこと」では基本的な語彙や文構造等の知識の活用ができていないので、正確な文が書けない。 ○英文ではなく、単語や語句だけで解答する生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語彙力をつけ、まとまりのある文章の概要をつかむ活動を取り入れる。 ○文法の知識・理解を高め、主語、述語のある文章で表現させ自信を付けさせる。
生徒 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○食事の摂取、起床・就寝時間の定着など基本的な生活習慣が身についている。 ○自分にはよいところがあると思っている生徒が全国平均より多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域行事への参加が全国平均より非常に少ない。 ○学習することの大切さはわかっているが、計画的な学習習慣が身につけていない。 ○自分の考えを相手にわかりやすく伝える力が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校や地域などのコミュニティー間での交流を検討する。 ○テスト前や長期休業日において学習計画を立てさせ、結果を振りかえらせる。 ○発表の仕方を教える。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 資料やデータの読み取り、活用、表現活動の場を増やす。
- 指導者が授業の中で「めあて」を明確に提示し、課題解決の過程を理解させる。
- 授業で意見発表する際は、考えをまとめる時間を確保し、まとまりのある意見を述べるよう指導する。
- 自信を持って自己表現させるため、ペア、グループ、全体と段階を踏む等工夫する。
- 勉強の仕方、相手に伝わる発表の仕方を教える。

佐世保市立祇園中学校の結果・考察・改善策について

生徒数：374名 学級数：15学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<p>○全国平均を上回っていた。特に以下の点について、大きな成果が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたい事柄について、根拠を明確にして自分の考えをもったり、書いたりすること ・議論をするための基盤となる表現や思考 	<p>○全国平均を下回ったものは、「文章の展開に即して情報を整理して内容を捉える」のみであった。</p>	<p>○文章の論を捉えながら資料を整理する力を育成するために、自らの考えをもとに資料を読み取り、整理する学習活動を多く設定する。</p>
数 学	<p>○全国平均とほぼ同じであった。特に以下の点について大きな成果が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取って判断し、自分の考えをもち、数学的に説明すること ・反比例の意味の理解 	<p>○知識・技能に関する問いでは、正答率は高くはない。特に以下の点が課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四則計算の可能性についての理解 ・簡単な連立二元一次方程式を解くこと ・簡単な確率を求めること 	<p>○学習内容について意味理解ができるように、生活との関連を図った授業を構想する。</p> <p>○テストで既習事項を意図的に出題することで、定着を促す。</p>
英 語	<p>○全国平均を大きく上回っており、技能の習得が十分であった。特に以下の点について大きな成果が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞く、読み取る、文法 ・文法を理解して応答するなどの文による口述 	<p>○「話すこと」も全国平均を上回っているものの、長文での記述、口述になると即応することに課題があった。</p>	<p>○二文以上の合わせ文を正確に書くために、様々な場面を使って英作文の機会を設ける。その際、生徒が書いた英文に指導を入れることで文法を正しく使うようにする。</p>
生 徒 質 問 紙 調 査	<p>○昨年度、課題としていたものが、ほぼすべて全国平均を上回っていた。特に以下の二点が成果であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分には良いところがある。 ・将来の夢や目標がある。 	<p>○以下の点について課題が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれる。 ・学校の規則を守っている。 	<p>○生徒の学習状況を積極的に評価することで支援につなげる。</p> <p>○学校内の学習活動、道徳科、学級活動を活用して議論する場を設定することで、自ら向上する生徒を育てる。</p>

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 教科を横断して身につける資質や能力（言語能力など）の育成を意図した授業展開
- 教科で身につける知識・技能の確実な定着のための手立て（単元テストなど）
- 支援のための評価を重視し、積極的に指導を行うことで、取りこぼすことなく全員の資質・能力を育成する。

佐世保市立清水中学校の結果・考察・改善策について

生徒数：282名 学級数：11学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	○正答率が4問以下の生徒が多く、すべての設問で全国平均、県平均を大きく下回ったが、言語事項に関する知識・理解については、やや下回る程度であった。	○話合いの流れを踏まえ自分の考えを書く、伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くといった「書くこと」の領域について無解答率が、県、全国と比較して著しく高い。	○「書くこと」に対する抵抗をなくすため、短い作文を授業の展開の中に取り入れる。 ○教師の発問に答える際に、根拠を明確にして答えさせる場面を多く設定する。
数 学	○正答率が3割以下の生徒が多く、ほとんどの設問で全国平均、県平均を大きく下回った。「グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができる」については若干県平均を上回った。	○無解答率がどの設問も多い。合同の証明が無解答である生徒の割合が非常に高く、国語の「書くこと」が苦手であることと関連しているのがわかる。	○基本的な数学用語、計算の順序、定義や定理等、授業の中で適宜取り入れ再確認させる。 ○計算問題については途中の式を、証明問題等については根拠をもとにして、書く活動を多く取り入れる。
英 語	○全国平均、県平均を少し下回ったが、「聞くこと」に関しての設問の正答率が全国平均、県平均を上回るものが見られた。	○書かれた内容に対して、自分の考えを示す、話の内容や書き手の意見などをとらえる設問が無解答である生徒の割合が非常に高い。国語の「書くこと」が苦手であることと関連しているのがわかる。	○授業の中で、教科書の基本本文等を活用して英文を正しく読んだり書いたりしながら、英文を覚えさせる活動を取り入れる。 ○語彙力を高めるために、新出語句の練習の際には派生語も併せて確認させる。
生 徒 質 問 紙 調 査	○いじめが許されないと思っている生徒の割合が全国平均、県平均を上回っている。 ○自分の長所を理解している生徒が多い。	○家庭学習を計画的に行っている生徒が多いが、逆にほとんどしていない生徒も多く、二極化が起こっている。	○生徒のよいところや、自治的な活動を仕組み、次の活動につなげる指導を継続して行っていく。 ○家庭学習の定着を図り、授業と学びの連続性を構築する。

<学校全体で重点的に取り組む事項>

- それぞれの授業で根拠を明確にして「書くこと」を授業に位置付ける。
- 自己有用感、特別支援の視点を取り入れた授業づくり（本年度校内研修のテーマ）による共通実践を行う。

佐世保市立光海中学校の結果・考察・改善策について

生徒数： 57名 学級数： 4 学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	○「書くこと」の領域は全国平均を大きく上回った。 「根拠を明確にして書く」指導を継続してきたことが、結果につながっていると思われる。	○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率が低い。 ○「文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ」ことが苦手である。 ○「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」ことが苦手である。	○自分の考えを発信する場面を多く取り入れる。表現する活動を通して、よりよい伝え方について学び、表現する力を定着させる。 ○自分や仲間が書いた文章を評価し合う活動を取り入れる。
数 学	○「関数」の領域は全国平均を上回った。 ○「数学的な技能」の観点は全国平均を上回った。	○「数と式」の領域は全国平均を下回った。 ○「数学的な見方・考え方」の領域は全国平均を下回った。 ○記述式の問題が苦手である。	○一問一答形式の問題を実施し、基礎知識の定着を図る。 ○記述式の問題では、穴埋め形式の答案も準備し、自分にあったもので解答させる。
英 語	○「聞くこと」の領域は県・全国平均を若干上回った。 「内容を重視した授業の取組」で教室英語の実施や日常的な話題の内容についての聞き取りが良くできている。	○状況に合わせて、動詞の時制と活用、文の形を正確に表現することが苦手である。 ○社会的な話題について、自分の考えをまとまりのある英文で書くことが苦手である。	○基礎的な動詞の活用と文の決まりの定着を図る。 ○未習熟語句が含まれており、注釈の少ない文章を推測する力や概要を読み取る力をつけるとともに、自分の考えをまとまりのある英文で書く活動を多く取り入れる。
生 徒 質 問 紙 調 査	○生徒間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる生徒が多い。 ○数学の勉強が大切と思っている生徒が多く、また好きだとも答えている。	○家の人と学校での出来事を話していない生徒が多い。 ○自己肯定感がない（自分のよいところがあると思っていない）と思っている生徒が多い。 ○「先生が、自分のよいところを褒めてくれますか」の回答はかなり低い。	○メディアやテレビゲームの使用時間が長いことが原因の1つにもあるので、家庭で時間を決めさせ、家族との触れ合いの時間を増やす。 ○職員にも、「褒めて育てる」ことを再度確認させ、今後の授業に活かす。 ○自己有用感を持たせる。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

○校内研修において、研究テーマに沿った「自分を語る活動」を取り入れた授業改善を実施する。その中で、「自分を語る」において、知識、技能と有機的に連動した思考力、判断力、表現力を育成する。また、「語る活動」において、伝える力を育成し、主体的で対話的で深い学びを育成する。最後に、小中連携から努力重点表現を共有し取り組む。
一人1単元の構想シートを活用し、作成して「自分を語る内容」と「形態」を組み合わせた学習内容を取り入れる。

佐世保市立愛宕中学校の結果・考察・改善策について

生徒数：247名 学級数：11学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	○自分の考えを持ち、記述する設問では、全国・県の正答率を大きく上回った。また、それに伴い、関心・意欲・態度の観点における正答率も上回った（無解答率も大きく下回っている）。	○封筒の書き方や、選択肢の内容を比較しながら適切に読み取る問題での正答率がやや下回った。また、根拠を明確にして書く問題の正答率もやや下回った。	○既習内容にもかかわらず定着していなかった内容もあったので、授業で学習したことを実生活の中で活用できるような場面を設定する。また、テストや問題演習において選択肢問題を意図的に盛り込み、クリティカルな読解力を高める。
数 学	○数の集合と四則計算の可能性についての設問では、全国・県の正答率を大きく上回った。また、資料の活用に関する設問については、やや上回った。	○数学的な技能で、全国・県の正答率を大きく下回った。また、数学的な見方・考え方では、やや下回った。	○問題演習を中心とした技能を高める授業や、話し合い活動を中心とした見方・考え方を働かせる授業を、計画的に実施する。
英 語	○読むことの領域に関する設問では、県と同程度であった。	○聞くことと書くことの領域に関する設問で、全国・県平均をやや下回った。	○授業を中心に、聞くこと、書くことが定着する取組を仕組む。また、英語に自然に触れ合えるよう、掲示物を工夫していく。
生徒 質 問 紙 調 査	○基本的な生活習慣が高く、学校生活が楽しく充実した生活ができていると考えられる。 ○いじめに関する意識が高い事から、気持ちの優しい集団である。 ○話し合い活動に関する項目は全て非常に高い結果となっている。そのため、国語に関する項目が非常に高い。 ○地域性もあって国際理解や国際的な意識も高く、英語に関する項目は全て高い。以上のことから、学校生活において褒められる事が多く、自尊感情・自己肯定感が非常に高い集団である。	○将来の夢や目標について、18%の生徒が明確なものを持っておらず、全国平均よりも低い。 ○学習時間や読書量が全国より低い。 ○学力テストの時間が足りなかったと感じている生徒が非常に多い事から、学力に関して不安を抱えている生徒が多い。 ○計画的に学習できていない生徒が多い。	○将来のことを考える機会や時間の確保。 ○計画的な学習と学習量の増加。 ※要は、生活上、褒められることが多いため自尊感情が高く、それで満足して生活してきた。そこに甘えて学習量が少ないまま生活してきた事で、学力に関して不安を抱えることとなったのではないかと。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 主体的・対話的で深い学びを実現する授業を実現するため、校内研修を進めていく。
- 学習の目的に応じた学習形態を仕組み、生徒が互いに高めあいながら学ぶ場をつくる。
- 学習への意欲関心を高め、基礎基本を定着させるため、校内に学習に関する掲示物を充実させる。

佐世保市立日野中学校の結果・考察・改善策について

生徒数：351名 学級数：14学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	○文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えを持って書いたり、話合いの話題や方向を捉えたり、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することができるようになった。	○携帯電話の普及により、お礼状や案内の手紙を、書く機会が減ったために、「封筒の書き方を理解して書く」ことができない生徒が増えた。 ○無解答率が「書く」項目に多く見られた。	○授業（書写）で様々な手紙の書き方を学習した後に、あらゆる場面を捉えて、手紙を書く機会を設ける。 ○無解答率を解消するために、これからも「書く」活動を継続していく。
数 学	○全国や県に比べ、正答率が低い。また、学力差も大きい。 ○どの領域においても、全国平均よりも上や下がある。領域による得意、不得意は特にない。	○基本的な知識、処理能力の定着が図れていないことがわかる。連立方程式を解く問題や確率を求める問題などにおいては、授業で取り組んだ確認テスト等ではある程度の理解を得られたと感じていたが、定着できていなかった。	○帯タイムでの基礎・基本の定着を目標に取り組んでいるため、継続して行う。また、学習後時間をおくと忘れる生徒が多いことから、振り返りの時間を多く設定する。 ○班活動を通して対話の場面や教えあう場面などを設定する。
英 語	○選択問題については選択し、記述問題についてはSVの書き出しを心掛けていた。 ○正答率の高い生徒についてはどの分野も学力をつけている。	○学力差がかなり大きい。 ○正答数の高い生徒がかなり少ない。 ○平均よりも下位層の生徒がかなり多い。	○「話すこと」では、今後も間違いを気にせず英語を話す指導を続ける。 ○「書くこと」については現在の帯タイムでの活動を継続し、伝えたいことを英文化することにつなげていく。
生 徒 質 問 紙 調 査	○基本的な生活習慣が身につけている生徒が多い。 ○学校の規則をきちんと守っている生徒が多い。	○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている生徒の割合が全国平均より若干低い。 ○地域の行事に参加している生徒が少ない。	○道徳の授業において、「いじめ」をテーマにした学年ごとの授業を設定し、意識の向上を目指す。 ○PTAと連携し、保護者・生徒へ地域行事への参加を呼び掛ける。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 日常授業の充実 「教えて考えさせる授業」の継続と推進
- 基礎学力の保障 TT授業・放課後学習会等による学習支援の充実
- 学習規律の徹底 「学習の心得」の徹底
- 教職員が生徒と向き合う時間の確保（会議をできるだけ減らす）

佐世保市立相浦中学校の結果・考察・改善策について

生徒数：450名 学級数：16学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○短歌を題材とした問題では書く力が発揮された。 ○自分の考えを持つことができている。 ○無解答率が低い。何とか解答しようという意欲は感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○長文の読解力や情報を整理する力の不足が各教科に関っている。 ○自分の考えを持つことはできているが、「根拠を持って記述をする」となると不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図書室の本を活用し図書を選定する。読書カードづくりを行う。 ○授業の5分を使って新聞コラムの書き写す活動を行う。 ○長文、短体文、文章要約などの課題作文に取り組み、書く力を伸ばす。
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○無解答率が少なく、何とか答えようと努力する姿勢が見られる。 ○図形問題は他に比べるとできている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数学の学習における意識は高いが、学習内容が定着しておらず客観的な自己分析ができていない。 ○関数や資料を活用する問題、また理論的な説明をすることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎基本の定着のため、日々の復習に力を入れる。 ○問題の条件を変えた時に関連性を見い出せず対応できないことが多いので、課題の把握とまとめを行う。
英 語	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校から英語に取り組んできたことから、聞く力は定着している。 ○選択式の問題（絵から選ぶなど）においては解答率も高く比較的正確できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○英語の長文を読みあらすじを理解する力が低い。 ○英語での記述（英作文）の問題においては、自分の言葉で、自分の考えを表現できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○英単語などの小テストやスピーキング（音読）テストなどを定期的に行い、基礎基本の定着を図る。 ○達成感を感じさせるため、授業の中で自己表現（output）する時間を確保する。
生 徒 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○国・数・英とも勉強に対する意識（好き・大切だと思うなど）は高い。 ○学校に行くことが楽しい、先生が自分の良いところをほめてくれるの数値は高い。 ○規範意識、いじめを許さない意識も高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞を読んでいる生徒は少ない。 ○地域や社会の一員であることの意識は全国に比べて低い。 ○様々な授業において自分の考えを発表するために、資料や文章、話の組み立て方などを自分なりに工夫をしている生徒は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語科で、新聞のコラムを書き写す活動を取り入れる。 ○各教科でグループ学習を取り入れる。特に、道徳ではお互いに意見交換をする場を多く設定し、自分の考えをわかりやすく伝えるよう意識させる。 ○「自分の考えを根拠をもとに述べる」活動を各教科で取り入れる。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 学力調査分析後に見えてきた課題を克服するために、各教科で「生徒に身につけさせたい力（～する力）」を話し合っただめた。これをもとに、単元の流れを考え授業づくりを行う。
- 9月以降に実施する全職員の研究授業・公開授業は、各教科で決めた「～する力」を明確に位置付けた授業を行う。授業研究においては、これらの力が身に付いたかという視点で検証する。

佐世保市立中里中学校の結果・考察・改善策について

生徒数：355名 学級数：12学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○中2の県学力調査を受け、テストで記述式の問題を増やし、授業においても書く機会を多く設定した。 ○2年次に漢字テストのやり直しを徹底させた。 ○空欄なしを指導した結果、無解答率が顕著に低下。 	<ul style="list-style-type: none"> ○設問を読み取る力（指示されている内容を、条件を踏まえて把握する力）が弱い。 ○特に記述式の問題に弱く、書く力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○テストで様々なパターンの設問を試み解答を導く。 ○問いに合った答え方を身につけさせる。 ○設問の意図を考えさせる。 ○文章を読むことの楽しさ（内容が分かる充実感）を味わわせる。
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる。 ○事柄が成り立つ理由を説明することができる。 ○反比例の表から$x + y$の関係を式で表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数の集合と四則計算の可能性を理解していない。 ○問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断できない。 ○結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見出し、説明できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文章題や文字の多い問題など、主体的に考えさせる活動をさせる。 ○類似問題を授業やテストで取り扱い、正しい判断ができるように指導する。 ○ワークシートや教え合い活動の中で、自分の言葉で説明する力を育てる。
英 語	<ul style="list-style-type: none"> ○絵を見て、内容を表す情報を正確に聞き取る力が高い。 ○まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○まとまりのある量の英文になると読むことをあきらめる傾向あり。 ○キーとなる語の意味が理解できていないので、正確な情報を聞き取れない。 ○聞き手の意見をとらえ自分の考えを表現する力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○時間を決めて長文を読み、要旨を捉える練習をさせる。 ○帯学習、小テスト、課題などで知識を定着させる工夫を行う。 ○意見文のフォーマット、よく使う表現を身につけさせ繰り返し練習させる。
生 徒 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○ほとんどの生徒が朝食を毎日食べている。 ○おおよそ起床時間が決まっている。 ○ほとんどの生徒が学校に行くのを楽しみにしている。 ○いじめに対する意識が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○難しいことでも失敗を恐れないで挑戦しているか、の項目が低い。 ○困っている人を進んで助けているか、の項目が低い。 ○自分で学習計画を立てて実行する力や読書に関する意欲が低い。新聞を読む生徒も少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳の授業等を中心に、日ごろの生活指導の中でも道徳的実践力を身につけさせ、発揮させる工夫をする。 ○見通しを持って学習に取り組ませる工夫をし、読書活動を推進する。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 授業において発表させる際、そう考えた理由や、根拠となる事柄を示しながら発表できるように指導する。また根拠を示すことができていない場合は、根拠を引き出すような問い直しをする。
- 授業において、書く機会を増やす。
- 四則計算や、漢字、英単語などを定着させるための工夫を行う。
- 授業において、思考を深める時間を確保し、また発問等工夫する。

佐世保市立大野中学校の結果・考察・改善策について

生徒数：579名 学級数： 17学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」分野については、昨年からの伸びが見られ、全国平均と同程度であった。 ○「読むこと」分野については昨年同様の平均程度を維持している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「言語についての知識・理解」について、小学校高学年で学習する漢字の読みや書き取りについては平均を下回っている。 ○「話すこと・聞くこと」分野についても平均に及ばない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「言語についての知識・理解」の中でも漢字の読み、書き取りの反復練習を授業に取り入れての授業改善。 ○「話すこと・聞くこと」の中でも「要点を押さえて人の話を聞く」ことを習慣づけ、教科を超えて支持的風土の醸成を図る。
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○数と式、図形の平均は県の平均とほぼ同じになった。 ○資料の活用、数学的な見方や考え方、数学的な技能、知識・理解の平均は全国の平均に近づいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関数領域 他の領域と比較して県、全国の平均との差が大きい。 ○記述式 他の問題形式と比較して、県、全国の平均との差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○関数領域のときに既習内容（比例・反比例、1次関数）の復習を混ぜながら授業を行う。
英 語	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと」「書くこと」に関しては全国平均に近くなってきている。授業で表現する活動を重視するようにしてきた成果と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2極化が進んでおり、習熟度の低い生徒が多く、正答数が非常に少ない生徒の割合が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の課題を与えたり、発展問題を追加課題として与えたりすることで学習意欲を高める。また、グループやペアなどの学習形態を活用し、学び合いを促進することで意欲を引き出す。
生徒 質問 紙 調査	<ul style="list-style-type: none"> ○自分には良い所があると思う生徒の割合が高い。 ○将来の夢や目標をもっている生徒が多く、夢・希望を持って生活している。 ○授業でもっとPCなどのICTを活用したいと思う生徒が多い。 ○数学の授業の内容がよくわかると思う生徒の割合が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語の授業の内容はよく分かりますかの項目で、よく分からない生徒の割合が高い。 ○調査問題の解答時間が足りなかったという割合が高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のめあてを全員が理解できるように掲示の工夫に努め、意欲的な学習姿勢の向上を図る。 ○時間を意識して問題に取り組む習慣を身に付けさせる。 ○ICTの積極的な活用と職員研修を行う。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 教師が生徒と一緒に「読解力とは何か」に向き合うことから、それぞれの課題を克服する指導方法・環境づくりを考える。
- 教師の指導力向上を目指して、授業改善を図る。

佐世保市立柚木中学校の結果・考察・改善策について

生徒数：99名 学級数：6学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○書くことに関しては正答率100%の設問があり、言葉を選ぶ力が身に付いていた。 ○問題形式の記述式の問題の正答率が平均を上回っており、無解答率も平均より低く、書くことに対して意欲的に取り組んでいた。 ○読むことに関する問題では、昨年度の県の調査よりも全体的に向上していた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○伝統的な言語文化の特質に関する事項の「手紙の書き方」については基礎的な知識が身に付いておらず、封筒の宛名を書く問題の正答率が低く、無解答率も高かった。 ○討論についての理解が浅く、「話すこと」の話合いの流れの中での適切な発言を選択する問題がよく理解できていない生徒が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○手紙の書き方については書写の指導と関連づけて補っていく。 ○「話すこと」では、話合いの方向性を意識した発言のあり方を考えさせる題材を用いた授業を行う。 ○国語の授業に対して関心が低い生徒が多いので、授業の進め方を再考し、言葉を学ぶことに興味を持たせて行きたい。
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○「図形」と「資料の活用」の領域では平均を上回った。上記の2つの領域では、記述式でも対応できている。 ○記述式の問題における無解答率が低く、粘り強く取り組んでいたことが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「数と式」、「関数」の領域で正答率が低い。また、その領域で無解答率も高い傾向にある。 ○分布のちらばりが大きい。特に、5問以下の生徒が全体的に多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な計算や知識の部分は繰り返し演習をしていく。 ○「関数」の指導においては、具体的な例を表や式、グラフに表していくことで、これらを関連させて理解できるようにしたい。
英 語	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと」においては単語の選択はできている。2、3と問題が進むうちに慣れてきたようで、会話についての解答は正答が増えている。 ○適語や適する文を選ぶものは理解できているようだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○即興の受け答えは難しい。単語で答えても、正しい英文で答えることは難しい。 ○自分の考えや意見を英語で書く問題はできていない。問いに対する適切な答えとその理由を考えることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○インタビューや即興の会話練習を増やしていきたい。 ○ライティングの構成を押さえながら、エッセイなどを書く活動に取り組みたい。また自分の意見とその理由を述べる題材を選び、そのテーマで書く活動を取り入れたい。
生 徒 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○地域と関わりがあるとした割合が平均より高い。 ○授業でのICTの活用があるとした割合が平均より高い。 ○数学の学習に興味・関心がある割合が平均より高い。 ○スピーチの英語の授業での活動の割合が平均より高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○将来に対して目標を持っている割合が平均より低い。 ○先生が分かるまで教えてくれていると思いますかの割合が低い。 ○授業の発表の機会に自分の考えを工夫して発表の割合が低い。 ○家庭学習の時間が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○希望の進路を意識させながら、学習に対する意欲向上を目指させる。 ○各教科に意欲を持たせ、授業の中で学び合える時間を設定する。 ○生徒が興味・関心を持てるような教材研究・授業を心がける。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 授業でグループの形態で活動する時間を確保し、学び合いを通して、生徒が自己の学びを実感できる授業づくりを目指す。
- 生徒が授業を受けることで、コミュニケーション能力・問題解決能力を身に付け、自己肯定感を高められるよう、各教科の授業改善をすすめる。

佐世保市立吉井中学校の結果・考察・改善策について

生徒数：163名 学級数：9 学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」の領域に関して全国平均を上回っているか同じであった。 ○全体的に「無解答」が全国平均より低い傾向である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」の領域に関して正答率が低く、記述よりも選択する形式の正答率が全国平均より低い。 ○「読むこと」の領域に関して全国平均を下回った。 ○記述式の中でも、話し合いの方向を捉えて自分の考えをもつことに関して正答率が全国平均より下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「話すこと・聞くこと」に関する問題を授業や復習テスト・定期テストなどに取り入れ、問題の傾向に慣れさせる。 ○条件に合うような自分の考えを明確に記述する学習を授業で取り入れる。
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○無解答率は全国平均を下回っている問題も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○どの領域についても、全国平均を下回った。数と式については、若干下回った。 ○特に関数の領域については、全国平均より大きく下回っており、無解答も多い。 ○記述式の問題については、平均を大きく下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○知識理解についても平均を下回っているので、関連する単元の際に復習したり、小テストを行ったりすることで習得させる。 ○関数に関しては、関数同士でのつながりや表、式、グラフのつながりを意識させて指導する。
英 語	<ul style="list-style-type: none"> ○「聞くこと」については全国平均を下回っているものの、他領域より、若干全国平均に迫っている。問題によっては全国平均と同等である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○どの領域も正答率は全国平均を下回っている。 ○「読むこと」と「書くこと」の領域では、正答率が全国平均より大きく下回っている。 ○特に記述式の問題で、まとまりのある英文を書くことが平均より下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○まとまった英文や会話を読んで、情報や要点を捉える練習問題や小テストを行う。 ○習った文法や語句を用いて、ある程度まとまった量の英語を話したり、書いたりする機会を多く作る。
生徒 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの項目で全国平均より高い傾向にある。特に「学校に行くのが楽しい」と思っている生徒の割合は全国平均より高い。 ○自分で学習の計画を立てたり、地域の行事に参加したり、地域のことについて考えたりすることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「いじめは、どんな理由があってもいけない」と思っている割合が、全国平均より低い。 ○家庭学習や新聞、本を読む時間が全国平均より短い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳や普通の学校生活の中でいじめや対人関係について学ぶ機会を作る。 ○各教科を通して、家庭学習の仕方を提示したり、新聞や本を読むことの楽しさや大切さを味わわせたりする。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 1単位時間のねらいを明確にする。
- ペアや班活動を通して、一人一人の学びを広げ、お互いの考えを理解し共有する。
- 授業の始めに授業の流れを可視化する。
- 生徒のつまずきを予測し、個に応じた対策・準備をする。

佐世保市立世知原中学校の結果・考察・改善策について

生徒数：114名 学級数：6学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ項目では平均を上回った。 ○文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ項目と、語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する項目では平均を大きく上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることに課題があるといえる。 ○話題や方向を捉えるところに課題がある。 ○封筒の書き方については、書き方を理解し、文字の大きさや配列などに注意して書くことが県の平均を下回っていた。 ○相手に伝わる表現や書いた文章を読み返して、論の展開にふさわしい語句や文を使うことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文章を要約する課題を通して、文章の情報を整理し、内容を捉える力や、話題やその方向を捉える力を育てる。 ○書写の時間に封書の書き方について再度実施する。 ○コンクールなどで応募する作品を手がけた際に、相手に伝わる表現になっているか、論の展開に問題はないか、語句は適切かなど、推敲する時間をつくる。
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の活用において、ある事象の確率を求めたり、度数分布表から代表値を読み取ったりする項目では、平均を上回った。 ○各領域の記述式の問題は、平均を概ね上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グラフが表す意味や、式変形の表す意味が分かっていないところに課題がある。 ○三角形の合同条件を書くことが県の平均を下回っていた。 ○連立方程式を解くことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数学的な表現を用いて説明する活動を授業で取り入れる。 ○問題を解く手順や仮定・結論を押さえる時間をつくり、問題を読み取る力をつけさせる。 ○類似問題を解く時間を確保する。
英 語	<ul style="list-style-type: none"> ○英語を学習することや、その意義について高い興味関心を持っている生徒が多い。 ○日常的な話題や簡単な語句や文章を理解できている。 ○基本的な文法事項を使って文章を書く力がついている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域的に仕方がないことではあるが、学校外で英語に触れる機会がかなり少ない。 ○まとまりのある文章を理解する力はあるものの、その内容から大事な要点をつかむ力が弱い。 ○即興で、英語でやり取りをする力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○英語にたくさん触れる機会を作るように仕組む。(ALTや外部の活用) ○授業の中で、生徒への質問にWhy?やHow?を使ったものを多く取り入れ、生徒が深く考える時間を意図的に作る。
生徒 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ※全体的に平均を上回っているが、特に次の項目は全国平均を上回っている。 ○学校の出来事を保護者に話す生徒や地域行事へ参加する生徒の割合。 ○規範意識の高さ。 ○学級での話し合い活動やグループ学習の意義を感じている生徒の割合。 	<ul style="list-style-type: none"> ※次の項目は全国平均を下回っている。 ○新聞を読む生徒の割合。 ○読書が好きな生徒 ○家庭学習の時間 ○ICTの授業への活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞を読む時間を取り入れるなど、NIEの取り組みを見直す。 ○各教科で、具体的な家庭学習の進め方について、再度確認を行い、実施状況を把握する。 ○ICT機器の活用の研修を実施する。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 学習規律の徹底（世知原中学校学習5か条）
- 主体的・対話的で深い学びの授業実践（学習形態の工夫など）
- 教師の生徒への言葉かけや指示の工夫

佐世保市立宇久中学校の結果・考察・改善策について

生徒数：21名　学級数：3学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○書く能力の設問についてすべての生徒が正答できた。 ○言語についての知識・理解・技能は全国平均よりも正答率が高い。昇級テストなどの帯的な学習の効果が現れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読むことの「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えること」の設問が全国平均より下回っている。 ○全体的に読解力が低い。問題形式は記述式よりも選択式の正答率が低いことから、選択肢の読解ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞や雑誌などのさまざまな媒体に触れ、文章の種類による叙述の特徴を捉えながら読むことの練習が必要である。 ○資料から情報を読み取り整理する力をつける。
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○すべて解答している。（無解答がない） ○説明を振り返り、統合的、発展的に考察することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図形の性質の証明が平均、または下回っている。 ○連立方程式の代入法が苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な証明の文章を読み取る機会を設ける。 ○資料の比較や説明の矛盾点や誤った部分を指摘する問題に取り組ませる。
英 語	<ul style="list-style-type: none"> ○語と語の連結による音変化をとらえる力や日常的な話題について情報を正確に聞き取る力が身についている。 ○内容のおおまかな流れを把握する力が全国平均を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○説明文の中心となる事柄など文章の大切な部分をとらえる力が全国平均を下回っている。 ○英語の基本的な語や文法事項等を理解して正しく文を書く力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物語や説明文の要点をとらえる力を向上させるために、まずは発問で要点をおさえ、リテリング、リライトングなど、自分の言葉で要約し、再構築する活動を多く取り入れる。
生 徒 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○全ての教科の学習の必要性を感じており、意欲の高さを感じる。 ○自分の住んでいる地域への愛着が高く、誇りに感じている生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自主性と積極性にかける部分がある。 ○自信を持って「できる」と答えることが苦手である。 ○自らの意思で、学習課題を見つけたり、計画を立てて学習したりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○達成感や成就感を味わう体験の場を設定する。 ○生徒自身に考えさせる場を設定する。 ○教科横断的な課題を提供することで、学んだことを活用する力を育成する。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 文章や資料から必要な情報を読み取る機会を増やす。
- 資料を提示する機会を増やすことで、資料を比較したり、関連付けて考察したりする場面を増やす。
- 授業などで自分の意見を記述し、説明する活動を増やす。
- 教科横断的な取組ができるように職員間で様々な情報の共有化を図る。
- 長期的な目標と、それを達成するためのスモールステップとなる目標を定め、よくほめる。

佐世保市立小佐々中学校の結果・考察・改善策について

生徒数：169名 学級数：8学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」は、全国平均を上回った。 ○「読むこと」は、県平均を上回った。 ○無解答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「関心・意欲・態度」が全国平均を下回った。 ○「話すこと・聞くこと」が全国平均を下回った。 ○「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国平均を下回った。 ○話合いの話題や方向を捉えたり、自分の考えをもったりすることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話合い活動が効果的に展開する進行の方法を学ぶ。また、さまざまな話題に対する自分の考えを発表する場を設定する。 ○興味・関心が高まるような導入や展開の工夫を行う。 ○辞書を活用し、語彙力を増やす。また、短作文などで積極的に語彙を使う指導を行う。
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○「関数」「数学的な技能」「短答式の問題」では、全国平均を上回った。 ○「資料の活用」における正確に最頻値を求める問題と、「図形」における証明に用いられる合同条件を正しく書くことができる問題では全国平均を大きく上回った。 ○無解答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「数と式」「図形」が全国平均を下回った。 ○「反例の意味」「平行移動の意味」が全国平均を大きく下回った。 ○計算問題等と比較すると、語句の意味を理解したり、論理的に物事を考えたりすることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業や課題で定期的に計算練習を行う。 ○放課後2問テストの問題の見直しと、誤答した生徒への補習を徹底する。 ○語句の意味をしっかりと捉えさせるために、積極的に数学の語句を使ったり、生徒に語句を使わせたりして説明させる。
英 語	<ul style="list-style-type: none"> ○「聞くこと」で、音の変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることは全国平均を上回った。 ○「話すこと」で、あるテーマについて自分の考えを整理し、まとまった文章で話すことは全国平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○特に「読むこと」、「書くこと」が県・全国の平均を下回った。 ○まとまりのある文章を読んで、その内容を正確に読み取ることができていない。 ○文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間「書く」活動を仕組む。 ○話の内容に対して自分の考えを示すことができるような場面を多く取り入れ、継続して行う。 ○語彙力を上げるために毎時間、語彙力チェックを行う。
生 徒 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○規範意識が高い。 ○人が困っているときに進んで助けている。 ○家で計画を立てて勉強している。 ○地域の行事に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己肯定感が低い。 ○先生から認められていると感じていない。 ○将来の夢や目標を持っていない。 ○人の役に立つ人間になりたいと思う生徒が少ない。 ○勉強時間・読書時間が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○互いに認め合うことで自信が持てるような集団作りを行う。 ○個に応じた進路指導を行う。 ○各教科の家庭学習について、生徒・保護者に対して再度オリエンテーションを開き、計画の立て方や学習法について指導する。 ○読書する機会を図書担当や国語科教員、学級担任と連携して設ける。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 全国学力・学習状況調査の結果と分析をもとに、教職員・保護者・地域向けのリーフレットを作成する。リーフレットには、学校・家庭・地域が総がかりで取り組む内容を明記し、懇談会や学校運営協議会等で積極的に説明する。
- 校内研修を積極的に進め、どの生徒にも『わかった・できた』と言わせる授業づくりを目指して、全員の授業実践に取り組む。『めあてとまとめをつなぐ授業展開』の深化。
- 学習の基礎基本の定着のために、語彙の習得・視写・計算に今以上に取り組む。
- 授業や行事で個に応じた対応をし、自己肯定感をもたせる。
- 数学科では、全学年で各学年の実態に合わせた授業形態を実施する。1年生はTT、2年生は1学級の生徒を2つに分けた少人数学習、3年生は2学級の生徒を3コースに分けた少人数習熟度別学習に取り組む。

佐世保市立江迎中学校の結果・考察・改善策について

生徒数：132名 学級数：7学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いの話題や方向を捉え、それを踏まえて自分の考えをもつという、「話す・聞く」問題には、県・全国平均を大きく上回った。 ○論の展開にふさわしい語句を考え、根拠を明確にして「書く」ことについては、県・全国と同程度であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文章の構成や展開、表現について、自分の考えを持つことや、文章の展開に即して情報を整理して内容を捉えるといった、「読む」ことに関して、県・全国平均を大きく下回った。 ○封筒の書き方についても、県・全国を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎回の授業の中での、音読の繰り返しを実施し、文章を読むということを定着させ、「読む」ことに抵抗感をなくさせる。 ○文章の要約や、接続語の理解などを通して、文章を「読む」力を伸ばす。
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○反例の意味の理解や、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題では県・全国の平均を大きく上回った。 ○平行移動の意味の理解、表から最頻値の読み取り、総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈する問題では県・全国の平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○数の集合と四則計算の可能性についての理解が不足し、連立方程式の計算力が低い。 ○結論が成り立つための前提条件を考え、新たな事柄を見出して説明したり、与えられた説明をきちんと読み取り、目的を捉えたりすることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計算技能の定着を目的とした小テストを継続実施し、定着が不十分な生徒には、単元末での確認テストと平行して、個別指導を行う。 ○コの字型の座席配置や、ペア活動・班活動を取り入れ、共通の問題を自分たちで解決させる作業を通して、自らの考えを説明したり、相手の考えを理解し、よりよい解決方法を探究したりする授業を仕組んでいく。
英 語	<ul style="list-style-type: none"> ○まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解したり、聞いて把握した内容について適切に感じたりする力は、県・全国を上回っている。 ○記述式の問題の正答率が、県・全国を上回っている。 ○外国語理解の能力が県を上回り全国並みである。 	<ul style="list-style-type: none"> ○与えられた情報に基づいて人物の説明をする英文を書く力が県・全国を下回っている。 ○外国語表現の能力が県・全国を下回っている。 ○記述式の問題の無解答率が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○英作文のトレーニングを進めていく。具体的には3文日記や課題英作文に取り組みさせる。 ○生徒の英作文のチェック及びアドバイスをALTに依頼する。また、ALTからのコメントや文に対する質問を書いてもらい、それに対して生徒が返事を書くという形式のトレーニングを行う。
生 徒 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校に行くのが楽しい」「人が困っているときには進んで助ける」と回答した生徒の比率は全国や県を上回っている。 ○「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」や「地域の行事に参加している」と回答した生徒の比率は全国や県を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「将来の夢や希望を持っている」と回答した生徒の比率は県や全国を下回っている。 ○国語、数学、英語の各教科で、「授業が分かる」と回答した生徒の比率や、「平日に1時間以上家庭で学習している」と回答した生徒の比率は県や全国を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3年間を見越した計画的なキャリア教育を通して、将来の夢や目標、学習の意義などを自覚させる必要がある。 ○わかる授業の実現のため、授業改善を進めるとともに、相手の発言や文章を理解する力や家庭学習の習慣を定着させる必要がある。

<学校全体で重点的に取り組む事項>

- 全教科を通して授業中の学習規律を徹底させ、ノートをしっかりまとめる力を養うとともに、コミュニケーションの場を設定し、思考力、判断力、表現力の充実を図る。
- 全教科の学習の中で文章の読解力や書く力を養う場面を設定する。
- 国語科、数学科、英語科それぞれの教科において、基礎的・基本的内容に関する学力の充実を図る。
- 適切な課題を出題し家庭学習の習慣を定着させるとともに、進路を意識させることで、学習意欲の向上を図る。

佐世保市立鹿町中学校の結果・考察・改善策について

生徒数：35 名 学級数：1 学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域で全国を上回った。	○「言語についての知識・理解・技能」において、県・全国平均を下回った。 ○「書く能力」では、全国より上回っているが、県では下回っている。 ○「読む能力」では、県・全国平均を下回っている。	○語彙力が不足していることで、「書くこと」「言語事項」が課題となっていると考える。言葉がもつ意味や用法を認識させ、理解したり表現したりする内容を増やして、定着を図りたい。
数 学	○図形領域において県・全国平均を上回った。	○数と式、関数、資料の活用の各領域で、県・全国平均を下回った。 ○観点でみて、「技能」と「知識・理解」が県・全国平均を大きく下回った。	○授業での理解度に比べて定着度が低いことが課題といえる。そのときに行っている単元だけでなく、以前行った内容の復習を定期的に行い、既習内容の定着を図りたい。
英 語	○聞くことの領域が全国平均に最も近くなった。	○全ての領域で県・全国平均を下回った。 ○記述式の問題になると無答率が極端に高くなる。問題の意味さえも理解できない生徒がいるのが現状である。	○語彙力が極端に低く、読む、書く、聞く、話す、の全ての技能に支障をきたしている。基本になる語を定着・整理させて、4技能の底上げをしたい。
生徒 質 問 紙 調 査	○先生が良いところを認めてくれる、わからないところを教えてくれるが県・全国平均を上回った。 ○いじめは良くないと思うが県・全国平均を上回った。 ○図書室の利用が県・全国平均を大きく上回った。 ○地域行事への参加が県・全国平均を大きく上回った。	○朝食の摂取が県・全国平均を大きく下回った。 ○人助けをしているが県・全国平均を下回った。 ○総合学習で、情報整理・発表の活動が県・全国平均を大きく下回った。 ○県・全国平均に比べ、全体的に強い肯定が少なく、「どちらかといえば」の肯定が多い傾向にある。	○これまで通り、個に応じたきめ細やかな指導を行うとともに、高い規範意識を行動に移せるように支援することで、自分に自信が付き、成功体験や自己肯定感を高めていきたい。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 基礎基本の内容の定着を図るような取り組みを授業で取り入れるとともに、定期的な家庭学習に取り組むように進める。
- ペア・グループ学習を活発化し、周囲とのコミュニケーション能力の向上を図るとともに、教えることでの自信や自己肯定間の養成、教わることでの基礎学力の向上につなげる。
- 低学力の生徒に対しては個別指導を行い、基礎学力の定着を図る。

佐世保市立黒島小中学校の結果・考察・改善策について

児童生徒数：（前期）9名 （後期）7名 学級数：5学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○全ての領域で満点がとれた。 ○1人授業のため、理解の度合いが測りやすく、授業にいかすことができている。 ○読むこと・書くことを通して、思考を深めることができている。 ○「話すこと・聞くこと」の全国平均を上回った。 ○記述式の問題において、全国平均を若干上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発展的な学習をしっかりと行いたい。 ○「話すこと・聞くこと」以外の領域は、全国平均を下回った。特に「伝統的な言語文化～」の領域の言語事項の問題に間違いが多かった。 ○「書くこと」においては、特に全国平均を下回っていた。「読むこと」にも課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後も基礎的事項をおろそかにせず、さらに思考を深める授業展開を行いたい。 ○読書量の確保を行う。また、授業の中で注目すべきところに線を引く等、必要な情報部分を意識することができるようにする。 ○文章を「読む」活動を多く取り入れ、条件を満たして要約する活動を増やす。 ○「書く」活動を多く設定し、要点をまとめる指導をする。
算 数 ・ 数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○「数と式」「関数」の領域では満点であった。 ○「図形」、「資料の活用」の領域でも結果は良い。 ○生徒1人に対する授業のため、本人の理解に応じた授業を展開することができる。 ○すべての領域において全国平均を上回った。 ○すべての問題形式において、全国平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見いだして説明したり、資料を整理した表からさまざまな傾向を読み取ったりすることに課題がある。 ○全体的に全国平均を上回っているが、「数と計算」「数量関係」において、計算の法則を考えて求める問題や、条件を読み取って求める問題に課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本人の課題を教師側が常に意識し、日々の授業において課題点と関連づけられる内容の際は、時間をかけて重点的に指導する。 ○基礎基本をしっかりと定着させるべく、反復練習を続ける。 ○四則計算の意味や使い分けを、しっかりと確認する。
英 語	<ul style="list-style-type: none"> ○書くことの領域では、良い成果を出すことができている。 ○1人ということ、こまめにライティングの指導が行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○聞くこと、話すことの領域で思ったように成果が出せていなかった。特に、話すことの領域では無解答が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話すことの領域では、ALTとの個別インタビューの中で即興性が上がるような取り組みを行いたい。 ○聞くことの領域をあげる為に、帯活動としてリスニングやディクテーションを行う。
児 童 生 徒 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○生活習慣や学習習慣は、ある程度身に付いている。 ○生活習慣・学習習慣はある程度身に付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家族や地域とのコミュニケーションに課題がある。 ○英語の活用場面に有用感を感じていない。 ○国語への関心は算数に比べると低い。 ○規範意識は高いが、自己有用感は低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他学年との交流を多くもうけることによって、コミュニケーション能力を伸ばしたい。 ○国語に興味関心を高められるように工夫する。 ○スモールステップによって達成感を味わわせていく。

※上段は第9学年、下段は第6学年（英語は第9学年のみ）

<学校全体で重点的に取り組む事項>

- 基礎的の知識の定着を図りつつ、思考力・表現力を高められるよう、一人一人の課題を把握し、実態に応じた対応を行う。
- 各教科・領域や日常生活との関連をより意識した授業を展開すると共に、そのための校内研修システムを構築する。

佐世保市立浅子小中学校の結果・考察・改善策について

児童生徒数：（前期）29名 （後期）7名 ※9年生【中3】は、在籍なし 学級数：6学級

	成 果	課 題	改 善 策
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ○調査の結果からわかったことをまとめて書く問題で、県や国の平均を上回っている。 ○ひらがなの部分を漢字を使って書き直す問題で、県や国の平均を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○調べたことを報告する文章の資料の目的を選択する問題や目次から読むべきページを選ぶ問題で、県や国の平均を下回っている。 ○インタビューの場面に合った質問を選択する問題で、県や国の平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他教科においても調べたことをまとめさせたり、資料を効果的に活用したりする機会をできるだけ設けるようにする。 ○「対話的な学習」をさらに取り入れていく中で、相手意識を持った、質問の工夫ができるようにする。
算 数 ・ 数 学	<ul style="list-style-type: none"> ○グラフからわかることを選ぶ問題で、県や国の平均を上回っている。 ○日常生活の事象を数理的に捉え判断する問題（ゴンドラにのる待ち時間を求める立式）で、県や国の平均を上回っている。 ○算数は、無解答がなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成する問題で、県や国の平均を下回っている。 ○四則の混合した整数と小数の計算をする問題で、県や国の平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体物の操作を十分に体験させるようにする。また、図形学習において、辺や角といった着目すべき点について、再度確認させる。 ○基礎基本事項を確実に習得させるとともに、身につけたことを活用して発展問題に取り組んだり自分の解き方を説明したりする実践を重ねる。
英 語	<ul style="list-style-type: none"> ※9年生（中3）の在籍がないため、実施していない。 		
児 童 生 徒 質 問 紙 調 査	<ul style="list-style-type: none"> ○起床時間や朝食の習慣については、だいたい身につけている。 ○国語や算数の学習の必要性や社会に出てからの有用性を感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1日の読書の時間が県や国の平均を下回っている。 ○自分の考えを書いたり話したりする機会が少ない。少人数であることから、自分の考えを話したり、説明したりする機会が十分ではないと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭や学童と連携を取りながら、読書の時間を増やしていく取り組みを行っていく。 ○校内研修等で、本校に合った「対話的な学習」の工夫についても研修を深めていくようにする。

＜学校全体で重点的に取り組む事項＞

- 義務教育学校の特色を生かし、後期課程教諭の乗り入れ授業を行う中で、学習に対する興味関心をさらに高めるとともに、後期課程教諭の専門的な知識を生かしながら、基礎基本の定着と、言語活動の充実を図る。
- 校内研修において「しっかり聞き取り、深く考え、はっきり話す」言語活動の充実について共通実践事項を定め、全校一斉に取り組む。
- 通信、育友会の集まりや学校支援会議等で、読書の習慣、家庭学習の重要性を訴えながら、児童生徒の学力向上を図っていく。

<参 考>

平成31年度（令和元年度）

佐世保市学力調査及び長崎県学力調査

<佐世保市の結果・改善策等について>

平成31年度（令和元年度）佐世保市学力調査及び長崎県学力調査【小学校】

＜佐世保市の結果・改善策等について＞

I 佐世保市学力調査

1 調査対象・人数

（国語・算数）小学校及び義務教育学校前期課程 第4学年・・・2, 215名

2 教科別領域別結果

教科	国語					算数				
	話す 聞く	書く	読む	言語	全体	数と計算	量と測定	図形	数量関係	全体
市平均正答率	60.6	53.5	68.9	66.9	64.2	73.3	71.3	78.1	52.6	70.4
全国平均正答率	62.0	58.5	72.8	71.4	68.1	76.8	76.9	81.2	57.9	74.6
全国比達成率%	97.7	91.5	94.6	93.7	94.3	95.4	92.7	96.2	90.8	94.4

3 課題と分析及び改善策（○：成果 ◎：改善傾向 ▲：課題 ■：継続課題）

教科	課題 ※【問題番号】	平均正答率	改善策（例）
		市 国	
国 語	○ 話題に沿った意見と理由を考えて話すことができる。		
	■ ローマ字のつづりを理解することができる。【3(2)】	46.4 55.7	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学びにつなげるために、生活の中で使われているローマ字を取り上げ、便利さを実感させる。 誤答率が48.5%と多い。書き表し方の規則性及び原則と例外をしっかりと身に付けさせる。 授業の中で、ローマ字を活用する場面を増やす。教科の調べ学習におけるPC入力等で繰り返し使うことで、読み方、使い方の定着を図る。
	▲ 指定された長さで文章を書くことができる。【7】	45.1 50.2	<ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」の学習に限らず授業の振り返りの場面等においても、理由や事例などを挙げながら書く学習を取り入れる。
	▲ 2段落構成で文章を書くことができる。【7】	44.9 51.4	<ul style="list-style-type: none"> 書く活動を授業の中で意識して設定する。（児童が書く機会を増やす。）

算 数	○ 小数のしくみや相対的な大きさについて理解している。		
	○ 正三角形の作図ができる。		
	◎ 余りを切り上げて処理する問題ができ、その理由を説明できる。		
	■ 分数の数直線上での表し方について理解している。 【4(1)】	62.3	<ul style="list-style-type: none"> 分割分数と量分数の違いについて、単位を確認したり、具体物等で、実感をもって理解させる。 分数の計算の仕方を考える授業においても、何を「1」と捉えているのかを意識させることで、理解を深める。
		71.2	
	▲ 道のりの意味や長さの大小の表し方を理解している。 【10(1)】	59.9	<ul style="list-style-type: none"> 道のりと距離の意味の違いを、地図等で確認するだけでなく、実際に歩く活動等を設定し、実感をもって理解させる。
73.7			
▲ 小数の減法計算ができる。 【1(9)】	43.3	<ul style="list-style-type: none"> 位が大きくなっても、小数でも同じ仕組みであることに気付かせ、十進位取り記数法のよさを実感させる。 なぜ位をそろえるのか、繰り下がりの意味や方法を、半具体物を用いて、視覚的に理解させる。 	
	52.4		

II 長崎県学力調査

1 調査対象・人数

(国語・算数) 小学校及び義務教育学校前期課程 第5学年・・・2, 234名

(理科) 小学校及び義務教育学校前期課程 第6学年・・・2, 225名

2 教科別領域別結果

(1) 小学校及び義務教育学校前期課程 第5学年

教科	国語					算数				
	話す 聞く	書く	読む	言語	全体	数と計算	量と測定	図形	数量関係	全体
市平均正答率	71.5	50.8	49.3	52.8	55.3	63.0	62.0	53.8	54.9	58.0
県平均正答率	72.4	53.5	51.3	56.8	58.1	66.3	64.7	56.7	56.7	60.6
県比達成率%	98.8	95.0	96.1	93.0	95.2	95.0	95.8	94.9	96.8	95.7

(2) 小学校及び義務教育学校前期課程 第6学年

教科	理科				
領域	物質	エネルギー	生命	地球	全体
市平均正答率	34.8	55.4	62.9	70.5	54.9
県平均正答率	34.3	55.3	62.5	72.5	55.1
県比達成率%	101.5	100.2	100.6	97.2	99.6

3 課題と改善策 (○：成果 ◎：改善傾向 ▲：課題 ■：継続課題)

教科	課題 ※【問題番号】	平均正答率	改善策(例)	
		市		
		県		
国語	○ 話の内容に関心をもって聞く。			
	■ 文章の間違いに気づき、正しく書き直す。【3二】	50.9	<ul style="list-style-type: none"> 無解答率が20%を超えており、常体と敬体についての理解が十分ではない。実感を伴って理解を深めさせるために、日常生活での場面を捉え、常体と敬体について感じ方や使い方の違いを話し合わせる。 教科を問わず、文章を読むときは、文末表現に気を付けて読ませる。 常体でまとめるなど授業のまとめや気づきを書かせる時に意図的に文末表現に意識を向けさせる。 	
		55.2		
	■ ローマ字で正しく書く。【1四】	34.0		※佐世保市学力調査参照
		39.0		
	■ 漢字を正しく書く。【3五(1)】 ※数値は3問の平均	63.1		<ul style="list-style-type: none"> 漢字ノートによる繰り返し書く練習だけでなく、語彙ノート等をつくり、意味や用例を記入させることで使い方を理解させる。
68.3				
■ 漢字を正しく読む。【3五(2)】 ※数値は2問の平均	53.6	<ul style="list-style-type: none"> 漢字学習の仕方を指導する。例えば、漢字の成り立ちや用例、書き順など1字1字について理解が深まるように練習させる。 		
	58.1			
算数	○ 整数や小数の減法の計算をすることができる。			
	◎ 四則混合の計算をすることができる。			
	■ 分数の意味や表し方について理解している。【2(2)あ】	44.5	※佐世保市学力調査参照	
		51.6		
	■ 場面と図を関連付けた2つの数量関係を理解している。【3(ア)】	24.0	<ul style="list-style-type: none"> 倍概念、割合等において、かけ算の意味(一つ分×いくつ分=全体の数)を関連付けながら理解させる。 数量関係を図に整理する活動を、低学年から取り入れ、全体と部分や、基準量・比較量・割合(倍)視覚的に捉えることができるようにする。 	
31.3				
■ 作図に用いられている平行な二つの直線の性質について理解している。【4(1)】	20.6	<ul style="list-style-type: none"> 作図の方法を理解させるだけでなく、作図を通して、図形等の定義、性質を実感させる。 		
	28.3			
▲ 棒グラフや折れ線グラフが示している数量の大小を読み取ることができる。【8(2)】	22.4	<ul style="list-style-type: none"> 棒グラフ、折れ線グラフの学習後、生活の中から様々なグラフ(組み合わせたグラフ等)を探る活動やそのグラフから分かること、気づきを話し合う活動を取り入れる。 		
	25.5			
理科	○ 適切にトンボの幼虫を観察できる方法を構想できる。			
	○ 昆虫の成長や流水の働きについて、科学的な言葉や概念を理解している。			
	■ 同じ体積でも、物の種類が違えば重さが違う場合があることを理解している。【4(1)】	16.0	<ul style="list-style-type: none"> 複数の物を、体積を同じにして重さを調べる際に、手ごたえの体感から重さを予想して実測したり、同時に持ったりするなどして、重さの違いを実感させる。 	
		20.3		
▲ 電流の大きさを調べる実験の技能が身に付いている。【3(2)】	36.1	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が、簡易検流計を使って調べる機会を設定するとともに、調べてわかったことや検流計を使った良さについて、整理する活動を取り入れる。 		
	35.7			

Ⅲ 考察

県学の小学校理科において、県とほぼ同程度にある。しかし、国語、算数においては、全国または県の平均正答率を下回っている現状である。

全体において、次の2点が継続した課題としてあげられる。

- ・基礎的・基本的な知識・技能の定着が図られていない。
- ・複数の情報から、求められている条件等を踏まえて的確に読み取る力が十分でない。

小学校低学年から、学んだことを他教科等に生かしたり、生活の中で活用したりする機会を意識的に設定することで、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることが必要である。また、文章の要約や聞いたことを箇条書きにまとめる活動や、様々な情報について、視点やテーマを決めて話し合う活動を設定する等、情報を整理する力を高めていくことが求められる。

今後、各学校において、児童に身に付けさせたい力を明確に位置付けた単元づくり、身に付けさせたい力につながる「めあて」と「まとめ」の位置付け等、質の高い授業を目指した校内研修を行うことで授業改善を進め、市全体の改善をはかっていきたい。

以下、各教科についての考察は以下の通りである。

【国語】

- ほとんどの設問において、全国や県の平均正答率を下回っている。基礎的・基本的な知識・技能の未定着は継続課題である。特に漢字の習得は、改善策を例のひとつとして、実態と学びを適切につなげていく工夫が求められる。「常体と敬体との違いに注意しながら書くこと」や「漢字の読み書き」は、単元で扱う時の指導を踏まえて、物語文や説明文を読む時や生活の中で繰り返し確認することで、習得し活用できる力を身に付けさせたい。
- 「単元で身に付けさせたい力」を精選すること、指導事項を厳選することで、確実な力を身に付けさせたい。特に、課題が見られる「書くこと」において、目的や必要に応じて理由や事例をあげて文章を書く力は、1時間の授業の中だけでなく、1年間の各単元の学びの中で意図的・計画的に育みたい力である。さらに、他の教科においても根拠を示しながら自分の考えを述べたり書いたりする活動を積極的に取り入れていくことが求められる。

【算数】

- ほとんどの設問で全国を下回っている。特に基本的な知識・技能において、全国・県平均との差が大きい。低学年から、学習内容の確実な定着が求められる。さらに、計算等の反復練習とともに、「なぜそうなるのか」意味理解を伴った定着を図り、生きて働く「知識・技能」として活用できるようにすることが大切である。そのためには、単元構成が核になる。単元づくりの際に、全体の見通しをもち、1時間1時間の単元における役割を考え、本時が、思考を深める時間なのか、習熟を図る時間なのか等、身に付けさせたい力を明確にした授業づくりが必要である。
- 記述の問題や複数の情報から適切に読み取る問題において無解答率が高い。日々の授業の中で、着目すべきところや考えるための見通しをもたせることと、自分の考えを書く活動を取り入れることの積み重ねが大切。その際、表出させたい内容を教師がもっておくことで、適切な助言、発問ができる。また、市学の小数の減法で無解答率が9.8%であった。計算技能において、何も書けない児童が約1割。算数は、学習したことを活用して問題を解決し、新たな学びを獲得していく教科である。日々の授業で、既習を生かして問題を解決する経験を積み重ね、分からない問題にも挑戦する姿勢を育てたい。

【理科】

- 「物質」の領域について、平均正答率が低い。科学的な言葉や概念を理解させるとともに、学んだことを自然の事物・現象に適用できるようにすることが求められる。実際の自然の事物・現象を、科学的な言葉や概念を用いて説明する場面を設定したり、既習の内容や生活経験と関係付けて話し合う場を設定したりすることが大切である。また、その際、事物・現象の様子を絵や図等を用いて表現することで、質的・実体的な視点でとらえることができるようにする。
- 実験に関する設問において、平均正答率が低い。探究の過程（気づき→問題設定→予想や仮説の設定→検証計画の立案→観察・実験の実施→結果の処理→考察→結論の導出）を通じた学習活動を大切にする。さらに、実験の前に、予想が確かめられた場合に得られる実験結果の見直しを行い、見直しをもって実験を構想できるようにする。また、観察や実験の結果をもとに、「事実」と「解釈」の両方を整理して説明する活動を設定し、実験結果をもとに分析して考察し、その内容を記述できるようにすることが大切である。

平成31年度（令和元年度）佐世保市学力調査及び長崎県学力調査【中学校】

＜佐世保市の結果・改善策等について＞

I 佐世保市学力調査

1 調査対象・人数

（国語・数学）中学校及び義務教育学校後期課程 第1学年・・・2,023名

2 教科別領域別結果

教科	国 語					数 学				
	話す 聞く	書く	読む	言語	全体	数と式	図形	関数	資料の活用	全体
市平均正答率	85.3	65.4	70.6	61.9	67.7	75.4	69.0	66.0	67.3	69.6
全国平均正答率	85.0	70.4	70.7	65.3	70.4	77.0	70.7	69.1	70.1	71.9
全国比達成率%	100.3	92.3	99.9	94.8	96.2	97.9	97.6	95.5	96.0	96.8

3 課題と分析及び改善策（○：成果 ◎：改善傾向 ▲：課題 ■：継続課題）

教科	課 題 ※【問題番号】	平均正答率		改 善 策（例）
		市	国	
国 語	○ 話の内容を正確に聞き取ることができる。（昨年度と同様） ○ 聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができる。 ○ 登場人物の様子をとらえることができる。			
	▲ 登場人物の心情をとらえることができる。 【5（2）】	39.1 39.0		・ テキストの一部分についての読解だけでなく、テキスト（文章）全体という視点でその内容をとらえる力を伸ばすために、場面や段落といった小さなまとまりでとらえるだけでなく、読解の目的や視点を絞りながら文章全体を読み取るような活動を取り入れる。
	▲ 自分の考えが伝わるように、図表を用いることができる。 【6（3）】	20.4 21.9		・ 様々な形式の読解活動に対応できるようにするために、複数のテキストや多種多様なテキストを比較したり分類したりすることを通して考えたことを表現する活動に取り組みせるとともに、その学習過程を生徒自身が自己評価する活動を設定する。
数 学	○ 分数×分数（約分なし）の計算ができる。 ○ 表から平均を求めることができる。 ○ 比の式について理解している。			
	▲ 円周の長さを求める式を選ぶことができる。 【5（1）】	49.2 57.8		・ 「図形」領域に限らず、求め方を言葉の式で表す活動を取り入れる。また、求め方を立式した後、説明する場面で「この式で何を求めたか」を明確化した説明ができるように仕組んでいく。
	■ 歩合について理解し、割引後の代金を求める式を選ぶことができる。 【13（2）】	47.4 54.2		・ 「数量関係」領域では、視覚的に捉えやすく、日常生活にそった内容を取り入れた授業展開を工夫する。

II 長崎県学力調査

1 調査対象・人数

(国語・数学) 中学校及び義務教育学校後期課程 第2学年・・・1, 936名

2 教科別領域別結果

教科	国語					数学				
	話す 聞く	書く	読む	言語	全体	数と式	図形	関数	資料の活用	全体
市平均正答率	69.4	60.4	57.8	69.5	64.7	54.1	43.5	62.9	48.4	52.9
県平均正答率	71.4	63.4	59.9	73.7	67.5	58.5	48.8	66.9	54.5	57.6
県比達成率%	97.2	95.3	96.5	94.3	95.9	92.5	89.1	94.0	88.8	91.8

3 課題と改善策 (○：成果 ◎：改善傾向 ▲：課題 ■：継続課題)

教科	課題 ※【問題番号】	平均正答率		改善策(例)
		市	県	
国語	○ 文脈上の意味に注意し、適切な熟語を選ぶ。 ○ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら話す。			
	▲ 文章の特徴をとらえる。 【2-(2)い】	31.9	33.9	・「読むこと」と「表現すること」を連動させるのに加え、「表現すること」と「評価し合うこと」とをつなげた学習活動を適切に設定する。さらに、丁寧に根拠を示しながら自己の考えを表現するとともに、根拠の適切さについても議論するような活動を設定する。
	▲ 登場人物の心情をとらえる。 【2-(1)あ】	43.8	46.6	・「何を」「何のために」読み取るのかという目的意識を持たせようとして、読解活動に取り組み始める授業を展開するとともに、教材となるテキストを複数準備し、比較や分類などする活動に取り組みさせる。
	▲ 登場人物の人物像をとらえる。 【2-(2)あ】	39.7	42.2	
数学	○ 数量を文字式で表すことができる。 ○ 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。			
	▲ 累乗の計算ができる。 【1(1)】	57.7	63.2	・累乗の計算方法が定着していないため、「 -5 の2乗」「 (-5) の2乗」の違いを説明する活動を取り入れる。また、誤答の例を出し、どのように間違えているのかを考えさせる活動を仕組む。
	■ 分数を含む一元一次方程式を解くことができる。 【3(2)】	32.7	38.4	・分数、小数を含む方程式については「能率よく」解くために、どのような手順がよいのか、多様な手順の中から生徒が主体的に気付く活動を取り入れる。
	■ 円柱の表面積を求めることができる。 【5(2)②】	30.0	37.1	・円柱の展開図を利用して、操作活動を取り入れ、視覚的に捉えられるように工夫する。
	▲ ヒストグラムからある階級の相対度数を求めることができる。 【7(1)】	40.6	48.6	・授業で用いる資料として、身近な題材を用いることで生徒も考えやすくなる。また、相対度数を学ぶことでどのような発見があるのかを考えさせる授業を取り入れる。

Ⅲ 考察

市学の中学校国語「話す・聞く」で全国の平均正答率を上回ったが、他の教科領域において全国または県の平均正答率を下回っている現状である。

全体において、次の2点が継続した課題としてあげられる。

- ・基礎的・基本的な知識・技能の定着が図られていない。
- ・複数の情報から、求められている条件等を踏まえて的確に読み取る力が十分でない。

小学校から、学んだことを他教科等に生かしたり、生活の中で活用したりする機会を意識的に設定することで、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることが必要である。また、文章の要約や聞いたことを箇条書きにまとめる活動や、様々な情報について、視点やテーマを決めて話し合う活動を設定する等、情報を整理する力を高めていくことが求められる。

今後、各学校において、生徒に身に付けさせたい力を明確に位置付けた単元づくり、身に付けさせたい力につながる「めあて」と「まとめ」の位置付け等、質の高い授業を目指した校内研修を行うことで授業改善を進め、市全体の改善をはかっていきたい。

以下、各教科についての考察は以下の通りである。

【国語】

- 第1学年の「話すこと・聞くこと」の領域では、正答率が全国平均を上回るなど、改善の兆しがみられる。しかし、調査対象となったどちらの学年においても、テキストの分量や数が多くなった際に、必要な情報を取捨選択しながら抜き出したり、読み取った情報同士を効果的に関連付けたりすることに課題が見られる。これは、昨年度の第2学年にも見られた課題である。また、読み取ったことを基に、効果的に表現することについては、昨年度の第1学年に引き続き課題が見られる。日々の授業の中で、目的意識をもって読解をし、読解した内容を表現することや互いに評価し合う活動にまでつなげていく場面（複数の領域を適切に関連させる学習活動）を積極的に取り入れる必要がある。

【数学】

- すべての領域で、正答率が全国平均を下回っている。今年度の学習の基礎となるのは、前年度までの履修内容である。したがって、今回不十分だった内容は、しっかりと生徒へ返し、実力テスト等で取り入れることで定着の程度を確認することが重要である。円柱の表面積は昨年度からの課題であり、正答率は昨年度より低く改善傾向が見られない。どの領域についても言えることだが、形式的に求め方を覚えるのではなく、「どうしてそうなるのか」という意味の理解を深める必要がある。そして、受け身の態度で授業に参加した内容はなかなか記憶に残らないため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことが、生徒の授業に臨む姿勢を変えるヒントになる。
- 記述の問題になると、無解答率が高い。普段から自分の考えを書く活動を取り入れ、意見を共有、比較したり、他者へ説明したりするなど、自己肯定感や共感的理解を高める工夫が必要である。そして、苦手だからできないではなく、問題に挑戦する姿勢を認め、育てていくことが重要である。